

令和2年度第1回四街道市保健福祉審議会地域福祉部会 会議次第

令和2年8月21日（金）13：30～
四街道市保健センター3階第2会議室

1 開 会

2 部長あいさつ

3 部会長選出

4 議 題

第3次四街道市地域福祉計画に係る

- ①現行計画（第2次計画）の進捗状況について（報告）
- ②第3次計画策定に係るアンケートの結果について（報告）
- ③第3次計画策定に係る意見交換会の結果について（報告）

5 閉 会

第2次四街道市地域福祉計画（計画期間：平成28年度～令和2年度）取り組み状況シート

資料 1

<①実施評価> ○ = 十分に取り組むことができた ◯ = 概ね取り組むことができた △ = あまり取り組むことができなかった × = ほとんど取り組むことができなかった

<②今後の方針> A=充実 B=継続 C=縮小 D=廃止

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
基本目標 1 身近な地域での助け合いの関係づくり										
1-1 一人ひとりの顔が分かる地域のつながりづくり										
		1 1	① ふるさとまつりの開催 市民がふるさと意識を共有し、若い世代に伝えていける郷土の祭りとなるように、「四街道ふるさとまつり」を継続して開催します。	自治振興課	ふるさとまつり事業	毎年8月多くの市民や団体が参加するふるさとまつりを実施し、ふるさと意識の醸成を図った（令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため翌年度に延期）。	○	ふるさとまつりにおける経費は市負担金より支出しているが、今後市の財政状況や実行委員会・参加団体などの意見を踏まえ、内容や手法などの見直しを進めて、コストの縮減を図る必要がある。	市民がふるさと意識を共有し、市民同士の連帯感を生み、子どもや若い世代にふるさと四街道の良さを伝えるイベントとして継続していく。	B
		1 1	② 区・自治会活動への助成・支援 市民自治組織の健全な発展と活発なコミュニティ活動を支援するため、区・自治会活動に対する助成・支援を行います。	自治振興課	市民自治組織運営補助事業	市民自治組織助成金及びふるさとづくり事業助成金並びにコミュニティ助成事業補助金の支援をすることで、市民自治組織のコミュニティ活動の活性化、健全な育成及び住民福祉の向上を図った。	○	市民自治組織への加入率が減少傾向にあることから、加入率向上の対策が必要である。また、市と市民自治組織の役割分担が明確になりつつある現状を踏まえると、市民自治組織が担うべき事業が増えてきており、地域コミュニティの活性化を図るうえからも行政の支援が、厳しい財政状況ではあるが、より一層必要である。	地域を快適で住み良いまちにするためには、基盤となる市民自治組織が活性化することから継続していく。	B
		1 1	③ 親子のふれあいの場の提供 児童センターで実施する子育て支援事業や公民館での育児講座等、親子のふれあいの場の提供を通じ、子育て世代の仲間づくりを支援します。	子育て支援課	児童センター運営委託事業	四街道社会福祉協議会を指定管理者に指定し、児童センター 2カ所の運営を行った。 親子ふれあい広場等をはじめとする各種イベントを開催し、親子のきずなの創出や仲間づくりの場を提供した。 令和元年度実績 親子ふれあい広場（1歳児）31回、818人	○	これまで親子の居場所となっていた児童センターにおいては、保育施設の充実に伴い、2歳児3歳児対象の事業ニーズに減少が見られる。	開催事業の見直しを行い、地域のニーズに即した事業開催に取り組む。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		1 1		社会教育課	公民館管理運営事業	公民館において「2、3歳児ひよこ教室」などの育児に係る主催講座を実施することで、子育て世代の仲間づくりを支援した。	○	公民館主催講座は、指定管理者がプログラムを作成するため、市の意見が反映されるよう指定管理者と調整を図る必要がある。	指定管理者と調整を図りながら、各種事業を実施するなど公民館の運営を通じ、親子のふれあいの場の提供、子育て世代の仲間づくりを支援していく。	B
		1 1	④ シニアクラブやシニアクラブ連合会への活動支援 シニアクラブやシニアクラブ連合会への活動支援を通じ、高齢者の交流活動を支援します。	社会福祉課	シニアクラブ支援事業	四街道市シニアクラブ連合会及び市内各単位クラブに対し、事業運営にかかる費用の一部を補助するとともに、シニアクラブが実施する大会などへの同行や相談支援を行った。	○	他事業の事務量の増加などにより大会などへの同行など、出張を伴う事業への参加が困難となることが予想される。	シニアクラブが高齢者の交流活動の拠点として機能できるよう、今後も継続して支援していく。	B
		1 1	⑤ 就学前児童と高齢者との交流支援 高齢者福祉施設や高齢者サークル等との交流や高齢者ボランティアの受け入れにより、保育所等での高齢者との交流を促進します。	保育課	該当なし	いくつかの保育施設においては、老人福祉施設に行き、歌や手遊びなど高齢者との交流活動を行っている。	○	児童の安全の確保が必要である。	新たに策定された「こどもプラン」においても高齢者との交流を位置づけていることから、引き続き児童の安全を図りながら交流促進を図っていく。	B
		1 1	⑥ 世代間交流の推進 公民館における講座開催や、シニアクラブが行う子どもへのグラウンドゴルフ指導等、地域の実情に応じた活動についての支援をすることで、世代間交流の活性化を図ります。	社会教育課	公民館管理運営事業	公民館において「親子工作教室」などの複数の世代が参加できる主催講座を実施することで、世代間交流の活性化を図った。	○	公民館主催講座は、指定管理者がプログラムを作成するため、市の意見が反映されるよう指定管理者と調整を図る必要がある。	指定管理者と調整を図りながら、各種事業を実施するなど公民館の運営を通じ、世代間交流の活性化を図っていく。	B
		1 1		社会福祉課	シニアクラブ支援事業	四街道市シニアクラブ連合会及び市内各単位クラブに対し、事業運営にかかる費用の一部を補助するなど、活動の支援を行った。なお、シニアクラブにおいて、地域パトロールや子どもへのグラウンドゴルフ指導など、世代間交流が行われた。	○	特になし。	シニアクラブが高齢者の交流活動の拠点として機能できるよう、今後も継続して支援していく。	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
		1 1	⑦ 地域の人材や教育力を学校教育に生かす体制づくりへの支援 学校支援地域本部事業を推進し、区・自治会やシニアクラブ、ボランティアグループ等、地域の人材や教育力を学校教育に生かす体制づくりを支援します。	社会教育課	学校支援活動事業	各校の教育目標に沿って、学校・地域の実態に応じて、地域コーディネーターが中心となり、学習支援ボランティア、環境整備ボランティア、交通安全ボランティア等を募集した。学校の教育活動の様々な場面において、児童生徒がボランティアの支援を受け、学習活動の充実とともに、学校、地域、家庭の連携の強化につながった。	○	どの学校においても、地域住民がボランティア活動への積極的な参加が図れるよう支援していく。	地域住民にも事業の趣旨を理解してもらうため、ボランティアによる学校支援の様子を積極的に学校だより等に掲載してより周知し、さらなる学校、地域、家庭の連携の強化を図る。	B
1-2 気軽に立ち寄れる場所の確保										
		1 2	① 地域の交流・活動の場の設置・運営支援 地区集会所の建設・修繕や管理等を通して、地域の交流・活動の場の設置・運営を支援します。	自治振興課	コミュニティ施設維持管理事業	市民自治組織が使用する集会所の建設費、修繕費、備品費、管理費に対し、その経費の一部を補助することで、地域のコミュニティ活動の安定化や活性化を図った。	○	市内の市民自治組織の約8割が集会所を有している中で、建物等の老朽化が進んでおり、厳しい財政状況ではあるが、維持管理に係る経費の補助の需要が増加していくものと考えられる。	地域住民のコミュニティ活動の拠点となる施設の維持管理に係る経費を補助することで、地域のコミュニティ活動の安定化や活性化が図られることから継続していく。	B
		1 2	② 地域福祉の拠点づくりの支援 総合福祉センター、南部総合福祉センターわろうべの里の活用と充実を通して、地域福祉の拠点づくりの支援を行います。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	地区社会福祉協議会が地域の拠点づくりを行うに当たって、南部総合福祉センターわろうべの里のボランティアキャンプの一部を活用することで、拠点づくりの支援を行った。	○	公共施設の余裕スペースは限られていることから、団体の要望に応じられないことがある。	総合福祉センター、南部総合福祉センターわろうべの里の利用状況を踏まえながら、引き続き拠点づくりの支援を行う。	B
		1 2	③ 地域福祉活動の拠点づくりの推進 市民の自主的な福祉活動を支援するため、公共施設等の地域資源の活用を検討し、地域福祉活動の拠点づくりを進めます。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	地区社会福祉協議会が地域の拠点を整備するに当たって、「千代田中学校地区地域福祉館」及び「四街道小学校木造校舎」の余裕スペースを活用することで、公共施設等の地域資源を活用した拠点づくりを推進した。また、社会福祉基金を原資とする「地区社会福祉協議会活動拠点整備等事業補助金」を創設し、地区社会福祉協議会が地域において活動するための拠点づくり及び地域活動の支援を行うことにより、地域福祉の推進及び地域の活性化をすることができた。 拠点設置数：5カ所 (令和2年度整備予定1カ所を含む)	○	補助金の原資が社会福祉基金となることから、当該基金の状況を注視しながら事業を行う必要がある。	今後も公共施設等の活用に係る相談支援や補助金交付を通じて、地域福祉活動の拠点づくりを推進する。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		1 2	④ 小・中学校の余裕教室の活用 地域の身近な生涯学習活動の場として、小・中学校の余裕教室の活用を行います。	スポーツ青少年課	小中学校施設開放事業	小・中学校の余裕教室を開放して地域に貢献した。 令和元年度実績 利用登録団体 1 1 団体 延べ利用日数 1 1 7 日	○	利用時の施設管理を委託しており、人件費の高騰がネックとなる。	引き続き余裕教室の活用を図っていく。	B
		1 2	⑤ 小・中学校の体育施設の開放 身近なスポーツ・レクリエーション活動の場として、小・中学校の体育施設の開放を行います。	スポーツ青少年課	小中学校施設開放事業	小・中学校の体育施設を開放して地域に貢献した。 令和元年度実績 利用団体数 2 4 6 団体 利用登録人数 3 , 9 1 8 人	○	利用者による施設の損壊や鍵の紛失・破損が後を絶たず、対応に苦慮している。	利用者へは十分に注意事項を周知しながら、引き続き学校体育施設の利用を促進する。	B
		1 2	⑥ 商工業者が地域と連携する活動支援 空き店舗等活用事業補助金の交付や商工会の中心市街地活性化委員会への活動補助により、商工業者が地域と連携する活動の支援を行います。	産業振興課	中心市街地等活性化事業	空き店舗等活用事業を活用する事業者の募集を行い、認定された事業者に対して補助金を交付することで、商工業者が地域と連携する活動の支援を行った。 空き店舗活用事業補助金認定者数 平成28年度 0人 平成29年度 1人 平成30年度 2人 令和元年度 1人	○	地域への貢献を重視する事業者に空き店舗を活用してもらえよう、制度を広報する必要がある。	引き続き、空き店舗を活用する事業者を募集し支援することで、商工業者と地域との連携を強めていく。	B
		1 2	⑦ プレーパーク事業の充実 子どもの冒険心や好奇心を引き出す遊び場として、自然の中で思いきり遊べるプレーパーク事業の充実に努めます。	子育て支援課	プレーパーク運営事業	既存の公園にはない、ノコギリやかなづち等の道具、土や木などの要素が身近にある環境で、子どもたちが自由な発想で遊びを展開し、工夫すること、協力することの楽しさを体験できるプレーパークを、非営利活動法人四街道プレーパークどんぐりの森に委託して運営しました。 令和元年度実績 どんぐりの森 105日、5,126人 出張プレーパーク 30日、1,441人	◎	特になし。	今後も当該事業を通じて、プレーパークの運営を継続する。	B
		1 2	⑧ 地域子育て支援拠点の整備 保護者同士の交流や育児等の悩みを気軽に相談できる地域子育て支援拠点（子育て支援センター）の設置を、未設置の保育所及び保育所新設の際、事業者に働きかけます。	保育課	該当なし	市内保育所等へ子育て支援拠点（子育て支援センター）事業の実施を働きかけた。 令和2年4月1日現在の子育て支援センター数は11箇所である。	○	保育士の確保状況から、支援センターの職員配置が困難な場合が多い。未設置・新設する保育施設に対する働きかけも困難な状況である。	保育施設を新設する場合に子育て支援センター事業の実施を働きかける。	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
		1 2	⑨ 各種サロンの運営支援 地区社会福祉協議会が実施する子育て中の親や子ども、高齢者のコミュニティづくりの場である各種サロンの運営支援を行います。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	「地区社会福祉協議会活動拠点整備等事業補助金」により、地区社会福祉協議会が実施する各種サロン運営に対して補助金を交付することで、運営支援を行った。 サロン実施実績（令和元年度） 高齢者会食サロン：9カ所 子育てサロン：4カ所	○	補助金の原資は社会福祉基金であるため、当該基金の状況を注視しながら事業を行う必要がある。	今後も公共施設等の活用に係る相談支援や補助金交付を通じて、地域福祉活動の拠点づくりを推進する。	B
		1 2	⑩ 「シニア憩いの里」の設置・運営 中学校区単位を基本に、高齢者が気軽に集い、楽しめる場として、市民による「シニア憩いの里」の設置・運営を支援します。	社会福祉課	シニア憩いの里運営支援事業	施設を設置・運営している団体に対し、運営費の一部の補助を行った。現在、千代田中学校地区と旭中学校地区に1カ所ずつ設置されている。	○	自主的に運営する地域の担い手がおらず、設置運営されていない地区がある。	地域住民が自主的に設置する「シニア憩いの里」の運営を引き続き支援していく。	B
		1 2	⑪ 高齢者が集い、楽しめる場所の提供 スポーツ活動の交流の場として、グラウンドゴルフ、ゲートボール等に対応できる多目的な広場のほか、高齢者が集い、楽しめる場所を提供します。	スポーツ青少年課	体育施設管理運営事業	総合公園体育施設・温水プール・市立武道館・鹿放ヶ丘スポーツ広場など各スポーツ施設を整備し、適正な管理・運営に努めた。	○	施設の修繕や改修にかかる多額の経費が見込まれ、財源の確保が課題である。	緊急性の高い施設の不備について優先的に対応していく。また、計画的・効率的に修繕を行う。	B
		1 2		社会福祉課	該当なし	栗山地区に用地を確保し、平成25年度から引き続きグラウンドゴルフ、ゲートボールなどを楽しめる広場として供用している。また、中央公園屋根付多目的運動場においても、グラウンドゴルフ、ゲートボールなど高齢者が集い楽しめる場所として供した。	○	当該広場は地主から無償貸与を受け、区・自治会が管理を行っていることから、今後も財政負担を伴わない取り組みが必要である。	当該広場については、引き続き高齢者が楽しめる場所として活用していく。また、当該広場のように、財政負担を伴わない土地の情報収集に努める。	B
		1-3 地域課題解決活動への啓発								
		1 3	① 地域福祉関連情報の提供 市政だよりやホームページ、パンフレット等により、地域福祉の推進に向けた情報提供や啓発を行います。	社会福祉課	該当なし	社会福祉課執務室付近に地域福祉に関する啓発パンフレットを配架する「地域福祉情報コーナー」を設置することにより情報提供を行った。また、社会を明るくする運動や人権啓発など、各団体の活動推進期間に合わせて、市政だよりやホームページへの掲載及び街頭啓発などを実施した。	○	啓発を行う場所・人員などが限られていることから、効果的な啓発方法を検討する必要がある。	継続して情報提供や啓発活動を行うことで、地域福祉に関する意識の醸成を図っていく。	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
		1 3	② みんなで地域づくりセンターの情報提供の推進 みんな地域づくりセンターのホームページ、SNSや広報紙等を通して、地域活動の情報提供を行うことで、市民による地域づくりの支援を行います。	政策推進課	みんな地域づくりセンター運営事業	みんな地域づくりセンターホームページにおいて、地域活動の情報提供を行った。 また、SNSの活用、みんな地域づくりセンター広報誌「みんなて」による多様な情報発信を行った。 令和元年度実績 みんな地域づくりセンターFacebookいいね数：713件	○	地域活動情報の正確性、迅速性に注意しながら情報発信をしていく必要がある。	みんな地域づくりセンターのホームページ、SNS、広報誌等を通して、地域活動の情報提供の充実を図る。	B
		1 3	③ みんなで地域づくりセンターの運営推進 みんな地域づくりセンターの運営を通して、地域課題の把握に努めるとともに、相互解決に向けたコーディネート活動の充実を図ります。	政策推進課	みんな地域づくりセンター運営事業	地域づくりサロン、各種講座等の実施により、地域課題の掘り起し、解決に向けた取組を図った。また、みんな地域づくりセンターホームページにおいて、地域づくりに関する情報を発信した。 令和元年度実績 みんな地域づくりセンター来所者数：3,358人、相談件数：69件	○	行政内部における課題の共有、課題解決に向けた場づくり等を図るとともに、より充実したコーディネートを図っていく必要がある。	みんな地域づくりセンターの運営を通して、地域課題の把握や行政との連携に努めることで、相互解決に向けた取組を充実させていく。	B
		1 3	④ 地域で取り組む健康づくりの支援 「健康よつかいどう21プラン」を推進し、地域で取り組む健康づくりを支援します。	健康増進課	健康よつかいどう21プラン推進事業	平成30年3月に第2次健康よつかいどう21プランを策定し、目標を達成するために啓発活動、事業を行った。 (令和元年度実績) 21プラン推進事業：11事業・45回実施	○	健康課題の多い、性別・年代別に教室を開催する等の工夫をしているが、健康無関心層への効果的な取り組みが課題である。	令和3年度の間評価に向けて、準備を進め、中間評価の結果をもとに、課題を明確にし、後半5年間で取り組んでいく。	B
		1 3	⑤ 子育て支援サービスの情報提供 子育て情報ブック「すくすく」や、四街道市子育て応援サイト「すくすく」を通して、子育て支援サービスの情報提供を行います。	子育て支援課	子育て情報提供事業	子育て情報サイトは年1回情報を更新し、子育て世帯への情報提供を行った。また県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」と市HPの連携により随時新着情報を発信した。 また、子育て情報ブック「すくすく」は、冊子版、電子版を令和元年度に改定し、子育て世帯へ情報提供を行った。 令和元年度実績 すくすくアクセス件数 14,310件	○	現行の子育て情報サイト「すくすく」は事業者の方針転換により有償が見込まれており、今後、有償による継続または別の方法を検討していく必要がある。	県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」や子育て情報ブック「すくすく」のスマートフォンやタブレットにも対応する電子版を活用し、情報発信を継続する。 また、市ホームページの掲載内容を充実し、発信機能を高めていく。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		1 3	⑥ 保健推進員活動等を通じた啓発の推進 市民の健康づくりに関する知識の普及や意識の高揚に向けて、保健推進員活動等を通じた啓発に努めます。	健康増進課	保健推進員事業	自治会から、市民の健康増進を目的に活動するため推薦された各中学校区の保健推進員が、行政と市民とのパイプ役として、健康づくりの実践活動を広めた。 〈令和元年度実績〉 地域ミニ講座開催、幼児健診での食育活動、広報「ほすい」の発行等、健康増進につながる活動を実施した。	○	保健推進員の活動の場が広がっている反面、活動量も増加し、保健推進員1人あたりの負担が大きくなっていること、任期替時、推薦の難しい地区もあることが課題である。	市民の健康づくり意識向上のため、市民にとって身近な人材である保健推進員による、健康づくりの実践活動を継続して広めていく。また、保健推進員の役割と活動を、市民にPRしていく。	B
		1 3	⑦ 虐待や暴力の防止に向けた啓発の推進 児童虐待防止や配偶者等に対する暴力防止に向けて、市政だよりやホームページを通じた情報提供による啓発に努めます。	子育て支援課	児童虐待防止・DV被害者支援事業	ホームページに児童虐待防止や配偶者等に対する暴力防止に向けた記事を掲載し、また例年、11月1日号の市政だよりにより児童虐待防止推進月間（11月）の記事を掲載し、情報提供に努めている。	○	特になし。	今後も例年同様、啓発に努める。	B
		1 3	⑧ 介護予防普及啓発に向けた情報提供 介護予防普及啓発のため、介護予防教室・健康教育の実施や啓発パンフレットの配布等の情報提供を充実させます。	高齢者支援課	一般介護予防事業	介護予防の方法については、パンフレットの配布、ホームページへの掲載を行っている。また、介護予防のための講座については、窓口での案内配布、市政だよりやホームページの掲載により情報提供を行っている。	○	高齢者の介護予防は非常に重要であり、各個人が生活の中で介護予防に取り組むことが必要である。	引き続き、介護予防の方法や各種講座について、窓口での案内配布、市政だよりやホームページの掲載により、情報提供を行う。	B
		1 3	⑨ 認知症に対する誤解・偏見をなくす活動の推進 認知症に対する誤解や偏見をなくし、正しい知識と理解を広めるため、情報提供や講演会の開催等を通じた啓発を行います。	高齢者支援課	該当なし	認知症サポーター養成講座や、認知症初期集中支援チームによる普及啓発講座等により、認知症に対する正しい知識と理解を深めた。 令和元年度実績（認知症サポーター養成講座15回397人、普及啓発講座等5回111人）	○	高齢化に伴い認知症の方は増加する見込みであり、認知症の方が地域で生活するためには、近隣住民の理解が必要である。	引き続き、認知症に対する正しい知識と理解を広めるため、情報提供を行う。	B

基本 目標	施策 ※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
基本目標2 新たな担い手の育成と活動のネットワーク化									
2-1 新たな担い手の発掘と育成									
	2 1	① ボランティアセンターの運営支援 社会福祉協議会が取り組むボランティアセンターの運営に対する支援を行います。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	ボランティアセンター運営事業に対し、運営費の一部の補助を行うことで、活動の支援を行った。 令和元年度実績 ・年4回ボランティア情報紙を発行。約39,500部/回 ・各種講座の開催 5講座（14回） 延べ145人 ・ボランティア登録 79団体（1,854人）、個人（483人） ・ボランティア連絡協議会登録団体の活動実績 延べ6,950人	○	特になし。	ボランティア活動の支援と連絡調整を担うボランティアセンターを運営する社会福祉協議会の活動に対し、今後も継続して支援していく。	B
	2 1	② 地区社会福祉協議会の運営支援 地区社会福祉協議会の活動、事業を充実させるため、地区社会福祉協議会の運営に対する支援を行います。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	社会福祉基金を原資とする「地区社会福祉協議会活動拠点整備等事業補助金」を創設し、地区社会福祉協議会が地域において活動するための拠点づくり及び地域活動の支援を行うことにより、地域福祉の推進及び地域の活性化をすることができた。 拠点設置数：5カ所 (令和2年度整備予定に1カ所を含む)	○	補助金の原資は社会福祉基金であるため、当該基金の状況を注視しながら事業を行う必要がある。	今後も公共施設等の活用に係る相談支援や補助金交付を通じて、地域福祉活動の拠点づくりを推進する。	B
	2 1	③ 地域づくりを行う市民活動団体への支援 みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）を通して、地域づくりを行う市民活動団体への支援を行います。	政策推進課	コラボ四街道事業	みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）を実施し、補助金の交付等、市民活動団体への支援を行った。 令和元年度実績 コラボ四街道実施事業件数：12件	○	コラボ四街道における補助金交付の上限3年経過後の市民活動団体の事業継続、行政との連携の充実に向けた体制づくり、環境づくりを図っていく必要がある。	行政内部における連携・協力体制の強化を図るとともに、市民活動団体の組織基盤の整備を行い、充実した支援につなげていく。	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
		2-1	④「認知症サポーター」の養成・活動支援 「認知症サポーター」を養成し、見守りができる地域づくりを目指します。また、認知症サポーターとなった人の活動支援について検討します。	高齢者支援課	該当なし	認知症サポーター養成講座を開催し、地域でさりげない見守りができる認知症サポーターを養成した。また、認知症サポーターがより具体的な関わりができるよう、「認知症サポーターステップアップ講座」等を開催し、認知症カフェへ協力いただくことができた。 令和元年度実績（認知症サポーター養成講座15回397人、ステップアップ講座1回36人、ボランティアミーティング1回17人）	○	認知症の方が増加しても、施設や専門職の人数には限りがあるため、認知症の方を地域で支えるボランティアの存在が重要である。	引き続き、認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座等を開催し、地域で認知症の方を支えられるボランティアを増やす。	B
2-2 地域福祉活動のネットワーク化										
		2-2	① みんなで地域づくりセンターのコーディネート機能の充実 市民協働による地域福祉活動の推進に向けて、みんなで地域づくりセンターのコーディネート機能を充実させ、市民活動団体等の連携を図り、活動間・団体間のネットワークの充実に取り組みます。	政策推進課	みんなで地域づくりセンター運営事業	地域づくりサロン、各種講座等の実施や相談対応等を通じて、市民活動団体等の連携を図った。 令和元年度実績 みんなで地域づくりセンター来所者数：3,358人、相談件数：69件	○	多様な市民活動を網羅的に把握し、効果的なコーディネートを行っていくための情報収集等の強化が求められる。	みんなで地域づくりセンターのコーディネート機能の充実を図り、各種講座等を通じて市民活動団体等の連携を図ることで、幅広い団体等のネットワークづくりに努める。	B
		2-2	② みんなで地域づくりセンターとボランティアセンターの連携推進 みんなで地域づくりセンターとボランティアセンターの連携を図り、活動間・団体間のネットワークの充実に取り組みます。	政策推進課	みんなで地域づくりセンター運営事業	みんなで地域づくりセンターが実施する夏休み小学生ボランティア体験において、ボランティアセンターと連携した事業を実施した。 令和元年度実績 夏休みボランティア体験参加者数：82人	○	双方がもつ情報等の資源を、より多く共有し、地域づくりに活かしていく必要がある。	ボランティアセンターと連携を図り、幅広い団体等のネットワークづくりに努める。	B
		2-2		社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	社会福祉協議会の地域福祉活動推進事業及びボランティアセンター運営事業に対し、運営費の一部の補助を行うことで活動の支援を行った。なお、社会福祉協議会（ボランティアセンター）において、両センターの事業実施の際、ボランティア団体の調整や団体・市民への広報支援を行った。	○	特になし。	ボランティア活動の支援と連絡調整を担うボランティアセンターを運営する社会福祉協議会の活動に対し、今後も継続して支援していく。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		2 2	<p>③ 市民協働によるまちづくりの推進 市民協働によるまちづくりを推進するため、地域コミュニティ活動の支援、市民活動団体等と連携・協力するとともに、市民参画の仕組みを適正に運用します。</p>	政策推進課	市民協働推進事業	<p>助成金を使用した事業において、コミュニティ活動の促進に係る事業等を実施し、地域コミュニティ活動の充実・強化を図った。 令和元年度実施事業 長寿社会づくりソフト事業：1件 コミュニティ助成事業：1件</p> <p>みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）を実施し、補助金の交付等、市民活動団体への支援を行った。 令和元年度実績 コラボ四街道実施事業件数：12件</p> <p>みんなで地域づくりセンターが主催する地域づくりサロン、各種講座等を通じて、地域コミュニティ間の情報共有を図り、連携・協力体制づくりを行った。 令和元年度実績 自治会情報交換会参加者数：21人 子どもサポートプロジェクト チラシ印刷数：12,000部 中高生の居場所運営支援：1箇所</p>	○	<p>コラボ四街道における補助金交付の上限3か年経過後の市民活動団体の事業継続、充実に向けた体制づくり、環境づくりを図っていく必要がある。 多様な主体が地域コミュニティに関わる環境づくりをより一層進めていく必要がある。</p>	<p>行政内部における連携・協力体制の強化を図るとともに、市民活動団体の組織基盤の整備や、多様な地域コミュニティが関わり合える場づくりを行い、充実した支援につなげていく。</p>	B
		2 2	<p>④ 地域ぐるみで行う子育てを支援する体制づくり 地域ぐるみで行う子育て支援体制を推進するため、「子育てサロン」を運営する地区社会福祉協議会、地域子育て支援</p>	子育て支援課	児童センター運営委託事業	<p>子どもの居場所・遊び場の充実を図るため、児童センター2カ所の運営を行った。 講座、イベント等の開催を通じて、友達づくりや悩み・不安の相談など、子育て世帯の交流の場を提供した。 また、子育て情報サイトや子育て情報ブック「すくすく」に子育てサークル等の情報提供を行うなど、各団体の交流や連携を促す情報提供を行った。</p> <p>令和元年度実績（南部総合福祉センター） おしゃべりサロン 10回、405人</p>	○	特になし。	<p>児童センターによる子どもの居場所の他に、市民活動団体などと情報を共有し、活動を支援することで、子どもの居場所づくりを推進する。</p>	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		2-2	拠点（子育て支援センター）事業を実施している各保育所や地域の子育てサークル等、関係機関への支援及び連携の強化を図ります。	社会福祉課	該当なし	<p>地区社会福祉協議会が実施する事業や拠点づくりに対して補助を行った。また、地域福祉の担い手である民生委員・児童委員の活動を支援するための補助を行った。</p> <p>実績は、I-2-④ 2-1-② 6-1-④ を参照のこと</p>	○	特になし。	今後も引き続き地区社会福祉協議会及び民生委員・児童委員への支援を行う。	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
------	----	-------	--------	-----	--------	------	-------	----	--------	--------

基本目標3 安全・安心で快適な生活環境づくり

3-1 防災や防犯の仕組みづくり

3	1	<p>① 避難行動要支援者に対する災害時の支援体制の整備 「四街道市避難行動要支援者避難支援全体計画」に基づき、避難行動要支援者名簿等を整備するとともに、区・自治会、民生委員等の協力のもと、避難行動要支援者の災害時の支援体制を整備します。</p>	危機管理室	地域災害対策事業	「四街道市避難行動要支援者避難支援全体計画」に基づく関係部局の対策を支援した。	○	要配慮者への支援体制強化	引き続き、全体計画に基づき、関係部局の支援を行う。	B
3	1		社会福祉課	該当なし	避難行動要支援者名簿の作成・更新を行い、毎年度、新たに避難行動要支援者の対象となった市民に対して区・自治会、民生委員への個人情報提供に係る調査を実施した。同意を得た場合、区・自治会、民生委員に情報提供を行うとともに、区・自治会が主体となって作成する避難行動要支援者の個別支援計画について区・自治会へ相談・支援を行った。 また、出前講座や市政だよりの掲載を行うことにより、当該制度の普及・啓発を図った。 令和元年度末当該制度協力区・自治会：51地区	○	区・自治会の役員は毎年度変更となることが多いため、制度の浸透に時間がかかる。	引き続き「四街道市避難行動要支援者全体計画」に基づく「避難行動要支援者名簿」の整備をするともに、避難行動要支援者の災害時における支援体制を整備する。	B
3	1		高齢者支援課	該当なし	介護保険制度における要介護度が3～5と認定されている方や介護度が1又は2と認定されている65歳以上の一人暮らしの方に案内を発送し、避難行動要支援者台帳への登録の希望を確認している。 また、上記以外の場合においても、単独での避難が困難である方も希望する場合には名簿への登録を行った。	○	相当数の案内を発送しているが、返送率が相当低いいため、いかに返送率を高めるかが課題と考えられる。 * 令和元年度 送付数 523名 返送数 169名	引き続き、名簿整備のための事務を継続し、希望される方の名簿整備を進める。	B
3	1		障害者支援課	障害福祉推進事業	避難行動要支援者の申請については、障害者手帳の新規交付時等に案内を行い、本人もしくは家族の申し出をもとに名簿を作成し、区・自治会への情報提供の体制を整えた。	○	まだ制度に対する認知度が高くはなく、自治会の間でも名簿の活用の意識に格差がみられる。	引き続き制度の周知に努め、災害時にうまく活用できるよう、名簿を整備していく。	B
3	1		高齢者支援課	該当なし	令和2年3月末時点においては、8施設と協定を締結している。	○	満床となっている等、施設の入所状況によっては活用できないことが有り得る。	協定の締結を希望する市内福祉施設からの申し出があった場合には、締結に向けた調整を進める。	B
3	1	② 福祉避難所の設置・運営に関する協定の推進 災害時、市内福祉施設を福祉避難所として活用できるように、各施設に対して福祉避難所の設置・運営に関する協定を推進します。	障害者支援課	障害福祉推進事業	福祉避難所設置運営マニュアルを施行し、HPへの掲載等を経て、周知に努めた。	○	福祉避難所の役割、開設されるタイミングなど、十分に理解されていない部分が見られる。	避難所のマニュアルの周知とともに、福祉避難所の運営がスムーズに実施できるよう、必要に応じて関係各課と協力をしていく。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3 1	③ 安全・安心な生活に直結する設備の整備 防犯灯や避難場所の案内板等、安全・安心な生活に直結する設備を整備します。	危機管理室	地域災害対策事業	「四街道市避難行動要支援者避難支援全体計画」に基づく関係部局の対策を支援した。	○	要配慮者への支援体制強化	引き続き、全体計画に基づき、関係部局の支援を行う。	B
		3 1		自治振興課	防犯灯維持管理事業	平成26年3月より、既存の一般防犯灯8,100灯を、省エネルギー・高寿命・高輝度であるLED防犯灯に更新した。また、リース事業を活用することでコスト削減に努めるとともに、市民の安全安心を確保するという観点から、防犯灯の維持管理に努めた。	○	LEDへの更新を終えていない一般防犯灯以外の街路灯について、経済性・環境性を念頭に段階的に更新に取り組む必要がある。	引き続き市民の安全安心を確保するため大型照明灯及び道路照明灯について維持管理を図っていく。	B
		3 1		危機管理室	地域災害対策事業	市が行う防災訓練や自主防災組織、区・自治会等が行う防災訓練や研修会等において、防災等に関する情報提供や防災意識の向上のための啓発を行った。	○	防災意識の向上	引き続き、市が行う防災訓練や自主防災組織、区・自治会等が行う防災訓練や研修会等において、防災等に関する情報提供や防災意識の向上のための啓発を行う。	B
		3 1		自治振興課	防犯対策事業	各公民館で行われた長寿大学やシニアクラブの会合、防犯指導員などの研修会など様々な機会を捉え防犯意識の向上に努めた。	○	高齢者を狙った振り込め詐欺などの特殊詐欺に対する啓発が急務であり、関係機関と連携を図り詐欺被害防止に努める。	今後も継続的に高齢者に対する啓発活動を積極的に実施していくとともに、子世代に対しても注意喚起を行うなど、親子両面からの啓発活動に努めていく。	B
		3 1		産業振興課	消費者教育推進事業	消費生活講座を実施した。 令和元年度 341人 子ども消費者教室を実施した。 令和元年度 57人 消費者教室(出前講座)を実施した。 令和元年度 248人	○	高度情報化やライフスタイルの多様化などによる、悪質商法や特殊詐欺の手口の複雑化、巧妙化に対応する必要がある。	トラブルの未然防止を行うため適切な情報提供、時代に合った講座開催や消啓発資料の広報などをとおして消費者啓発を行っていく。	B
		3 1	⑤ 市民の防犯活動への支援 市民の防犯活動を支援するため、「四街道市民安全パトロール隊」に対する青色防犯パトロール車の貸出や自治会等の防犯対策に対する助成を行います。	自治振興課	防犯対策事業	青色防犯パトロール隊員の活動拠点である安全安心ステーションの年中無休化並びに開所時間拡大による、隊の活動範囲・活動時間の充実を図り、パトロール回数の増加に繋がった。また、特殊詐欺被害防止対策としてイエローフラッグや街頭啓発活動のほか、防災行政無線での注意喚起放送等による取り組みを行った。	○	隊員の高齢化によって引き起こされる交通事故防止対策に向けた講習や、高齢者を狙った振り込め詐欺などに対する防止対策が急務である。	高齢者を対象とした特殊詐欺被害の防止対策が急務であることから関係機関と連携した取り組みを強化していく。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3-1	⑥「こども110番の家」プレート設置協力活動の推進 地域の子どもは地域で守るとの考えに基づき、「こども110番の家」プレート設置協力活動を推進します。	青少年育成センター	青少年育成支援事業	各学校のこども110番担当者が協力家庭、事業所の拡大に努めるとともに、事業所からの申し込みを促進するために、商工会に窓口となってもらった。令和2年3月末現在で2944戸となっている。	○	家庭環境の変化によって辞退する協力家庭も出てくると考えられるが、活動の推進を続けていくことが重要である。	P T A 連絡協議会や商工会、自治会とも連携し、地域への協力依頼と周知を図っていく。不審者への抑止力効果の観点から、さらに協力家庭・事業所を増やしていくために、郵便局や地域振興財団等とも連携し取り組みを推進していく。	B
		3-1	⑦「愛の一声運動」の推進 青少年を見守り、声かけを行う「愛の一声運動」を推進します。	青少年育成センター	青少年育成支援事業	青少年補導委員および青少年育成センター所員による街頭補導活動を年間321回実施し、令元年度は7268人に声掛けを行った。	○	既存の組織体制を有効活用するとともに、補導時間帯や場所の見直しが必要である。	市内各小中学校の予定を十分把握したうえで補導活動を立案する。また、広く情報収集を行い、より多くの人に声掛けができるようにする。	B
		3-1	⑧ 地域環境浄化活動の推進 有害ビラ撤去等の地域環境浄化活動を実施します。	青少年育成センター	青少年育成支援事業	青少年補導委員と協力して、年間を通して公園・通学路上のゴミ拾いを実施した。現在市中に有害ビラはほぼない状態である。	○	有害ビラはほとんど見かけなくなったが、公園や通学路でゴミを見かける。地域の協力を得ながら、啓発キャンペーンが必要である。	公園や通学路のゴミについては、定期的に環境浄化活動を実施していくことで、ゴミを捨てづらい環境づくりに努める。	B
		3-1	⑨ 空き家等の効果的な対策の推進 地域景観の悪化、ゴミ等の不法投棄等の誘発、防災や防犯機能の低下等、様々な問題の発生が懸念される空き家等の効果的な対策を推進します。	建築課	空き家等対策事業	空き家等の相談支援、実態調査および特定空き家所有者への対応をすることにより、発生抑制および適切な管理を促進している。協定団体相談件数50件（平成29年度から令和2年度）、空き家棟数374件（平成29年度調査）、情報提供件数60件（平成30年度から令和2年度）、特定空き家件数3件（令和2年度現在）	○	人口減少社会や高齢化の進展に伴う空き家等の増加が見込まれる。	空き家等の実態を継続的に把握し、所有者等に相談体制を周知し、流通や利用を促す。	B
		3-1	⑩ 消費生活センターの充実 消費者の被害を未然に防ぐための啓発活動の実施や、被害に遭ってしまった後の解決に向けた相談体制の充実等、消費生活センターの充実を図ります。	産業振興課	消費者保護事業	消費生活センターで消費生活相談を実施した。相談件数 令和元年度 941人	○	多様化する消費生活相談に対し相談や苦情への適切な助言を行う必要がある。	消費生活センターは現状を維持し、今後もよりよい相談体制を構築していく。	B

3-2 快適な生活環境を支える仕組みづくり

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3-2	① 公共交通の利便性・快適性の向上 公共交通の不便な地域の人や高齢者等の移動を円滑にするため、公共交通の利便性や快適性の向上を図る等、各種事業に取り組みます。	政策推進課	交通計画推進事業	公共交通空白・不便地域の解消に向け、デマンド型乗合タクシーの試行運行を実施した。さつきヶ丘地区にて、本運行に向けて、実証運行を行った。 新たな公共交通導入地区：1か所	◎	運行に際し、利用者の人数に応じて、地域の負担が生じるため、制度の持続できるか注視が必要。	公共交通空白・不便地域の解消に向けて、デマンド型乗合タクシー等の導入に取り組む。	B
		3-2	② 障害のある人の状況に応じた移動支援事業の推進 障害のある人の状況に応じた移動支援事業が展開できるように、事業者や従事者の確保に努めます。	障害者支援課	地域生活支援事業	移動支援事業の従事者の確保のため、移動支援事業者が主催している「知的障がい者のためのガイドヘルパー養成研修」に講師として出席し、障害福祉制度について説明を行った。 知的障がい者のためのガイドヘルパー養成研修 H30年度・R1年度参加	○	重度の知的障がい者への移動支援従事者の確保が難しい状況である。	重度の知的障がい者児への従事者の確保ができるように養成研修等への協力を今後も行っていく。	B
		3-2	③ 「福祉有償運送制度」の周知・充実 NPO法人等が、バス、タクシー等の利用が困難な要介護者や障害のある人等（移動制約者）に対して有償で輸送サービスを提供する「福祉有償運送制度」の周知・充実を図ります。	社会福祉課	福祉施策推進事業	ホームページに福祉有償運送制度及び同運営協議会の概要を掲載することで、情報の周知を図った。また、福祉有償運送制度実施団体が本制度の更新申請をする際、福祉有償運送運営協議会の場において運営方法の助言・指導を行うことで制度の充実を図った。	○	特になし。	福祉有償運送制度はタクシーなどの輸送サービスを補完する制度である。地域におけるニーズは高まると考えられることから、今後も、継続して取組を行っていく。	B
		3-2	④ 「高齢者見守り活動」の協定の推進 日頃から地域に根差した事業を行っている企業・団体に対し、市と連携して高齢者の見守り活動を行う「高齢者見守り活動」の協定を推進します。	高齢者支援課	該当なし	日頃から地域に根差した事業を展開して、市民との接点が多い企業・団体が地域の高齢者に対し、対象を限定せず、さりげない見守りを行い、何らかの異変を発見した場合には、状況を市や地域包括支援センターに連絡してもらいました。連絡を受けた後は関係機関と連携の上、訪問等を実施している。 * 20事業所（令和2年3月末時点）	○	特になし。	協定の締結を希望する企業や団体からの申し出があった場合には、締結に向けた調整を進める。	B
		3-2	⑤ 成年後見制度の普及・啓発 成年後見制度の周知を行うとともに、今後、その活動が期待される市民後見人の普及・啓発を行います。	社会福祉課	該当なし	市ホームページ、高齢者及び障害者に対するガイドブック、NPO法人が作成したパンフレット等の配架により周知が図れた。	△	市民後見人は単独での活動はが困難であるが、「成年後見支援センター」など団体として活動できる場がないことから制度の普及は進んでいない。	成年後見制度の周知を引き続き行う。市民後見制度の普及・啓発については国施策、他市状況等を踏まえながら検討していく。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3-2	⑥ 三世帯同居・近居等への 支援 介護、子育て等、親世帯と子 世帯がお互いに協力できる環 境づくりを促進する三世帯同 居・近居等への支援を行いま す。	建築課	三世帯同居近居 支援事業	三世帯同居近居支援事業補助金を交付することに より、親世帯と子世帯がお互いに協力できる環境づく りを促進している。補助件数37件（平成28年度か ら令和2年度）	○	要綱上の近居の定義が厳し いこと、申請多数による交付 決定者の抽選がある。	事業の目的が、幅広く受け入れられるように 周知する。	B
		3-2	⑦「ファミリー・サポート・セン ター」の充実 子育ての援助を行いたい人と 援助を受けたい人をつなぐ「ファ ミリー・サポート・センター」の広 報活動を継続し会員の確保を 行うとともに、研修・講習会等 の実施により会員の知識の向 上に努めます。	保育課	ファミリー・サポート・ センター運営事業	子育ての支援を依頼したい人と支援したい人のコー ディネイトを行い、保育所等の迎えや終了後の預かり など育児の援助活動の支援を行った。 (会員数令和元年度 5月1日時点) 提供会員…145人(男 5人・女140人) 依頼会員…866人(男33人・女833人) 両方会員…100人(男 0人・女100人) 合 計…1,111人 (男38人・女1,073人)	○	現状の依頼会員数に対する 提供会員数でサービスメ ニューの拡大は難しい。このた め提供会員の増員を図ること が課題。	引き続き事業の啓発活動を行い、サービスメ ニューの拡大等や会員の確保とフォローアップ 研修等を実施することで、会員の資質向上 や会員同士の交流を図る。	B
		3-2	⑧ ごみ出しが困難な人への 支援 ごみ出しが困難な市民のため に、ごみの戸別収集を行いま す。	高齢者支援課	該当なし	年齢・身体的な理由により、集積所へのごみ出しが 困難で、他に協力が得られない方に対し、家庭ごみの 個別収集をクリーンセンターが実施している。	○	利用希望者が大幅に増加 した場合、対象者の見直しを 要する可能性が有る。	ごみ出しが困難となる高齢者が増加するこ とが見込まれるため、今後も個別収集が継 続され、衛生的な生活の確保と福祉の増進 を推進する。	B
	3-2	障害者支援課		なし	ゴミ出しが困難な障害のある人に事業の情報提供を 行った。令和2年1月から利用者が申請しやすいように 障害者支援課にて申請できるように整備した。	○	ゴミ出しが困難な障害者は 高齢者が多いことから、高齢 者支援課との情報共有が必要 である。	ごみの戸別収集事業について、情報提供、 制度の周知を行っていく。	B	
	3-2	クリーンセンター		該当なし	戸別収集の申請があった場合、戸別の現地調査を実 施（R2年1月以降は、申請時に担当各課で聞き 取り調査を実施）し、必要性が認められた場合に戸 別収集を実施した。 ※収集実施件数 令和元年度末 146件	○	利用者が増加傾向にあるた め、今後、収集体制の検討 が必要になると考えられる。	今後も継続して事業を実施していく。 また、市政日より、ホームページなどの広報を 通じて事業の周知を図っていく。	B	

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3 2	⑨ 快適な生活環境の保全と美しいまちづくりの推進 「まちをきれいにする条例」に基づき、快適な生活環境の保全と美しいまちづくりを推進します。	環境政策課	環境衛生推進事業	●環境美化表彰を行った。 R1.6.25開催、個人表彰4名、団体表彰1団体 ●歩行喫煙防止・ポイ捨て防止キャンペーンを実施した。 2回/年（R1.6.25、R1.10.24） ●四街道駅前路上喫煙制限地区の指導を業務委託した。2回/月	○	・野良猫の苦情（糞害、餌やりなど）	美化推進重点地区を中心に、快適な生活環境の保全と清潔で美しい街づくりを推進していくため、引き続き市民への周知などに努める。	B
		3 2	⑩ 地域の特性や実情に合わせた住生活の実現 少子高齢化に伴う住生活の質の向上や居住の安全性の確保等、地域の特性や実情に合わせた住生活の実現を目指す「住生活基本計画」を推進します。	建築課	住生活基本計画推進事業	長期優良住宅認定、木造住宅耐震補助金および住宅リフォーム補助金を交付することにより、住生活の質の向上や安全性の確保を促進している。長期優良住宅認定件数400件、耐震改修工事補助件数31件、住宅リフォーム補助件数107件（すべて平成28年度から令和2年度）	○	耐震化を向上させる必要がある。	各種支援事業を継続し、住生活の質の向上や安全性の確保を推進する。	B
		3 2	⑪ ごみの分別方法の周知 市政だよりやホームページ等により、ごみの分別方法を周知します。	グリーンセンター	該当なし	市政だより、ホームページなどにおいて「プラスチック・ビニール類の出し方について」、「ごみ分別アプリの配信を開始します」など、ごみの分別に関する情報発信を実施した。	○	ホームページを閲覧できない市民に対する周知方法が課題である。	市政だより、ホームページなどに掲載を続けていくとともに、区・自治会回覧による周知、電話での問い合わせ対応などで周知を図っていく。	B
		3 2	⑫ 「ごみゼロ運動」等の推進 「ごみゼロ運動」等、各種の環境美化対策を市民とともに連携しながら推進します。	グリーンセンター	ゴミゼロ運動事業	ごみゼロ運動を年1回開催し、市民と連携することで散乱ごみなどの一斉清掃を実施した。 令和元年度 6,214名参加 収集量 9.14 t	○	家庭ごみ（粗大ごみ）が排出される傾向があり、今後対象となるごみの周知が必要となる。	今後も継続して事業を実施していく。また、区・自治会回覧、広報などを通じて事業の周知を図っていく。	B
		3 2	⑬ 環境パトロール等の監視や指導の強化 不法投棄をなくすため、環境パトロール等の監視や指導を強化します。	環境政策課	環境保全対策事業 環境行政推進事業	平成29年度まで環境保全指導員によるパトロールを平成30年度からは職員によるパトロールを実施した。 ●不法投棄発見件数：13件(令和元年度) ●野焼き指導件数：9件(令和元年度)	○	・言葉の壁（対外国人）	不法投棄や野焼きと合わせて、埋め立てを伴う事業などについてもパトロールによる監視・指導に努める。	B
		3 2	⑭ 家庭及び地域の教育力の向上 PTA連絡協議会等と連携し、家庭及び地域の教育力の向上に努めます。	社会教育課	子育て学習事業	次年度就学児童の保護者及び中学入学を控えた児童の保護者を対象に、就学時健康診断や入学説明会の際に、家庭教育の重要性に関する講座を行うことができた。 また、PTAと連携を密にして地域・家庭教育学級を開催し、家庭教育を支援できた。 〔令和元年度実績〕 子育て学習講座 17校（市内全小中学校） 地域・家庭教育学級 1学級	○	子育て学習講座では、ボランティア講師に講座を依頼しており、提供できる学習内容に限りがある。	今後も家庭・学校・地域の連携により家庭教育力の向上を図るため、小中学校児童生徒の保護者や地域住民を対象とした学習機会を提供する。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		3-2	⑮ 青少年問題行動の防止 青少年健全育成大会や街頭 啓発キャンペーン等、青少年問 題行動の防止の取り組みにつ いて広く市民に周知します。	スポーツ青少年 課	青少年健全育成 事業	毎年7月に青少年健全育成推進大会を開催し、功 労者の表彰や少年の主張および記念講演等を実施 した。大会終了後は関係者により街頭に出てキャン ペーン活動を行った。	○	式典の内容については、より 良い内容に検討する余地は ある。	引き続き大会を実施するとともに内容を吟味 し大会の趣旨が十分浸透するような大会・ キャンペーンとする。	B
		3-2		青少年育成セン ター	青少年育成支援 事業	青少年健全育成大会や街頭啓発キャンペーンを実 施し、青少年健全育成の活動の意義を啓発した。ま た、千葉県青少年補導員連絡協議会が主催する夏 の県下一斉合同パトロールを通して、地域の補導活 動・環境浄化活動に対する市民の理解を深めた。	○	地域で子供たちを育むという 視点から、青少年の健全育 成に向けての具体的な取組 をより多くの市民に周知する 必要がある。	行事内容の見直しを行うことで、今まで以上 に青少年の健全育成に対する市民の意識 を高める。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
----------	----	-----------	--------	-----	--------	------	-----------	----	--------	------------

基本目標 4 いきいきできる社会参加の機会づくり

4-1 社会参加機会の整備

4	1			(関係各課) 社会福祉課	シニア憩いの里運 営支援事業 シニアクラブ支援事 業	シニアクラブ、シニア憩いの里事業に対する財政的な支援を実施しています。 1-2-⑩参照 1-1-④参照	○	特になし。	特になし。	B
4	1	① 高齢者や障害のある人等の社会参加促進	事業・イベントを開催する際に、多様な参加者に配慮する等、高齢者や障害のある人等の社会参加を促進します。	(関係各課) 高齢者支援課	該当なし	高齢者向けの講座を開催する際には、歩行に支障がある方でも参加できるよう、エレベーターを有する施設を利用するようにしている。	○	特になし。	今後も事業やイベントを開催する際には、歩行に支障がある方等でも参加できるように配慮する。	B
4	1			(関係各課) 障害者支援課	障害福祉推進事業	四街道市障害者自立支援協議会の療育・教育部会の講演会、同協議会の就労部会の事業所合同説明会、定期的開催する街かど心の相談などの事業を通じて、障害のある人の社会参加の場と社会参加できる支援を行いました。	○	事業によっては、参加者が市外在住の人に偏っていることがあるので、市内在住者の参加者への周知が必要と考えられる。	引き続き、障害のある人の社会参加のため、講演会等の事業を行っていく。	B
4	1	② 子育てサークル等の育成・活動支援	子育てサークル等の育成及び活動を支援するため、子育てに関する広報活動や情報提供を行うとともに、地域子育て支援拠点（子育て支援センター）等が実施する講座等を支援します。	子育て支援課	児童センター運営委託事業	子どもの居場所・遊び場の充実を図るため、児童センター 2カ所の運営を行った。 講座、イベント等の開催を通じて、友達づくりや悩み・不安の相談など、子育て世帯の交流の場を提供した。 令和元年度実績（南部総合福祉センター） おしゃべりサロン 10回、405人	○	特になし。	児童センターによる子どもの居場所の他に、市民活動団体などと情報を共有し、活動を支援することで、子どもの居場所づくりを推進する。	B
4	1			保育課	該当なし	子育て支援センターにおいて、子育て講座等の開催を通じ保護者同士の情報交換やママ友づくりなどの支援を行った。	○	特になし。	地域子育て支援拠点事業に対する運営支援を通じて、引き続き子育て支援センターが実施する講座等を支援します。	B
4	1	③ 元気な高齢者が活躍する場への支援	元気な高齢者が活躍する場であるシルバー人材センター等の活動が活性化するように支援します。	社会福祉課	シルバー人材センター支援事業	シルバー人材センターは、積極的な会員拡充のための努力もあり令和元年度末現在の会員数が582人、平成29年度末と比して、104.1%の増加率であり、受注件数も、令和元年度末現在4,254件で、平成29年度末と比して、103.6%と緩やかではあるが増加傾向にあります。市では同センターに財政的支援等を実施している。	○	シルバー人材センターの活性化には、引き続き会員の拡充、特に女性会員の拡充に注力することが必要であると考える。	今後も、引き続きシルバー人材センターの活動が活性化するように運営を支援することにより地域福祉の推進を行う。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		4-1	④ 介護予防教室の開催 高齢者が地域で自立した生活を維持・継続できるように介護予防教室を実施します。	高齢者支援課	一般介護予防事業	介護予防のための各種講座を開催した。また、住民主体で行う「週いち貯筋体操」を出前講座などで周知するとともに、立ち上げや活動継続を支援している。令和元年度実績（介護予防のための各種講座90回1,180人、週いち貯筋体操24か所）	○	介護予防のためには、定期的な活動や、社会的交流が大切である。	引き続き、介護予防の方法を周知する講座も行っていくが、住民主体で行う「週いち貯筋体操」などを推進する。	B
		4-1	⑤ 「高齢者大学」の開催 「高齢者大学」を開催し、高齢者の社会参加の促進を図ります。	社会教育課	公民館管理運営事業	公民館において「長寿大学」などの高齢者大学講座を実施することで、高齢者の社会参加の促進を図った。	○	公民館主催講座は、指定管理者がプログラムを作成するため、市の意見が反映されるよう指定管理者と調整を図る必要がある。	指定管理者と調整を図りながら、各種事業を実施するなど公民館の運営を通じ、高齢者の社会参加の促進を図っていく。	B
		4-1	⑥ 地域活動支援センターの整備 障害のある人の創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流促進の場として、地域活動支援センターの活動を支援します。	障害者支援課	障害福祉推進事業	市内の地域活動支援センター運営法人からの要望を受け、センター運営の際にかかってくる家屋の借り上げ料に対する補助を令和2年4月から実施した。	○	センターの利用者が減少傾向である。	市のホームページを活用するなど、まだ施設を利用していない障害のある人をセンターの利用につなげられるよう、周知する。	B
		4-1	⑦ 手話通訳者の配置等 手話通訳者を市役所本庁舎内に配置します。また、手話通訳者の派遣を行うことで意思疎通を図ることに支障がある人を支援します。	障害者支援課	意思疎通支援事業	聴覚、言語・音声機能障害のため意思疎通を図ることに支障がある障害者のために市役所本庁舎に設置手話通訳を配置した。また、病院等に手話通訳者を派遣することでコミュニケーションを支援することができた。 設置手話通訳 月～金 9時～17時	◎	聴覚障害者からの手話通訳依頼が多くあるが、派遣できる手話通訳者が不足している。	聴覚、言語・音声機能障害により不利益を生じないように意思疎通が円滑に行えるために手話通訳者等を派遣することが必要なことから、本事業を今後も実施する。また、登録手話通訳者を育成するために、手話奉仕員養成講座を継続して開催する。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		4-1	<p>⑧ 男女共同参画フォーラム実行委員会への活動支援</p> <p>男女共同参画フォーラム実行委員会の情報紙発行やイベント開催を支援します。</p>	政策推進課	男女共同参画推進事業	<p>四街道市男女共同参画フォーラム実行委員会主催の市民向けイベントの開催や情報誌の発行を支援することで、男女共同参画に対する市民意識の啓発を行うことができた。</p> <p>【情報紙の発行】 男女共同参画社会づくり通信「和話輪」（第12号） 発行数 15,000部 配布先 小・中学校、幼稚園、保育園、区・自治会</p> <p>【イベントの開催】 ①令和元年6月29日きいて納得！女性のための法律講座「相続・成年後見・遺言～私の未来のために、いま～」 参加者36名 ②令和元年9月15日男性のための応援料理教室「プロから学ぶお手軽イタリアン」 参加者14名 ③令和元年1月27日映画「バトル・オブ・ザ・セクシーズ」上映会&トーク交流会 参加者24名</p>	○	<p>情報紙については更なる内容の充実と効果的な配架について工夫が必要である。</p> <p>また、男女共同参画をテーマにしたイベントを開催する場合には、その内容と参加者の確保とのバランスを考慮しながら、事業を実施する必要がある。</p>	<p>今後も引き続き、四街道市男女共同参画フォーラム実行委員会の男女共同参画に関する広報紙の発行、イベント等の機会を確保するとともに、市民の理解を促進する。</p>	B
		4-1	<p>⑨ 「市民参加条例」に則した行政運営</p> <p>様々な市民が、行政に参加しやすい環境を整えるため「市民参加条例」に則した行政運営を行います。</p>	総務課	市民参加推進事業	<p>市民参加条例の適正な運用を図るため、市民参加推進評価委員会を開催し、条例に基づく市民参加手続等について、適切な審議を行うことができた（3回開催）</p> <p>審査案件：平成29年度の実施状況1件 平成30年度の実施予定2件、実施状況27件 令和元年度の実施予定14件、実施状況10件 ※実施予定は複数年度にわたる案件を表しています</p>	○	<p>より多くの市民等の市民参加を促す必要がある。</p>	<p>引き続き、市民参加手続の運用を適正に図っていくとともに、充実した市民参加の環境づくりに努める。</p>	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
		4-1	⑩ユニバーサルデザインの推進 公共施設の整備・改修にあたっては、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れるように努めます。	(各施設の所管課)管財課	庁舎等維持管理事業 庁舎等整備事業 文化センター管理事業	四街道駅南口エレベーターを整備するに当たって、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、多機能な車椅子対応型エレベーターを設置した。 庁舎整備基本計画の策定ならびに庁舎整備設計書の作成に当たって、ユニバーサルデザインの考え方を基本理念及び設計方針に取り入れ、すべてのひとにやさしい庁舎の整備に取り組んだ。	○	現在延期されている庁舎整備事業の再開には多額の経費を要するため、事業費の縮減と財源の確保が必要である。 文化センターホール棟、会館棟の大規模改修などの実施には多額の経費を要するため、事業費の縮減と財源の確保が必要である。	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた庁舎整備基本設計書の設計方針に基づき、すべてのひとにやさしい庁舎の整備を図る。 文化センターの大規模改修などについて、今後作成が予定されている個別施設計画において概要を決定し、これに基づき改修設計時にユニバーサルデザインの考え方を取り入れ実施していく。	B
		4-1		(各施設の所管課)教育総務課	中学校施設大規模改修事業	千代田中学校南棟校舎大規模改修工事において、車いす対応・手すり・オストメイトを設置する多目的トイレを新たに1か所設置し、校舎内部等のバリアフリー化を図る工事を完了した。	○	1階のみではなくエレベータを設置し各階にもユニバーサルデザインを取り入れていく必要がある。	学校施設のみならず避難所等複合的な機能が求められるため、今後も、多様な利用者を考慮し、ユニバーサルデザインの採用やバリアフリー化にも配慮していく。	B
		4-1		(各施設の所管課)社会教育課	公民館管理運営事業	○千代田公民館：温水洗浄機能付き便座を設置した。 ○旭公民館：温水洗浄機能付き便座を設置した。	○	施設によっては、選挙における投票所、災害時における避難所としても使用されるため、日ごろの主な利用者とは異なる利用者を想定する必要がある。	新築については、ユニバーサルデザインの考え方を最大限取り入れ、出入口スロープ、階段手すり、多目的トイレ、エレベーター、子育て支援環境などの整備検討を行っていく。また、増築や大規模改修などについては、施設の利用状況やスペースなどを考慮して、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた改修を進めていく。	B
		4-1		(各施設の所管課)社会福祉課	総合福祉センター管理運営事業、南部総合福祉センター管理運営事業、保養センター管理運営事業	総合福祉センター及び南部総合福祉センターわろうべの里は、以前よりバリアフリー化、オストメイト用設備の設置に取り組みおおむね完了している。	○	国民保養センター鹿島荘はバリアフリー化及びオストメイト用設備の設置に至っていない。	引き続き、施設の改修にあたっては、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れるように努める。	B
		4-1		(各施設の所管課)スポーツ青少年課	体育施設管理運営事業	利用者アンケートを実施し、施設の不備等、ニーズの把握に努めた。	○	整備・改修については多額の費用が想定されるため、効率的な整備・改修が図られるような計画策定に努める。	公共施設等総合管理計画を踏まえながら効率的な整備・改修が図られるような計画を策定する。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		4-1	⑪ 道路・歩道の整備 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に沿って、道路・歩道の整備を実施します。	土木課	交通安全施設整備事業	団地内の交差点部の歩道切り下げ工事を実施している。 令和元年度 千代田地区 2箇所	○	工事箇所が既存住宅地のため、民地等との調整に問題がある。	引き続き未整備箇所の切り下げ工事を実施する。	B
4-2 市民の学習機会の充実										
		4-2	① 各種生涯学習事業の推進 市民生活の課題に対応するため、各種の生涯学習事業を推進します。	社会教育課	市民大学講座事業	大学等の高等教育機関との連携により、市民大学講座を開講することができた。それにより、市民に専門的知識等を提供し、市民の学習要望に応えることができた。 〔令和元年度市民大学講座受講者実績〕 一般課程 60人 専門課程 27人	○	他課等で開催している講座情報等を注視しながら事業を行う必要がある。	今後も市民に専門的知識等を提供し、市民の学習要望に応えるため、市民大学講座を開講する。	B
		4-2	② 各種生涯学習事業の情報提供 市の生涯学習関連事業等幅広い情報を提供する「まなびいガイドブック」を作成・発行します。	社会教育課	生涯学習推進事業	市が行う各種事業や生涯学習関連施設・団体等の情報を掲載した「まなびいガイドブック」を作成し、市民に生涯学習情報を提供できた。 〔令和元年度実績〕 四街道市まなびいガイドブック（平成31年度版）350部	○	組織機構改革等の情報を注視しながら発行時期を決める必要がある。	今後も市が行う生涯学習情報等を掲載した情報誌を作成し、市民に情報提供する。	B
		4-2	③ 「生涯学習生きがいづくりアシスト事業」の啓発 「生涯学習生きがいづくりアシスト事業」について啓発し、登録者・利用者の拡大を図ります。	社会教育課	生涯学習推進事業	様々な知識や技能を持った市民を登録し、紹介・派遣する「生涯学習生きがいづくりアシスト事業」を実施し、生涯学習を推進することができた。また、一日体験講座を実施し、アシスト事業の普及・啓発をすることができた。 〔令和元年度実績〕 登録者 41人 実施件数 5件 受講者 10人 1日体験講座 12講座、受講者107人	○	新規の講師登録が少なく、実施件数の伸び悩みが見られることから、新たな事業の周知方法を検討する必要がある。	今後も生涯学習生きがいづくりアシスト事業を推進し、生涯学習体制を充実させる。	B
		4-2	④ 「生涯学習まちづくり出前講座」の充実 「生涯学習まちづくり出前講座」の充実を図ります。	社会教育課	生涯学習推進事業	市職員が講師となる「生涯学習まちづくり出前講座」を実施し、市政への理解を深める学習活動を提供できた。 〔令和元年度実績〕 講座メニュー数 59講座 実施件数 79件 受講者 2,403人	○	組織機構改革等の情報を注視しながら作成する必要がある。	今後も生涯学習まちづくり出前講座を推進し、市政への理解を促すとともに、生涯学習体制を充実させる。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		4-2	⑤「市民大学講座」の充実 高度で専門的な市民の学習 要望に応えるため、「市民大学 講座」の充実を図ります。	社会教育課	市民大学講座事 業	大学等の高等教育機関との連携により、市民大学講 座を開講することができた。それにより、市民に専門的 知識等を提供し、市民の学習要望に応えることができ た。 〔令和元年度市民大学講座受講者実績〕 一般課程 60人 専門課程 27人	○	他課等で開催している講座 情報等を注視しながら事業を 行う必要がある。	今後も市民に専門的知識等を提供し、市 民の学習要望に応えるため、市民大学講座 を開講する。	B
		4-2	⑥ 各種講座等の開設 市民要望に対応した各種講 座等を開設します。	社会教育課	公民館管理運営 事業	「親子でプログラミング講座」などのニーズに対 応した公民館主催講座を開設した。	○	公民館主催講座は、指定管 理者がプログラムを作成する ため、市の意見が反映される よう指定管理者と調整を図る 必要がある。	指定管理者と調整を図りながら、市民要望 に対応した各種講座を開設していく。	B
		4-2	⑦「総合型地域スポーツクラ ブ」の育成 市民の誰もがスポーツに親しむ ことのできる「総合型地域ス ポーツクラブ」を育成し、生涯ス ポーツ社会の実現を目指しま す。	スポーツ青少年 課	総合型地域スポ ーツクラブ育成支援 事業	総合公園体育施設の休館日を利用し、クラブの活動 を支援している。また、会員募集や教室の案内等、市 政だよりを通じて周知に努めた。	○	会員を確保し自主運営に係 る経費等を増やす方策を検 討する必要がある。	引き続きクラブの活動支援を実施するととも に、完全自立の活動ができるよう助言してい く。	B
		4-2	⑧ 小・中学校の余裕教室・体 育施設の開放 身近な生涯学習活動の場とし て、小・中学校の余裕教室・体 育施設の開放を行います。	スポーツ青少年 課	小中学校施設開 放事業	小・中学校の余裕教室、体育施設を開放して地域に 貢献した。 令和元年度実績 【余裕教室】利用登録団体 11団体 延べ利用日数 117日 【体育施設】利用団体数 246団体 利用登録人数 3,918人	○	余裕教室は利用時の施設 管理を委託しており、人件費 の高騰がネックとなる。また、 体育施設利用者による施設 の損壊や鍵の紛失・破損が 後を絶たず、対応に苦慮して いる。	引き続き市民に活動場所の提供を行う。	B
		4-2	⑨ 学習ニーズに対応した体 制づくり 多様化・専門化する学習ニー ズや、個々の学習意欲に応じ た相談活動が行えるような体 制づくりを行います。	社会教育課	生涯学習推進事 業	市が行う各種事業や生涯学習関連施設・団体等の 情報を掲載した「まなびいガイドブック」を窓口へ設置 し、市民へ情報提供できた。	○	組織機構改革等の情報を注 視しながら作成する必要があ る。	今後も市が行う生涯学習情報等を掲載した 情報誌を作成し、市民に情報提供する。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
----------	----	-----------	--------	-----	--------	------	-----------	----	--------	------------

基本目標5 福祉サービスの充実と質の向上

5-1 情報提供・相談体制の充実

5	1			高齢者支援課	該当なし	事業者等を掲載した指定事業者一覧リストを作成し、定期的に情報を更新し配布できるよう窓口に備えた。また、市HPに千葉県内および全国の介護サービス事業者の検索ができる外部サイトの案内をしている。	○	市内の介護事業所しか掲載していないため、地域包括ケアシステムの観点から医療・介護・インフォーマル事業者を含んだ社会資源マップ（リスト）の作成を検討する。	引き続き、指定事業者一覧リストについては定期的に情報の更新を行い、常に最新の情報を発信していく。	B
5	1	① 情報提供体制の整備 指定事業者一覧リストの作成等、利用者が必要なときに必要な情報を手軽に得られるような情報提供の体制を整えます。		障害者支援課	障害福祉推進事業	市主催の障害福祉に関する事業や制度案内などについて、市政だよりとホームページ掲載を通じて、情報提供の体制整備に努めた。	○	ホームページの内容で、制度が新しくなっても更新されていない。	障害福祉の制度を紹介するページのチェックを適宜行い、更新がなかったものについて更新をかけるなど、対応していく。	B
5	1			子育て支援課	子育て情報提供事業	子育て情報サイトは年1回情報を更新し、子育て世帯への情報提供を行った。また県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」と市HPの連携により随時新着情報を発信した。 また、子育て情報ブック「すくすく」は、冊子版、電子版を令和元年度に改定し、子育て世帯へ情報提供を行った。 令和元年度実績 すくすくアクセス件数 14,310件	○	現行の子育て情報サイト「すくすく」は事業者の方針転換により有償化が見込まれており、今後、有償による継続または別の方法を検討していく必要がある。	県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」や子育て情報ブック「すくすく」のスマートフォンやタブレットにも対応する電子版を活用し、情報発信を継続する。 また、市ホームページの掲載内容を充実し、発信機能を高めていく。	B
5	1	② 医療関連情報の提供 市内の医療機関や休日夜間急病診療所の診療科目や診療時間等の一覧を窓口等で配布するほか、ホームページを活用した情報提供を行います。		健康増進課	該当なし	市内の医療機関の情報を随時（年2回）更新し、窓口やホームページ等で情報提供を行った。	○	情報量が多く、即時的な更新が難しい。	引き続き、医療機関の情報を随時更新しながら、情報提供に有効な媒体などについて検討し、的確な情報提供に努める。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5 1	③ 各種健（検）診と相談体制の充実 健康診査や各種検診により健康状態を確認し、生活習慣の改善が図れるように相談体制を充実します。	健康増進課	検診事業 成人保健事業	【検診事業】 集団検診に加え、身近な医療機関で検診が受けられるよう体制整備をすすめ、すべての検診で市内で個別検診を選択できるようにした。 [2年度個別検診医療機関数（市内再掲）] 胃エックス線検診：1（1） 胃内視鏡検診：5（4） 大腸がん検診：22（22） 肺がん検診：5（5） 乳がん検診：5（3） 子宮頸がん検診：3（2） 特定健診：24（24） 肝炎ウイルス検診：26（26） 骨粗しょう症検診：19（19） 【成人保健事業】 市民に生活習慣病の予防や改善、栄養、口腔内の健康等の相談場所として、各種教室や各種健康相談を開催した。 [元年度健康相談実績] 健康相談：176回 延数336人	○	【検診事業】 高齢化と就業者の増加により、受診者数は減少傾向である。高齢者の受診には事故などの危険もある。 【成人保健事業】 健診結果相談の利用者は減少しているため、様々な事業を通して、生活習慣の改善等、健康づくりを啓発していく必要がある。	受けやすい検診体制の構築を継続し、検診実施に際しては、より安全に配慮した実施体制を模索する。 随時健康相談や教室、健康教育等の様々な事業の中で、生活習慣の改善ができるような取り組みを進めていく。	B
		5 1	④ 地域子育て支援拠点（子育て支援センター）事業の充実 地域の子育て全般に関する支援を行う拠点として、地域子育て支援拠点（子育て支援センター）事業の充実を図ります。	保育課	私立保育園運営費等補助事業	子育て支援センター事業を実施する市内私立保育園について当該事業の運営に対し支援を行った。	○	子育て支援センター事業の未実施保育所に対し、事業実施への働きかけとセンター開設に係る支援が必要である。	引き続き事業を実施する保育園に対し支援を行う。また、今後新たな私立保育園が開設される場合には、当該事業の実施について働きかける。	B
		5 1	⑤ ひとり親家庭への情報提供や相談支援体制の充実 母子・父子自立支援員との連携により、ひとり親家庭への情報提供や相談支援体制の充実に努めます。	子育て支援課	家庭児童相談事業 ひとり親家庭等支援事業	ひとり親家庭に対する医療費等助成などの経済的支援を行うとともに、高等職業訓練促進費等給付金の支給や母子自立支援員の相談事業を実施した。 また、日常的に、ひとり親家庭を支援するための相談や情報提供を電話・窓口等で行っている。	○	特になし。	今後も事業を継続する。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5 1	⑥ 子育て相談の推進 各種専門職（小児精神科医、臨床心理士、言語聴覚士、保健師、栄養士、歯科衛生士等）が連携し、子育ての相談を行います。	健康増進課	母子保健事業	【相談・健診】 各種相談および健診で対象者のニーズに応じて、各種専門職が子育て相談を実施した。 [令和元年度実績] 4か月児乳児相談：642人 8か月児相談：545人 1歳6か月児健診：665人 2歳6か月児歯科健診：617人 3歳6か月児健診：750人 おやかカウンセリング：86人	○	様々な相談に対応できるように各種専門職が知識を深め、連携できる体制づくりをしていく必要がある。	今後も対象者のニーズに応じるために、各種専門職が連携し、子育て相談を継続実施していく。	B
		5 1	⑦ 発育・育成上の心配がある児童等の相談・支援体制の充実 健康診査や相談で発育・育成上の心配がある児童と保護者に対する相談・支援体制を充実し、適切な早期療育につながるよう努めます。	健康増進課	母子保健事業	【幼児親子支援グループ】 健康診査や相談の事後フォローの場として、6回4コースの教室を実施した。参加者のうち早期療育が必要な対象者には関係機関を紹介した。 [令和元年度実績] 参加数：67組 565人	○	事後フォローの場につながらず、個別対応が必要なケースもある。保護者のニーズに対応しながら、なるべく早く適切な療育につながるような支援が必要である。	幼児親子支援グループのみならず、各種保健事業、地区活動の中で相談・支援を行っていき、適切な早期療育につなげられるようにしていく。	B
		5 1		障害者支援課	障害者自立支援給付事業	発育・育成上心配のある児童に対して、療育・訓練・生活能力・集団生活への適応等を行う、福祉サービス事業（児童発達支援・保育所等訪問支援）を提供した。	○	福祉サービスを利用希望者の増大	早期療育につながるよう、福祉サービス事業を今後も継続して実施する。	B
		5 1	⑧ 地域包括支援センターの総合相談・支援体制の整備 地域住民の保健・福祉・医療の向上を包括的に支援する中核拠点である地域包括支援センターのさらなる充実を図り、地域に密着した総合相談・支援体制を整備します。	高齢者支援課	地域包括支援センター運営事業	包括支援センター内の保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士が各職種の知識を生かし、情報を共有し、多種多様化する相談に対応している。また、センター内にとどまることなく、地域における様々な団体とのネットワークを構築し、地域に密着した相談・支援を行っている。	○	高齢者や認知症の方の増加により、自ら相談ができない人も増えると予想される。	引き続き、地域における様々な団体とネットワークを構築し、地域住民を地域全体で見守る体制を整備していく。	B
		5 1	⑨ 高齢者の在宅生活の支援 一人暮らし高齢者等に対し、緊急時に通報できる専用機器を設置する等、民生委員や地域包括支援センターと連携し、高齢者の在宅生活を支援します。	高齢者支援課	高齢者在宅生活支援事業	緊急通報装置設置者宅に月1度、ALSOKあんしんケアサポートがお伺い電話（安否確認）を実施している。また、健康に関する相談にも応じている。安否が気遣われる方の情報提供があった際は、地域包括支援センターや民生委員等と連携し、訪問等を実施している。 利用台数 604台（令和2年3月末日時点） 令和元年度新規設置台数 101台	○	一人暮らし高齢者等が増加している中で利用台数も増加傾向にある。利用台数が増加するにつれ、財政負担も増加していくことが見込まれる。	一人暮らし高齢者等の緊急時の疾病、災害等に迅速かつ適切に対応するため、引き続き、本事業を進めていく。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5-1	⑩ 障害者相談支援事業所の総合相談の推進 障害者相談支援事業所において、相談支援専門員が個別に必要な情報提供や助言を行う総合相談を実施します。	障害者支援課	障害者相談支援事業	障害者相談支援事業所に相談業務を委託することで、障害に関する多岐にわたる相談に対応することができた。	◎	対応に苦慮する、相談者への支援の難しさ	相業業務は専門知識と経験やケースによっては資格が必要な場合もあり、また、携わる相談員の適応もあることから、人材として職員を確保し事業を実施するよりも、今後も委託により専門的な知識を有する人材を活用することで、質の高い相談事業を実施する。	B
5-2 サービスの質の向上										
		5-2	① 事業者の育成・指導 福祉サービスに関する市民からの相談を通して、事業者の育成・指導による質の改善に努めます。	高齢者支援課	該当なし	市民からの相談を通して得た情報を、各協議会における役員会を通して、情報提供している。	○	特になし。	引き続き、市民からの相談を通して得た情報を、各協議会の役員会を通して情報提供していく。	B
		5-2		障害者支援課	障害福祉推進事業	国や県から事業所の運営に関連する通知が来た場合に、市内事業所へ周知を図るなど、事業者の質の改善に努めた。また、事業者が受けた市民からの相談に対して、適宜必要な助言を行った。	○	事業者、または事業所が集まって協議できる場が、現時点で少ない。	自立支援協議会などを活用して、事業者相互で情報交換ができる場などを設けるなど、各事業者同士の関係を強め、個々の事業者の質向上につなげる。	B
		5-2		子育て支援課	児童センター運営委託事業 プレイパーク運営事業	児童センター2か所及びプレイパークの運営のなかで、利用者からの相談や苦情等が寄せられた際は、情報の共有を図るとともに、必要に応じて運営の改善に努めた。	○	当課においては、児童を対象とした施設運営を行っていることから、事業者の育成及び指導は限られる。	引き続き、児童センター2か所及びプレイパークの運営のなかで、事業者の育成・指導を行う。	B
		5-2		保育課	該当なし	利用者からの声については、その内容により事業者側に報告し、必要に応じて改善等を求めた。	○	事業者の育成・指導はについて、最終的には事業者判断となる。	引き続き事業者の育成・指導による質の改善に努める。	B
		5-2		高齢者支援課	該当なし	時機を捉えて制度の周知を図った。	○	特になし。	引き続き、県の「福祉サービス第三者評価制度」を事業所等に対して周知する。	B
		5-2	②「福祉サービス第三者評価制度」の周知	障害者支援課	障害福祉推進事業	制度の周知については、行うことが出来なかった。	×	制度の認知度が低い。	制度の趣旨、内容を把握し、必要に応じて事業者への周知をする。	A
		5-2	市民が安心してサービスを選択して利用できるように、県の「福祉サービス第三者評価制度」を事業所等に対して周知します。	保育課	該当なし	第三者評価制度は、各事業所（保育所）が任意に受審する制度であるが、県からの制度に関する情報は全保育所に周知した。	○	第三者評価実施の有無は各事業所（保育所）が判断することであり、また、市内各保育所で待機児童が生じた場合、当該評価制度を受審している保育所を保護者が希望しても入所させることができない場合がある。	既存保育所への周知は済んでいることから、今後、保育所を新設する際に当該制度について周知する。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5-2	③ 事業者の資質向上のための 研修会等の開催 事業者の資質向上のための研 修会等の実施・支援をします。	高齢者支援課	該当なし	事業所の資質向上のため、研修会の開催や各協議 会主催の研修を支援している。	○	特になし。	引き続き、事業所に対する研修会の開催や 各協議会主催の研修を支援していく。	B
		5-2		障害者支援課	障害福祉推進事 業	毎月第4週目の金曜日に相談支援事業所連絡協 議会を開催し、制度改正やサービス提供の方針につ いての共有を図った。	○	相談支援事業者以外の事 業者、または事業所が集まっ て協議できる場が現時点で 少ない。	自立支援協議会などを活用して、事業者相 互で情報交換ができる場などを設けるなど、 各事業者同士の関係を強め、個々の事業 者の質向上につなげる。	B
		5-2		保育課	保育所運営連絡 調整事業、私立保 育園運営費等補 助事業	円滑な保育事業を実施するため、定期的に市内各 保育所との連絡会を開催し、制度改正に伴う説明や 連絡調整及び情報交換を行い、市内すべての保育 所で安全で良質な保育サービスが提供できるよう努め た。 また、研修費補助金を交付することで私立保育園 で実施する研修の支援を行った。	◎	通常保育のみではなく、一時 保育・延長保育・子育て支 援センター等に関し、国の実 施要綱に合わせた事業の実 施が必要となることから、各施 設に対する情報提供や指導 が必要となる。	すべての保育所で安全で良質な保育サー ビスを提供するため、引き続き定期的な連絡 会を開催する。 また、私立保育園が実施する研修に対 しても支援を行う。	B
		5-2	④ 成年後見制度の周知等の 推進 地域包括支援センターとの連 携により、成年後見制度等の 周知に努めるとともに、成年後 見人の市長申し立て等を行 います。	社会福祉課	該当なし	成年後見制度利用促進法に基づき成年後見制度 を出来るだけ解りやすくホームページ等を通じてP R・ 啓発した。	○	複雑な制度を必要な方に解 りやすく伝えることが難しい。	引き続き成年後見制度の周知等を推進す る。	B
		5-2		高齢者支援課	地域支援任意事 業	地域包括支援センターにおいて、成年後見制度に関 する講習会を開催している。また、市では成年後見人 の市長申し立てに併せて、成年後見人選任後、後見 人への報酬支払いが困難な方に報酬額助成を行っ た。 (令和元年度実績) 市長申し立て件数 3件 成年後見人等報酬費助成 1件	○	成年後見制度の手続きは複 雑であるため、制度説明と併 せて手続方法に関する支援 を要する。	成年後見制度の周知のための講習会等の 開催や、成年後見人が必要ではあるが、親 族関係等を理由に手続きができない方の市 長申し立ての実施、後見人への報酬支払い が困難な方への報酬費助成の実施により、 成年後見制度の周知等を推進する。	B
		5-2		障害者支援課	なし	成年後見人の市長申し立てに加え、市長申し立て以 外で後見人への報酬支払いが困難な方を対象とす るよう例規改正を行い後見人報酬費助成を行った。 市長申し立て 6件 報酬費助成 3件	○	市長申し立てを行った以外で 後見人をつけた人から報酬 費助成の相談がある。	市長申し立て以外で、後見人への報酬支 払いが困難な方への報酬費助成についても 対象とした例規改正を含めて、今後も引き 続き制度の周知に努める。	B

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5 2	⑤ 事業者に対する指導及び監督の実施 地域密着型サービス等を提供する事業者に対する指導及び監督を行い、事業の適切な運営や利用しやすいサービス提供体制の充実に努めます。	高齢者支援課	該当なし	国・県からの通知等について随時情報提供を図るほか、運営推進会議に参加し、事業者からの相談に応じたり、制度の周知や情報共有を図ることにより、事業の適切な運営や利用しやすいサービス提供体制の充実に努めた。	○	特になし。	引き続き、地域密着型サービス等を提供する事業者に対する指導及び監督を行い、事業の適切な運営や利用しやすいサービス提供体制の充実に努める。	B
		5 2	⑥ 市民の意向把握の推進 福祉に関する個別計画改定の際に、アンケート調査の実施等により市民の意向の把握に努め、事業の改善に努めます。	社会福祉課	地域福祉計画推進事業	地域福祉計画策定の際に市民アンケート及び団体意見交換会を実施し、第2次地域福祉計画を策定した。	○	特になし。	今後も引き続き市民の意向の把握に努め、また、事業の改善に努める。	B
	5 2	高齢者支援課		介護保険事業	29年に実施したアンケート調査結果を踏まえて、高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画第7期計画を策定した。	○	特になし。	引き続き、第8期計画作成に際しても、同様のアンケート調査を実施する。	B	
	5 2	障害者支援課		障害福祉推進事業	障害福祉サービスの支給決定基準の制定に際して、パブリックコメントを実施するなど、必要に応じて、市民の意向の把握を行った。	○	特になし。	第5次障害者基本計画の策定時など、市の障害福祉に関する基本的な指針の決定などに際して、引き続き、市民の意向把握を行う。	B	
	5 2	子育て支援課		子ども・子育て支援事業計画策定事業	子育て支援に係る課題・ニーズを把握するとともに、教育・保育及び地域子ども子育て支援事業の量の見込みを算出するため、市民意識調査を平成30年度に実施した。このなかで、福祉に係る設問（例：経済的に困難を抱える家庭の公的な支援のニーズ）を設定し、市民意識の把握に努めた。	○	当課で実施する意識調査は、子育て支援に係る課題・ニーズを把握することを目的とするため、福祉に関する項目や対象者が限られる。	子ども・子育て支援事業計画改定の際は、市民ニーズを把握するため、意識調査を実施する予定である。	B	
	5 2	健康増進課		第2次健康よつかいどう21プラン	平成29年度に、第2次健康よつかいどう21プラン策定と今後の健康づくりに関する取り組みの実施に向けた基礎資料とするため、健康意識や行動について市民に無作為抽出のアンケートを実施した。	○	第2次計画では、新たに自殺対策計画と歯科口腔保健推進計画が加わったことでアンケート項目が増えたため、中間評価アンケート項目の精査が必要である。	令和4年度の中間評価のためのアンケート調査に向けて、わかりやすく、評価の指標にもなるアンケート内容を検討していく。	B	

基本 目標	施策	※施策 No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		5-2	<p>⑦ 生活困窮者への支援 生活保護に至る前の様々な理由により生活に困窮している人が早期に困窮状態から脱却できるように、包括的な相談支援を受けられる窓口を通じて支援を行うとともに、市の各部署や民間の関係団体とのネットワークづくりを行います。</p>	社会福祉課	生活困窮者自立支援事業	生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図り、四街道市生活困窮者自立支援事業共同事業体を通じて、生活困窮者に自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給その他の支援を行い生活向上を図った。	○	<p>コロナウイルス感染症の影響により、自立相談支援事業などを利用する人が急増したため、今後の不測の事態にも対応できる人的な支援体制を整備・強化する必要がある。</p>	<p>今後も引き続き社四街道市生活困窮者自立支援事業共同事業体を通じて、生活困窮者に対して自立相談支援事業をはじめとした事業を実施することで、生活困窮状態からの早期自立を支援する。</p>	B

基本目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施評価	課題	今後の方向性	②今後の方針
------	----	-------	--------	-----	--------	------	-------	----	--------	--------

基本目標6 地域福祉関連団体と地域の協働の促進

6-1 認知度の向上と連携の促進

6	1			高齢者支援課	該当なし	高齢者福祉ガイド「ふくし」を毎年度作成し、社会福祉協議会や地域包括支援センター、シルバー人材センター、介護者の会等の情報を掲載した。また、ホームページ上にも高齢者福祉ガイド「ふくし」を掲載した。市政だよりに介護者の会や地域包括支援センターの情報を掲載した。	○	特になし。	高齢者福祉ガイド「ふくし」や市政だよりを活用し、情報の周知を図る。	B
6	1	① 地域福祉関連団体の認知度向上 市政だよりや対象者ごとの施策ガイドブック等による情報提供を通じ、地域福祉関連団体の認知度の向上に努めます。		障害者支援課	障害福祉推進事業	福祉制度のガイドブックである「ふくし」に団体の一覧を掲載するほか、市主催の障害福祉に関する講演会の会場などに、団体の依頼を受け、パンフレットを設置するよう、周知に努めた。	○	団体によっては、加入者が高齢化し、新規の加入者がほとんどいないといった問題を抱えており、福祉団体の認知度は高くない。	引き続き、団体の周知を行い、認知度の向上に努める。	B
6	1			子育て支援課	子育て情報提供事業	子育て情報サイトは年1回情報を更新し、子育て世帯への情報提供を行った。また県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」と市HPの連携により随時新着情報を発信した。 また、子育て情報ブック「すくすく」は、冊子版、電子版を令和元年度に改定し、子育て世帯へ情報提供を行った。これらの取り組みにより地域福祉関連団体の認知度向上に努めた。 令和元年度実績 すくすくアクセス件数 14,310件。	○	現行の子育て情報サイト「すくすく」は事業者の方針転換により有償が見込まれており、今後、有償による継続または別の方法を検討していく必要がある。	県の子育て情報アプリ「ちばMystylediary」や子育て情報ブック「すくすく」のスマートフォンやタブレットにも対応する電子版を活用し、情報発信を継続する。 また、市ホームページの掲載内容を充実し、発信機能を高めていく。	B
6	1	② 市民と地域福祉関連団体の連携促進 みんなで地域づくりセンターのコーディネート活動により、市民と地域福祉関連団体の連携を促進します。		政策推進課	みんなで地域づくりセンター運営事業	みんなで地域づくりセンターが主催した「福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル」や、協力開催した「ちばユニバーサル農業フェスタ」等の実施を通じて、福祉関係機関等の連携を図った。 令和元年度「福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル」来場者数：830人 令和元年度「ちばユニバーサル農業フェスタ」:会場となる文化センターが工事のため、神崎町で実施	○	多様な地域ニーズを的確に把握し、福祉関係機関等との効果的な連携を図っていくための情報収集等の強化が求められる。	みんなで地域づくりセンターのコーディネート機能の充実や、各種講座等を通じた福祉関係機関等の連携を図ることで、幅広い団体等のネットワークづくりに努める。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		6-1	③ 社会福祉協議会への運営支援 「共助」の推進の中心的な役割を担う、社会福祉協議会の運営支援を行います。	社会福祉課	社会福祉協議会支援事業	地域福祉活動推進事業や在宅福祉活動事業等を行う社会福祉協議会運営費の一部について補助を行った。 また、社会福祉協議会が市の地域活動を担う基礎的な組織として設置する地区社会福祉協議会の活動拠点の設置及び事業活動について補助を行った。	○	地区社会福祉協議会の補助金は社会福祉基金が原資となっていることから、当該基金の状況を注視しながら事業を行う必要がある。	今後も引き続き社会福祉協議会の運営を支援することにより地域福祉の推進を行う。	B
		6-1	④ 民生委員への支援 地域におけるひとり親家庭や一人暮らし高齢者等の生活状況を把握し、地域の良き相談相手、関係機関へのつなぎ役を担う民生委員の活動を支援します。	社会福祉課	民生委員事業	地域福祉の担い手である民生委員の活動を支援するための補助金を交付した。市民生委員児童委員協議会の事務局として、関係各課への連絡調整を行うなど、民生委員が活動しやすくなるよう支援した。 令和元年度相談件数:1619件、訪問回数:30257回 活動日数:20792日 委員数:~11月136名12月~132名	○	委員のなり手が不足し、欠員地区が生じている。 高齢化が進み、また、地域の問題も複雑・多様化し、委員でおり、委員の負担を軽減することも必要である。	引き続き地域の担い手である民生委員活動を支援する。 民生委員推薦会や民生委員推薦準備会の委員等の協力を仰ぎながら、民生委員の確保に努める。	B
		6-1	を把握し、地域の良き相談相手、関係機関へのつなぎ役を担う民生委員の活動を支援します。	高齢者支援課	該当なし	高齢者に関するサービスや事業の周知を図った。 周知方法としては、高齢者福祉ガイド「ふくし」の配布や各種事業（緊急通報装置・介護予防事業・生活支援体制整備事業）の説明を行った。	○	法改正等により、複雑化している制度をいかに理解しやすいように説明することができるかが課題である。	今後も、制度改正や周知すべき事業がある場合には、説明会等を通じて情報提供を行う。	B
		6-1		子育て支援課	ひとり親家庭等支援事業	民生委員・児童委員協議会を通じて、地域を担当する民生委員に、ひとり親家庭世帯情報を提供し、当該家庭で支援が必要な場合の速やかな連絡体制を整えた。	○	特になし。	今後も事業を継続する。	B
		6-1	⑤「児童及び配偶者等に対する暴力防止対策地域協議会」の開催 「児童及び配偶者等に対する暴力防止対策地域協議会」を開催し、関係機関との連携や相談体制等の機能充実を図ります。また、虐待についての通告の義務について、市民への周知・啓発を行います。	子育て支援課	児童虐待防止・DV被害者支援事業	例年、代表者部会、実務者部会(全体会)を開催し、関係機関との連携や相談体制等の充実を図りました。また、厚生労働省の虐待通告に関するパンフレット等啓発物資を市内公共施設、医療機関、商業施設等に配布した。	○	特になし。	今後も例年同様に事業を実施する。	B

基本 目標	施策	※施策No	取り組み内容	担当課	該当事務事業	主な実績	①実施 評価	課題	今後の方向性	②今後 の方針
		6-1	⑥ 地域包括ケアシステムの構築 地域における様々なサービスが、高齢者のニーズや状態に応じて包括的に提供されるよう、地域包括ケアシステムの構築を図ります。	高齢者支援課	該当なし	在宅医療と介護の連携を推進するため、在宅医療・介護連携支援センターを設置し、事業所からの相談対応や医療機関と介護事業所の連携強化を図っている。また、高齢者の介護予防を推進するとともに、介護が必要になっても住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域住民の支えあいを推進している。	○	高齢者人口の増加により、在宅高齢者の介護や医療のニーズが増えることが予想される。	引き続き、要介護状態になることの予防を推進するとともに、介護や医療が必要になっても住み慣れた地域で生活が続けられるような体制の整備を行う。	B
		6-1	⑦ 高齢者の虐待防止、早期発見・対応の推進 高齢者の虐待防止、早期発見・対応を図るために、高齢者虐待防止ネットワーク会議※の開催や地域包括支援センターとの連携を図ります。	高齢者支援課	地域包括支援センター運営事業	地域包括支援センターをはじめとした関係機関と虐待対応のための個別ケース会議を随時、開催し、対応策の検討や支援を実施している。高齢者虐待防止ネットワーク会議を年1回開催している。	○	被虐待者や養護者が抱えている問題が複雑・多様化しているため、個別ケース会議の中で対応策の結論が見出しにくくなることもある。	引き続き、個別ケース会議や高齢者虐待防止ネットワーク会議を実施し、虐待防止や早期発見・対応を図る。	B
		6-1	⑧ 障害者自立支援協議会と連携した相談支援ネットワークの構築 障害者自立支援協議会と連携し、地域の関係機関等による相談支援ネットワークを構築することで、地域での支え合いを推進します。	障害者支援課	障害福祉推進事業	障害者自立支援協議会の生活部会において、緊急時対応のネットワーク体制である地域生活支援拠点整備に向けての検討を行った。	○	拠点に向けて検討を要する範囲が広く、何を中心に話をしていくか絞り込みが難しい。	生活部会の中で、検討する内容に応じて班を分けて検討を行うなど、整備に向けて、検討を続ける。	B
		6-1	⑨ 地域の教育力を教育活動に生かす支援体制づくり 保護者や地域の人材等、地域の教育力を各学校の教育活動に生かすため、各校に調整役として「地域コーディネーター」を位置付け、支援体制づくりを図ります。	社会教育課	学校支援活動事業	地域コーディネーターが中心となり、学校ごとに「学校支援推進会議」を開催した。学校と地域ボランティアの連携・協力体制が深まり、地域に根ざした学校づくりを推進することができた。また、「地域コーディネーター会議」を年2回開催したことで、地域コーディネーター同士の情報交換ができ、各校での体制づくりの推進に役立てることができた。	○	地域コーディネーターの高齢化や、固定化が進んでいるため、人材確保を計画的に行う必要がある。	「地域コーディネーター会議」の開催や各校の「学校支援推進会議」への訪問を行い、学校と地域コーディネーター間、地域コーディネーター間の連携を維持していけるよう支援していく。	B

**第3次四街道市地域福祉計画策定に係る
基礎調査報告書**

【速報】

令和2年 8月

四街道市

(白場)

目次

I. 基礎調査の概要	1
1 調査の目的.....	2
2 調査概要.....	2
3 団体アンケートにおける調査対象一覧.....	3
4 報告書の見方.....	4
II. 市民アンケート調査結果	5
1 回答者自身について.....	6
2 「地域との関わり」について.....	10
3 「地域での活動」について.....	18
4 「福祉の考え方」について.....	29
5 「地域の変化」について.....	37
6 「地域における支え合い」について.....	41
7 「福祉に関する情報・相談など」について.....	47
8 「防災」について.....	62
9 「福祉教育・学習」について.....	65
10 「福祉全般」について.....	69
III. 団体アンケート調査結果	83
1 団体が行っている福祉に関する活動について.....	84
2 地域包括ケアシステム等について.....	88
3 団体が活動する地域について.....	90
4 四街道市の現状について.....	98
5 今後の活動について.....	100
IV. 団体意見交換会・まとめ	105
1 第1回意見交換会の主な意見.....	106
2 第2回意見交換会の主な意見.....	111

I . 基礎調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第3次四街道市地域福祉計画策定にあたり、市民や団体の方の状況やご意見などを広くお聞きし、計画策定のための基礎資料とするために実施しました。

2 調査概要

①市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">●調査地域:四街道市全域●調査対象者:18歳以上の市内在住者 (2,000名を無作為抽出)●調査期間:令和2年6月8日～6月23日●調査方法:郵送による発送・回収●回収件数:1,202件(回収率60.1%)
②団体アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">●調査対象者: 四街道市の地域福祉の中核を担う団体 (30団体)●調査期間:令和2年6月8日～6月23日●調査方法:郵送による発送・回収●回収件数:27件(回収率90.0%)
③団体意見交換会	<ul style="list-style-type: none">●対象者: 四街道市の地域福祉の中核を担う団体 (21団体)●開催場所:保健センター3階大会議室●開催日時・参加人数: 令和2年7月9日 13:30～15:00／15名 令和2年7月13日 10:00～11:30／13名●議題:<ul style="list-style-type: none">①日常の活動(地域内、団体内)を通じて、課題や問題となっていることについて②①を解決するために障がいとなっていること、具体的な解決策について③その他の地域福祉の推進に関する意見・要望について

3 団体アンケートにおける調査対象一覧

No.	団体名
1	千代田中学校地区社会福祉協議会
2	四街道北中学校地区社会福祉協議会
3	四街道西中学校A地区社会福祉協議会
4	四街道西中学校B地区社会福祉協議会
5	四街道中学校地区社会福祉協議会
6	旭中学校地区社会福祉協議会
7	福祉協力員
8	四街道市ボランティア連絡協議会
9	特別養護老人ホームあすみの丘
10	四街道市身体障害者福祉会
11	四街道市婦人会
12	四街道市PTA連絡協議会
13	四街道市社会福祉協議会
14	四街道市更生保護女性会
15	四街道市保護司会
16	四街道市シニアクラブ連合会
17	四街道市赤十字奉仕団
18	四街道市保健推進員
19	千代田中学校地区民生委員・児童委員協議会
20	北中学校地区民生委員・児童委員協議会
21	西中学校A地区民生委員・児童委員協議会
22	西中学校B地区民生委員・児童委員協議会
23	四街道中学校地区民生委員・児童委員協議会
24	旭中学校地区民生委員・児童委員協議会
25	NPO 法人 四街道こどもネットワーク
26	NPO 法人四街道プレーパークどんぐりの森
27	わろうべの里づくりの会（わろうべ会）
28	蔵の図書館
29	認定 NPO 法人 たすけあいの会ふきのとう
30	四街道市障害者親の会連絡会のぞみの会

4 報告書の見方

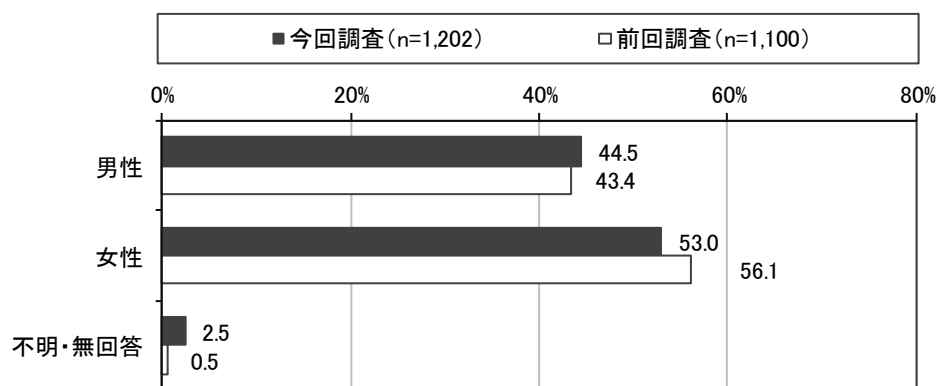
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- グラフおよび表のn数は、各設問に対する有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 設問によって、一部「n」の数（サンプル数）が少ない場合があることから、その場合は参考値とします。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ. 市民アンケート調査結果

1 回答者自身について

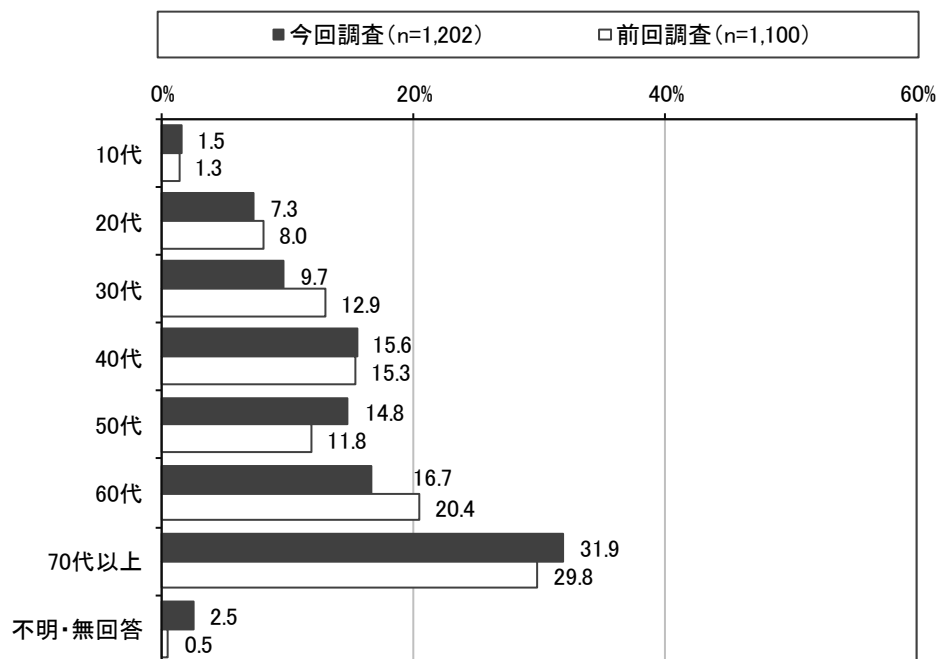
問 1 あなたの性別はどちらですか。(単数回答)

「男性」が44.5%、「女性」が53.0%となっています。
前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問 2 あなたの年代はどれですか。(単数回答)

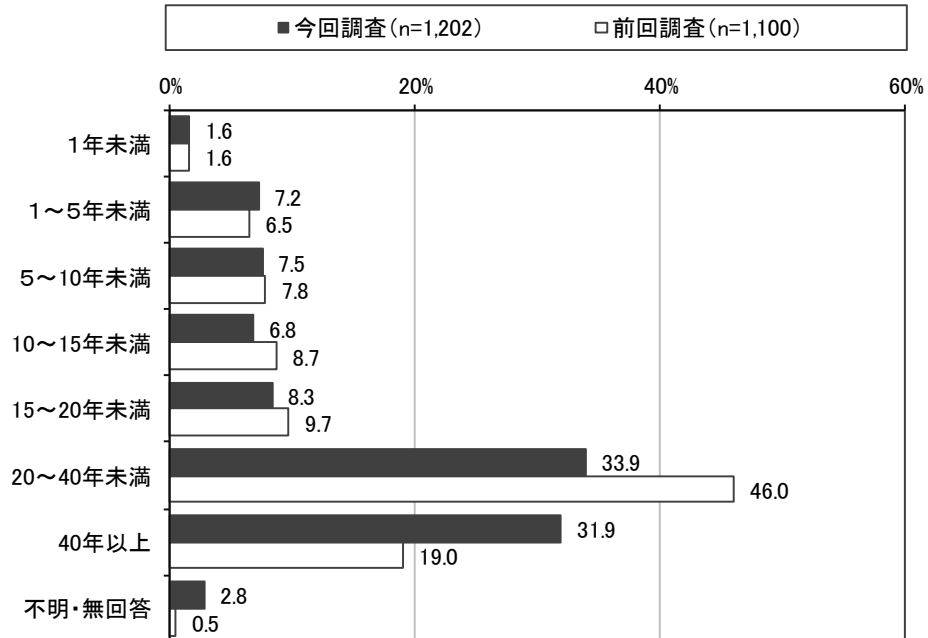
「70代以上」が31.9%と最も多く、次いで「60代」が16.7%、「40代」が15.6%となっています。
前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問 3 あなたは四街道市内に何年住んでいますか。(単数回答)

「20～40年未満」が33.9%と最も多く、次いで「40年以上」が31.9%となっています。

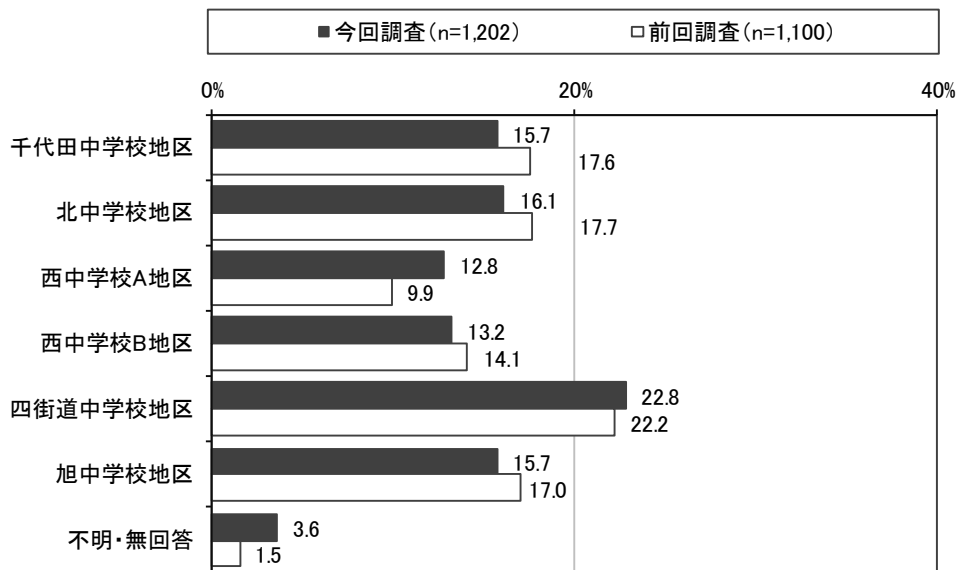
前回調査と比較すると、「40年以上」が12.9ポイント前回より多く、「20～40年未満」が12.1ポイント前回より少なくなっています。



問 4 お住まいの地区はどこですか。(単数回答)

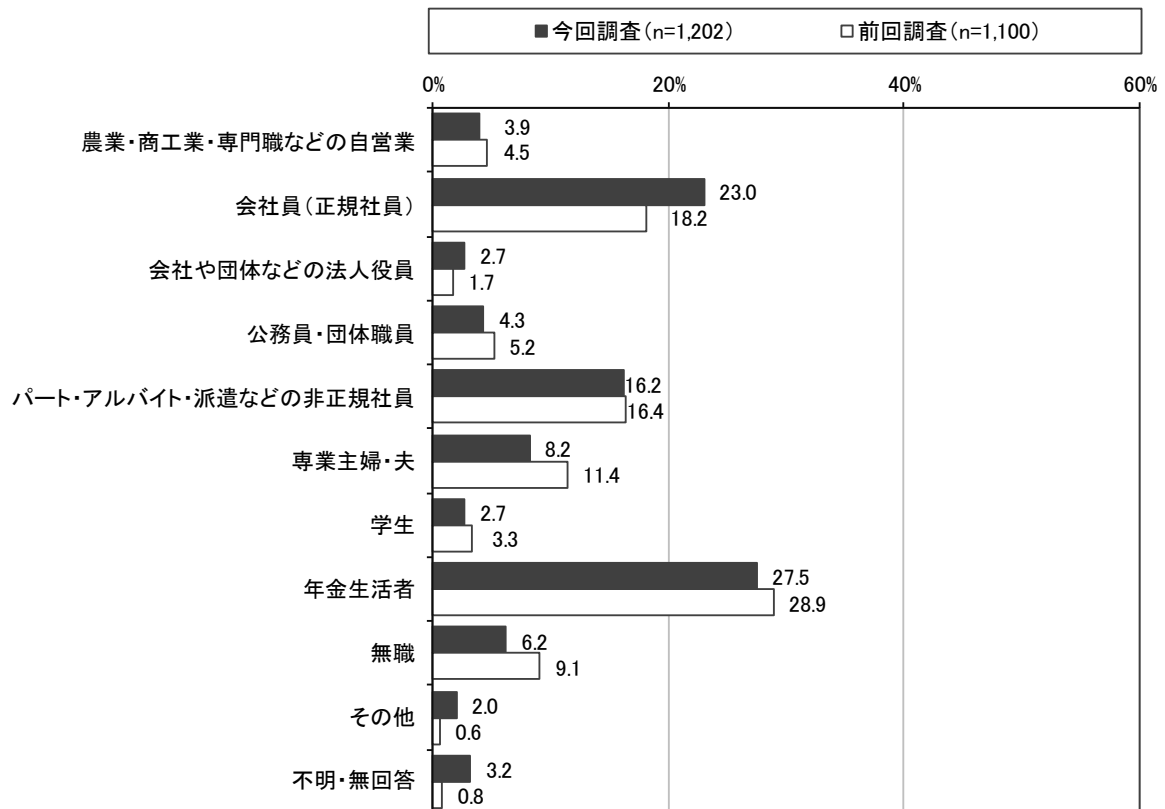
「四街道中学校地区」が22.8%と最も多く、次いで「北中学校地区」が16.1%などとなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問 5 あなたの主な職業は何ですか。(単数回答)

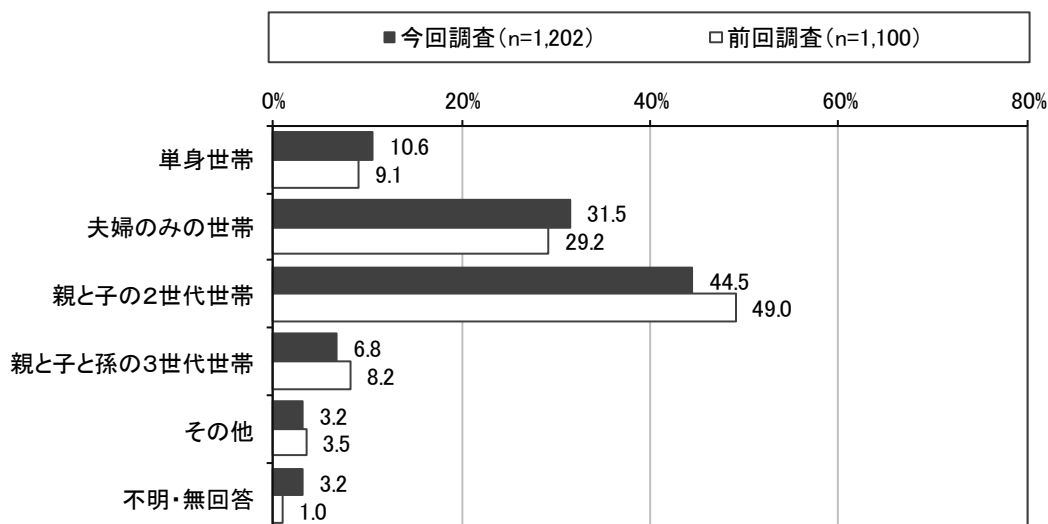
「年金生活者」が27.5%と最も多く、次いで「会社員（正規社員）」が23.0%となっています。前回調査と比較すると、「会社員（正規社員）」が4.8ポイント前回より多くなっています。



問 6 あなたの家族（世帯）構成はどのようになっていますか。（単数回答）

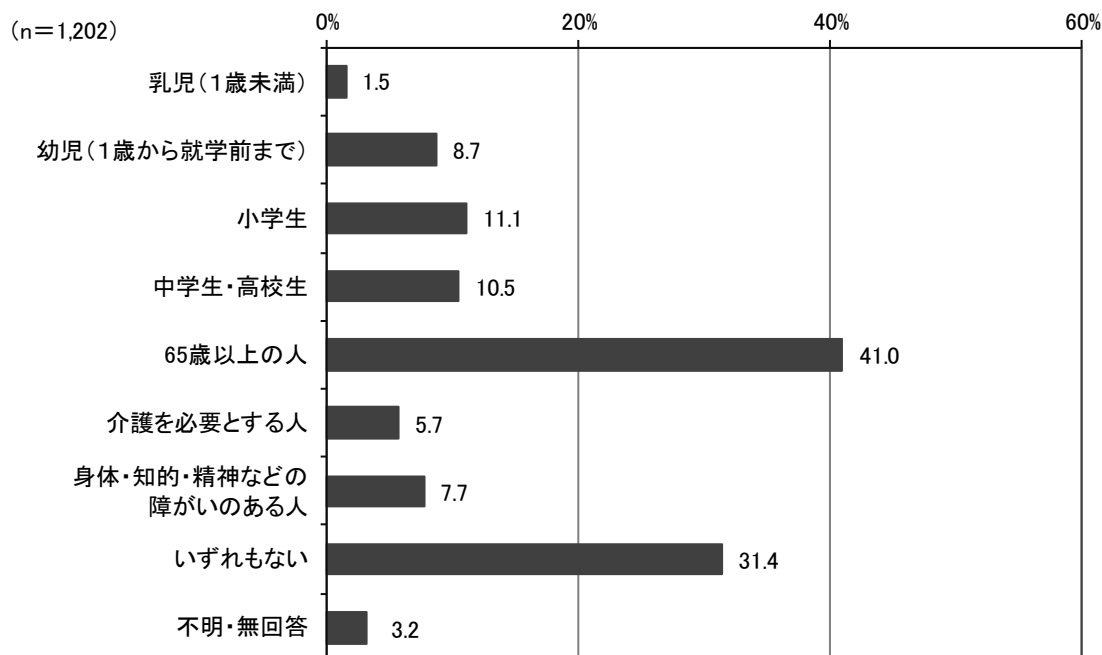
「親と子の2世代世帯」が44.5%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が31.5%となっています。

前回調査と比較すると、「親と子の2世代世帯」が4.5ポイント前回より少なくなっています。



問 7 あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。（複数回答）

「65歳以上の人」が41.0%と最も多く、次いで「いずれもない」が31.4%となっています。

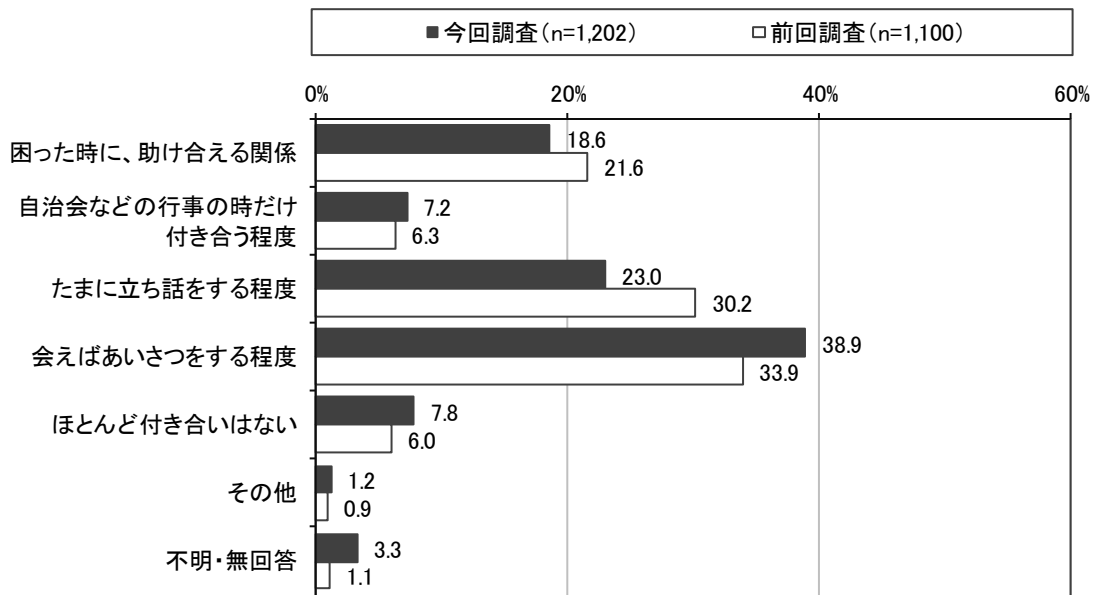


2 「地域との関わり」について

問 8 あなたは、現在、ご近所とどのようなお付き合いをされていますか。(単数回答)

「会えばあいさつをする程度」が38.9%と最も多く、次いで「たまに立ち話をする程度」が23.0%となっています。

前回調査と比較すると、「会えばあいさつをする程度」が5.0ポイント前回より多く、「たまに立ち話をする程度」が7.2ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、70代以上では「困った時に、助け合える関係」が、それ以外の年代では「会えばあいさつをする程度」が最も多く、特に「会えばあいさつをする程度」については、年代が下がる程「会えばあいさつをする程度」の割合が概ね多くなっており、10～20代では全体より10ポイント以上多くなっています。

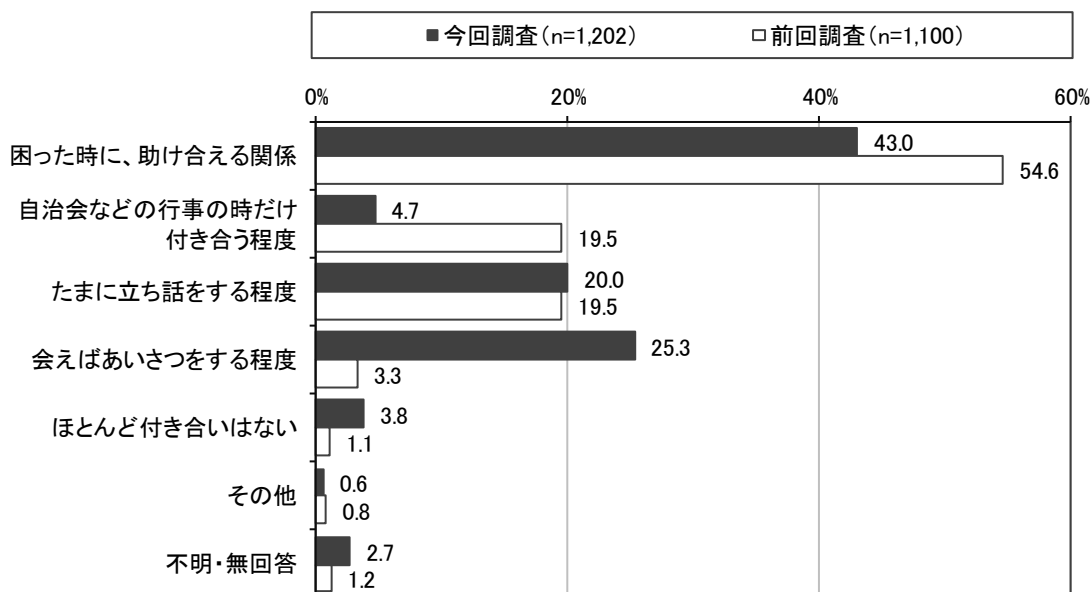
地区別をみると、いずれも「会えばあいさつをする程度」が最も多く、特に西中学校 A 地区と B 地区では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、西中学校 A 地区では「ほとんど付き合いはない」が、旭中学校地区では「困った時に、助け合える関係」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		困った時に、助け合える関係	自治会などの行事の時だけ付き合う程度	たまに立ち話をする程度	会えばあいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	その他	無回答
合計 (n=1,202)		18.6	7.2	23.0	38.9	7.8	1.2	3.3
年齢別	10代 (n=18)	5.6	0.0	5.6	72.2	11.1	0.0	5.6
	20代 (n=88)	2.3	2.3	17.0	59.1	15.9	0.0	3.4
	30代 (n=116)	13.8	4.3	18.1	46.6	15.5	0.9	0.9
	40代 (n=188)	17.6	3.2	19.1	45.7	10.6	0.5	3.2
	50代 (n=178)	15.2	7.9	15.7	47.8	9.0	0.6	3.9
	60代 (n=201)	16.4	9.5	31.3	33.3	5.5	1.0	3.0
	70代以上 (n=383)	27.9	9.9	26.1	26.6	3.1	2.3	3.9
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	21.7	9.5	24.9	34.4	5.8	1.6	2.1
	北中学校地区 (n=194)	20.1	7.7	24.7	34.0	8.2	1.5	3.6
	西中学校A地区 (n=154)	13.6	7.1	13.6	48.1	13.0	0.0	4.5
	西中学校B地区 (n=159)	14.5	8.2	20.8	44.0	6.3	1.9	4.4
	四街道中学校地区 (n=274)	16.1	6.9	25.2	38.7	9.1	0.4	3.6
	旭中学校地区 (n=189)	25.9	3.2	22.8	39.2	5.3	2.1	1.6

問 9 あなたは、今後、ご近所とどのようなお付き合いができるとうよいと思いますか。
(単数回答)

「困った時に、助け合える関係」が 43.0%と最も多く、次いで「会えばあいさつをする程度」が 25.3%となっています。

前回調査と比較すると、「会えばあいさつをする程度」が 22.0 ポイント前回より多く、「自治会などの行事の時だけ付き合う程度」が 14.8 ポイント、「困った時に、助け合える関係」が 11.6 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

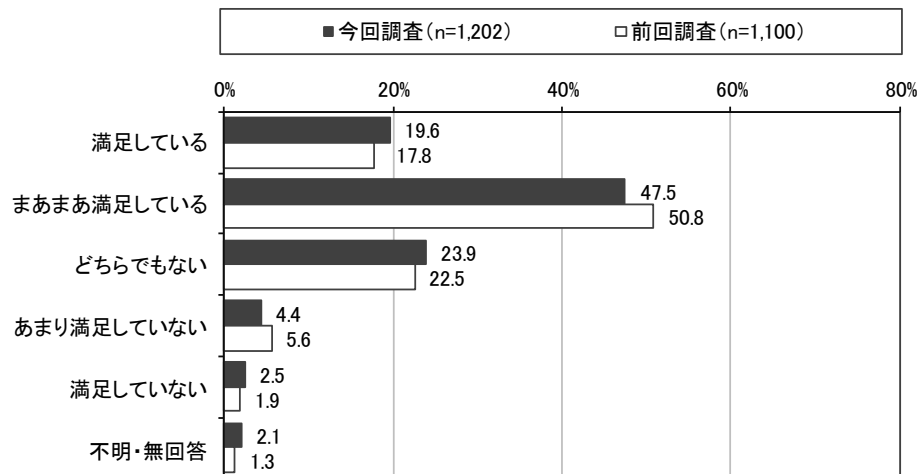
年代別をみると、20代では「会えばあいさつをする程度でよい」が、それ以外の年代では「困った時に、助け合える関係」が最も多く、特に20代の「会えばあいさつをする程度でよい」では、全体より13.3ポイント多くなっています。また、10代では「あまり付き合いたくない」が全体より12.9ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「困った時に、助け合える関係」が最も多く、特に千代田中学校地区では、全体より6.2ポイント多くなっています。

(単位:%)		関係	困った時に、助け合える	時自 だけ 付会 合な いた たの 事行 の	でた よま いに 立ち 話を する 程度	会 え ば あ い さ つ を す る 程 度	あ ま り 付 き 合 い た く な い	そ の 他	無 回 答
合計	(n=1,202)	43.0	4.7	20.0	25.3	3.8	0.6	2.7	
年齢別	10代	(n=18)	44.4	5.6	0.0	27.8	16.7	0.0	5.6
	20代	(n=88)	35.2	0.0	19.3	38.6	6.8	0.0	0.0
	30代	(n=116)	44.8	5.2	17.2	28.4	4.3	0.0	0.0
	40代	(n=188)	37.8	2.7	22.3	27.7	5.9	0.5	3.2
	50代	(n=178)	42.1	6.2	14.6	30.3	3.9	0.0	2.8
	60代	(n=201)	41.3	5.5	21.9	23.9	4.0	1.0	2.5
	70代以上	(n=383)	48.6	5.5	21.4	18.3	1.6	1.0	3.7
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	49.2	6.3	18.0	23.8	1.6	0.0	1.1
	北中学校地区	(n=194)	44.8	5.7	20.1	22.2	3.6	0.5	3.1
	西中学校A地区	(n=154)	36.4	7.8	17.5	29.9	4.5	0.0	3.9
	西中学校B地区	(n=159)	39.0	4.4	21.4	27.7	3.8	1.9	1.9
	四街道中学校地区	(n=274)	42.0	2.6	21.9	24.8	5.1	0.0	3.6
	旭中学校地区	(n=189)	46.0	2.6	18.5	25.4	4.2	1.6	1.6

問 10 現在お住まいの地域との関わりについて、あなたは満足していますか。
(単数回答)

「まあまあ満足している」が47.5%と最も多く、「満足している」(19.6%)を合わせた“満足している”は67.1%となっています。また「どちらでもない」は23.9%で、「あまり満足していない」(4.4%)と「満足していない」(2.5%)を合わせた“満足していない”は6.9%となっています。前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

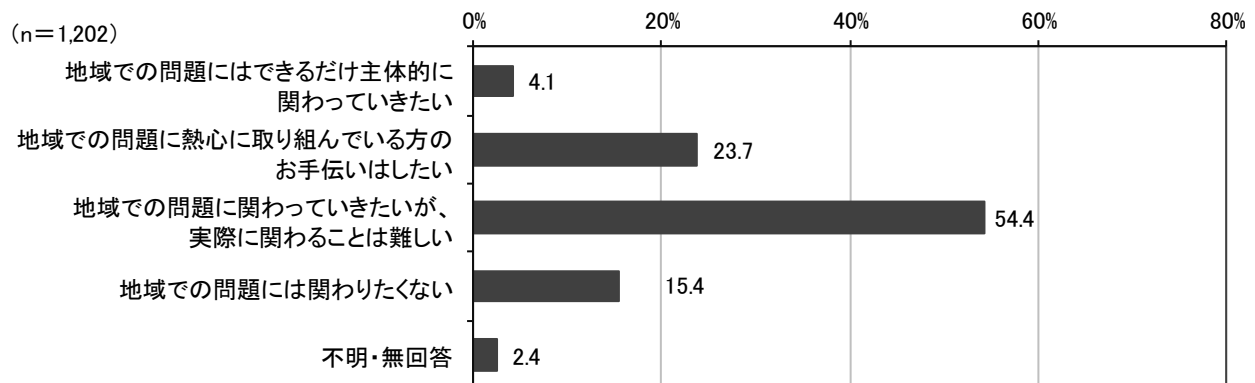
年代別をみると、10代では「満足している」が、それ以外の年代では「まあまあ満足している」が最も多く、特に10代の「満足している」では、全体より24.8ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「まあまあ満足している」が最も多く、特に千代田中学校地区では、全体より7.5ポイント多くなっています。また、北中学校地区では「満足している」が、西中学校A地区では「どちらでもない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位: %)		満足している	まあまあ満足している	どちらでもない	あまり満足していない	満足していない	無回答
合計	(n=1,202)	19.6	47.5	23.9	4.4	2.5	2.1
年齢別	10代 (n=18)	44.4	22.2	22.2	5.6	0.0	5.6
	20代 (n=88)	29.5	39.8	28.4	1.1	1.1	0.0
	30代 (n=116)	16.4	46.6	31.0	2.6	3.4	0.0
	40代 (n=188)	16.0	44.1	30.3	4.8	1.6	3.2
	50代 (n=178)	15.2	41.0	32.6	6.2	2.2	2.8
	60代 (n=201)	15.9	49.3	23.4	5.0	4.5	2.0
	70代以上 (n=383)	23.2	54.3	13.8	4.4	2.1	2.1
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	20.1	55.0	19.6	3.7	0.5	1.1
	北中学校地区 (n=194)	26.8	44.3	22.7	2.6	2.1	1.5
	西中学校A地区 (n=154)	14.9	41.6	29.2	4.5	6.5	3.2
	西中学校B地区 (n=159)	15.1	52.2	25.2	4.4	1.9	1.3
	四街道中学校地区 (n=274)	20.8	43.1	24.8	5.5	3.3	2.6
	旭中学校地区 (n=189)	17.5	50.8	22.2	5.8	1.1	2.6

問 11 地域での問題とあなたの関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（単数回答）

「地域での問題に関わっていきたいが、実際に関わることは難しい」が 54.4%と最も多くなっています。また、次いで多い「地域での問題に熱心に取り組んでいる方のお手伝いはしたいと思う」（23.7%）と「地域での問題にはできるだけ主体的に関わっていきたい」（4.1%）を合わせた“地域での問題に関わりたい”は 27.8%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

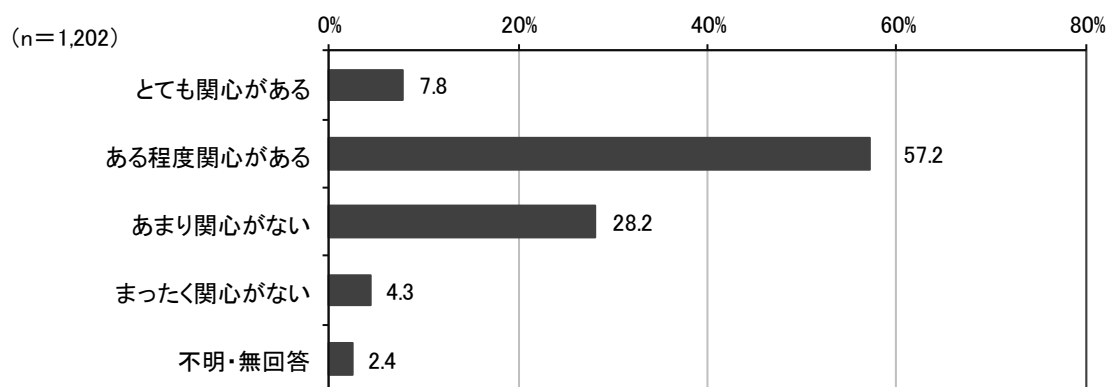
年代別をみると、いずれも「地域での問題に関わっていきたいが、実際に関わることは難しい」が最も多くなっています。また、10～30代では「地域での問題には関わりたくない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「地域での問題に関わっていきたいが、実際に関わることは難しい」が最も多く、特に西中学校 B 地区では、全体より 5.3 ポイント多くなっています。また、千代田中学校地区では「地域での問題に熱心に取り組んでいる方のお手伝いはしたい」が全体より 8.0 ポイント多くなっています。

(単位:%)		主体的に関わってほしい	地域での問題に関わってほしいが、実際に関わることは難しい	地域での問題には関わりたくない	無回答		
合計	(n=1,202)	4.1	23.7	54.4	15.4	2.4	
年齢別	10代	(n=18)	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6
	20代	(n=88)	1.1	25.0	51.1	22.7	0.0
	30代	(n=116)	4.3	20.7	49.1	25.9	0.0
	40代	(n=188)	2.1	20.7	59.0	14.9	3.2
	50代	(n=178)	1.7	23.0	57.9	14.6	2.8
	60代	(n=201)	2.5	26.4	54.7	13.4	3.0
	70代以上	(n=383)	7.0	25.3	54.0	11.0	2.6
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	3.2	31.7	49.2	14.3	1.6
	北中学校地区	(n=194)	4.1	26.3	52.1	15.5	2.1
	西中学校A地区	(n=154)	3.2	16.9	59.1	17.5	3.2
	西中学校B地区	(n=159)	4.4	20.8	59.7	13.8	1.3
	四街道中学校地区	(n=274)	2.2	24.1	52.9	17.2	3.6
	旭中学校地区	(n=189)	6.3	22.8	57.1	11.6	2.1

問 12 「地域福祉」とは、支援を必要としている人をはじめ、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民が主役で進める取り組みの事です。あなたは「地域福祉」に関心をおもちですか。（単数回答）

「ある程度関心がある」が57.2%と最も多く、「とても関心がある」(7.8%)を合わせた“関心がある”は65.0%となっています。反対に、「あまり関心がない」(28.2%)と「まったく関心がない」(4.3%)を合わせた“関心がない”は32.5%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多くなっています。また、10代では「まったく関心がない」が、20～30代では「あまり関心がない」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に千代田中学校地区では、全体より9.5ポイント多くなっています。また、西中学校A地区と四街道中学校地区では「あまり関心がない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

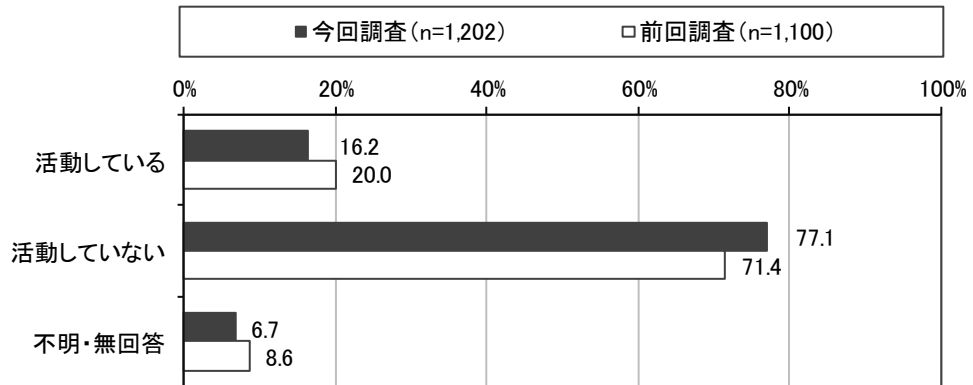
(単位:%)		関と 心て がも あ る	関あ 心る が程 あ る	関あ 心ま がり な い	関ま 心つ がた なく い	無 回 答
合計	(n=1,202)	7.8	57.2	28.2	4.3	2.4
年 齢 別	10代 (n=18)	11.1	44.4	16.7	22.2	5.6
	20代 (n=88)	8.0	45.5	38.6	8.0	0.0
	30代 (n=116)	4.3	49.1	38.8	7.8	0.0
	40代 (n=188)	2.1	56.4	34.0	3.7	3.7
	50代 (n=178)	3.4	54.5	35.4	3.9	2.8
	60代 (n=201)	6.5	62.2	26.4	2.5	2.5
	70代以上 (n=383)	14.4	62.7	18.0	2.3	2.6
地 区 別	千代田中学校地区 (n=189)	8.5	66.7	20.1	3.2	1.6
	北中学校地区 (n=194)	9.3	56.7	30.4	2.1	1.5
	西中学校A地区 (n=154)	5.8	50.0	34.4	6.5	3.2
	西中学校B地区 (n=159)	8.8	61.6	23.9	3.8	1.9
	四街道中学校地区 (n=274)	5.5	51.5	33.2	6.6	3.3
	旭中学校地区 (n=189)	9.5	58.2	27.5	2.1	2.6

3 「地域での活動」について

問 13-1 あなたは現在、地域で活動していますか。(単数回答)

「活動している」が16.2%、「活動していない」が77.1%となっています。

前回調査と比較すると、「活動していない」が5.7ポイント前回より多くなっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

年代別をみると、いずれも「活動していない」が最も多く、特に10~40代以上では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、70代以上では「活動している」が全体より9.6ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「活動していない」が最も多くなっています。また、千代田中学校地区では「活動している」が全体より8.7ポイント多くなっています。

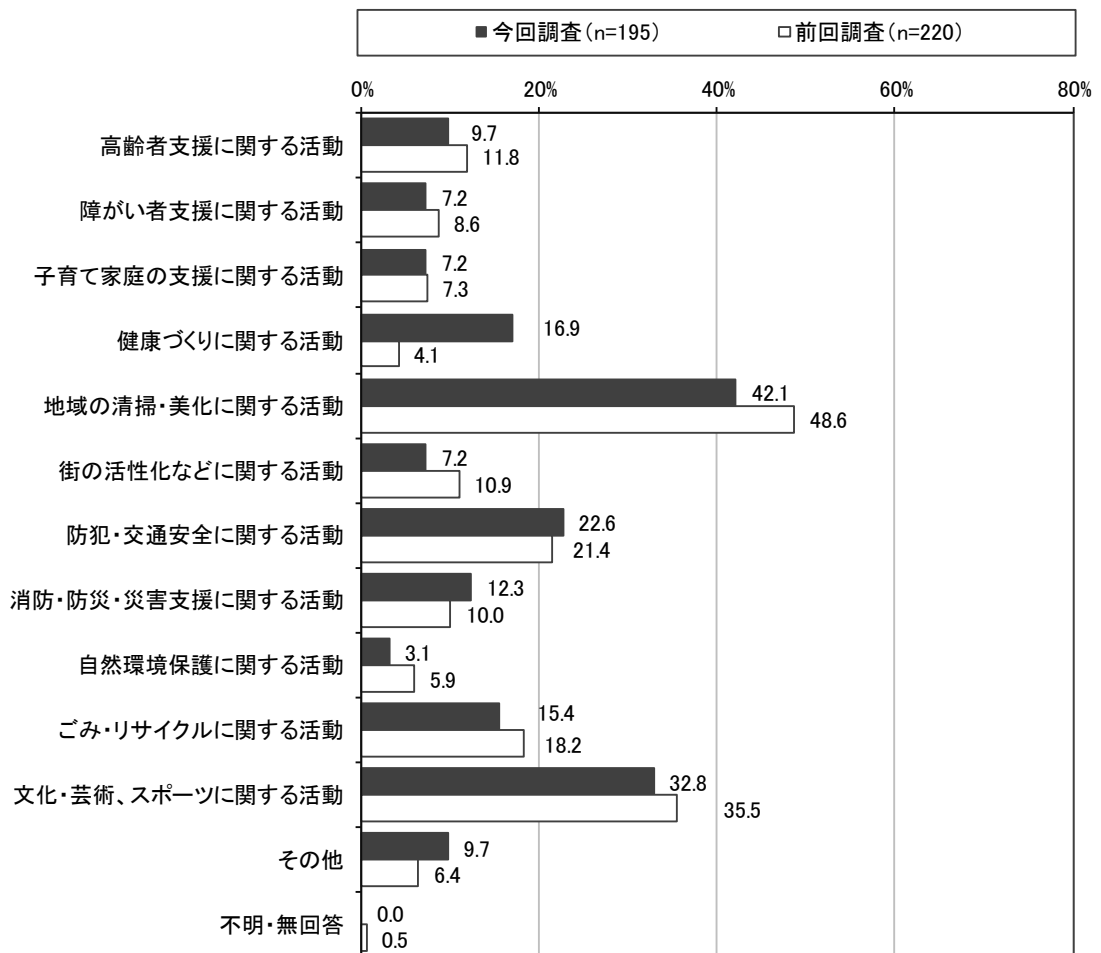
(単位:%)		活動している	活動していない	無回答
合計	(n=1,202)	16.2	77.1	6.7
年齢別	10代 (n=18)	5.6	83.3	11.1
	20代 (n=88)	6.8	92.0	1.1
	30代 (n=116)	8.6	89.7	1.7
	40代 (n=188)	10.6	86.7	2.7
	50代 (n=178)	11.2	80.9	7.9
	60代 (n=201)	15.9	74.1	10.0
	70代以上 (n=383)	25.8	65.0	9.1
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	24.9	68.8	6.3
	北中学校地区 (n=194)	19.6	74.2	6.2
	西中学校A地区 (n=154)	9.1	84.4	6.5
	西中学校B地区 (n=159)	15.1	80.5	4.4
	四街道中学校地区 (n=274)	12.8	80.3	6.9
	旭中学校地区 (n=189)	15.3	75.1	9.5

(問 13-1で「活動している」を選んだ方)

問 13-2 あなたは地域で、どのような活動をしていますか。(複数回答)

「地域の清掃・美化に関する活動」が42.1%と最も多く、次いで「文化・芸術、スポーツに関する活動」が32.8%となっています。

前回調査と比較すると、「健康づくりに関する活動」が12.8ポイント前回より多く、「地域の清掃・美化に関する活動」が6.5ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「その他」が、40代では「文化・芸術、スポーツに関する活動」が、60代では「地域の清掃・美化に関する活動」と「防犯・交通安全に関する活動」が、それ以外の年代では「地域の清掃・美化に関する活動」が最も多く、特に10代の「その他」では、全体より90.3ポイント多くなっています。また、30代では「子育て家庭の支援に関する活動」が、40代では「子育て家庭の支援に関する活動」と「防犯・交通安全に関する活動」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、西中学校A地区では「文化・芸術、スポーツに関する活動」が、それ以外の地区では「地域の清掃・美化に関する活動」が最も多くなっています。また、西中学校A地区と旭中学校地区では「防犯・交通安全に関する活動」が全体より10ポイント以上多くなっています。

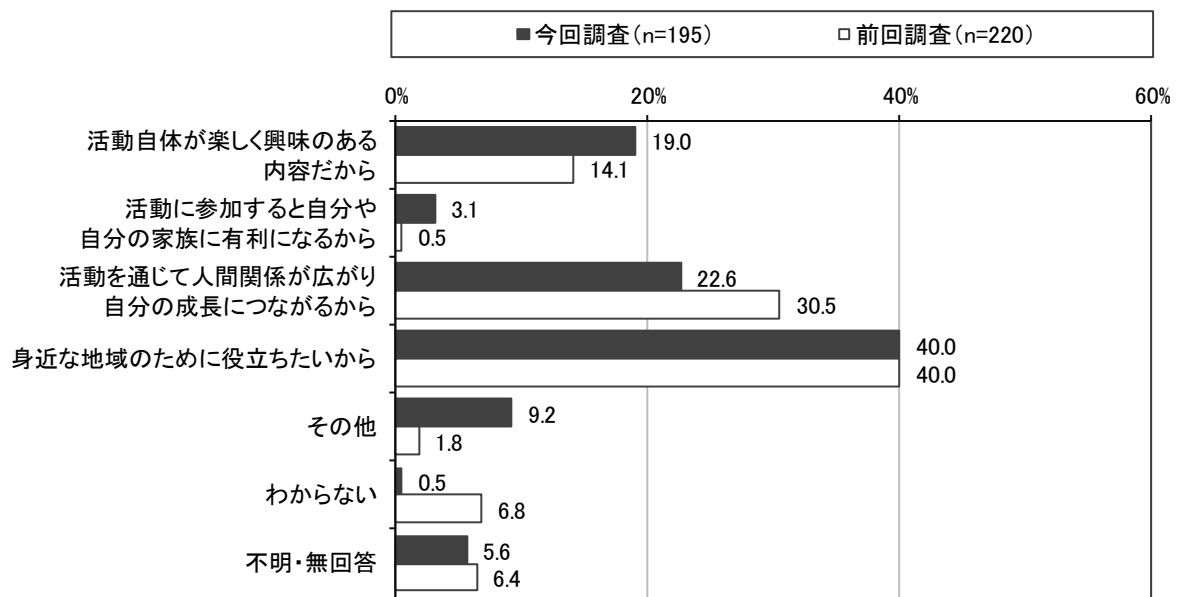
(単位:%)		高齢者支援に関する活動	障がい者支援に関する活動	子育て家庭の支援に関する活動	健康づくりに関する活動	地域の清掃・美化に関する活動	街の活性化などに関する活動	防犯・交通安全に関する活動	消防・防災・災害支援に関する活動	自然環境保護に関する活動	ごみ・リサイクルに関する活動	文化・芸術、スポーツに関する活動	その他	無回答
合計	(n=195)	9.7	7.2	7.2	16.9	42.1	7.2	22.6	12.3	3.1	15.4	32.8	9.7	0.0
年齢別	10代 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代 (n=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	30代 (n=10)	0.0	10.0	30.0	0.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0
	40代 (n=20)	0.0	0.0	20.0	0.0	30.0	5.0	35.0	10.0	0.0	10.0	40.0	10.0	0.0
	50代 (n=20)	0.0	5.0	5.0	10.0	50.0	0.0	15.0	0.0	0.0	15.0	40.0	10.0	0.0
	60代 (n=32)	18.8	6.3	6.3	18.8	28.1	0.0	28.1	15.6	3.1	9.4	21.9	6.3	0.0
	70代以上 (n=99)	12.1	8.1	3.0	21.2	47.5	11.1	25.3	13.1	4.0	16.2	37.4	11.1	0.0
地区別	千代田中学校地区 (n=47)	10.6	2.1	6.4	12.8	46.8	8.5	17.0	8.5	0.0	17.0	40.4	10.6	0.0
	北中学校地区 (n=38)	13.2	10.5	5.3	18.4	50.0	5.3	31.6	10.5	0.0	13.2	34.2	0.0	0.0
	西中学校A地区 (n=14)	14.3	7.1	0.0	14.3	35.7	0.0	35.7	14.3	0.0	35.7	42.9	0.0	0.0
	西中学校B地区 (n=24)	0.0	0.0	4.2	4.2	41.7	0.0	16.7	8.3	4.2	16.7	29.2	16.7	0.0
	四街道中学校地区 (n=35)	14.3	11.4	11.4	17.1	31.4	8.6	14.3	17.1	2.9	8.6	28.6	11.4	0.0
	旭中学校地区 (n=29)	3.4	10.3	10.3	24.1	41.4	13.8	34.5	13.8	10.3	6.9	17.2	17.2	0.0

(問 13-1で「活動している」を選んだ方)

問 13-3 活動に参加している理由として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。
(単数回答)

「身近な地域のために役立ちたいから」が 40.0%と最も多く、次いで「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が 22.6%となっています。

前回調査と比較すると、「その他」が 7.4 ポイント前回より多く、「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が 7.9 ポイント、「わからない」が 6.3 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「活動自体が楽しく興味のある内容だから」が、20代では「その他」が、それ以外の年代では「身近な地域のために役立ちたいから」が最も多く、特に10代の「活動自体が楽しく興味のある内容だから」と20代の「その他」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、30代と50代では「その他」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「身近な地域のために役立ちたいから」が最も多く、特に北中学校地区と西中学校B地区では、全体より10.0ポイント多くなっています。また、旭中学校地区では「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が全体より11.9ポイント多くなっています。

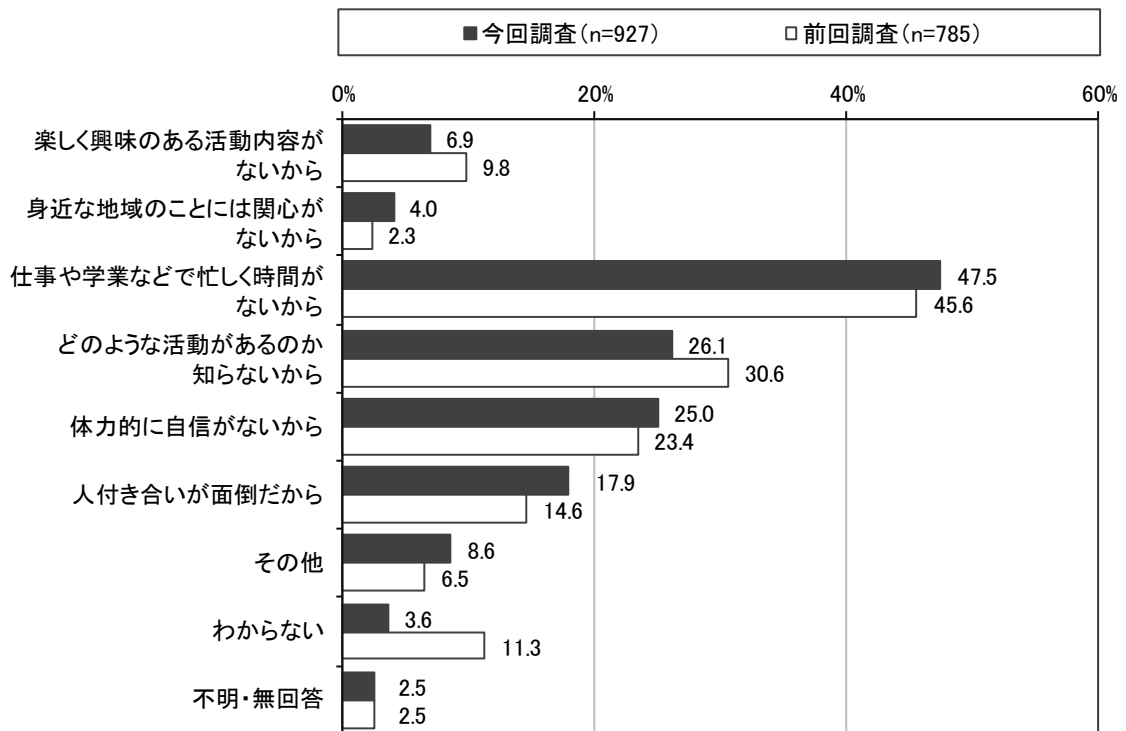
(単位:%)		活動自体が楽しく興味のある内容だから	活動に参加すると自分に有利になるから	活動を通じて成長に関係が広がるから	身近な地域のために役立ちたいから	その他	わからない	無回答
合計 (n=195)		19.0	3.1	22.6	40.0	9.2	0.5	5.6
年齢別	10代 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代 (n=6)	16.7	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0
	30代 (n=10)	10.0	0.0	30.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	40代 (n=20)	25.0	15.0	10.0	35.0	5.0	0.0	10.0
	50代 (n=20)	15.0	5.0	10.0	40.0	20.0	0.0	10.0
	60代 (n=32)	12.5	6.3	21.9	43.8	9.4	3.1	3.1
	70代以上 (n=99)	21.2	0.0	29.3	39.4	4.0	0.0	6.1
地区別	千代田中学校地区 (n=47)	25.5	4.3	23.4	31.9	6.4	2.1	6.4
	北中学校地区 (n=38)	10.5	2.6	23.7	50.0	5.3	0.0	7.9
	西中学校A地区 (n=14)	7.1	7.1	28.6	35.7	7.1	0.0	14.3
	西中学校B地区 (n=24)	25.0	0.0	16.7	50.0	4.2	0.0	4.2
	四街道中学校地区 (n=35)	22.9	2.9	14.3	40.0	14.3	0.0	5.7
	旭中学校地区 (n=29)	13.8	3.4	34.5	31.0	17.2	0.0	0.0

(問 13-1で「活動していない」を選んだ方)

問 13-4 あなたが現在活動に参加していない主な理由として、あてはまるものはどれですか。(複数回答/主なもの2つまで)

「仕事や学業などで忙しく時間がないから」が47.5%と最も多く、次いで「どのような活動があるのか知らないから」が26.1%、「体力的に自信がないから」が25.0%となっています。

前回調査と比較すると、「わからない」が7.7ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、70代以上では「体力的に自信がないから」が、それ以外の年代では「仕事や学業などで忙しく時間がないから」が最も多く、特に10～50代の「仕事や学業などで忙しく時間がないから」と、70代以上の「体力的に自信がないから」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、20代では「どのような活動があるのか知らないから」が全体より12.2ポイント多くなっています。

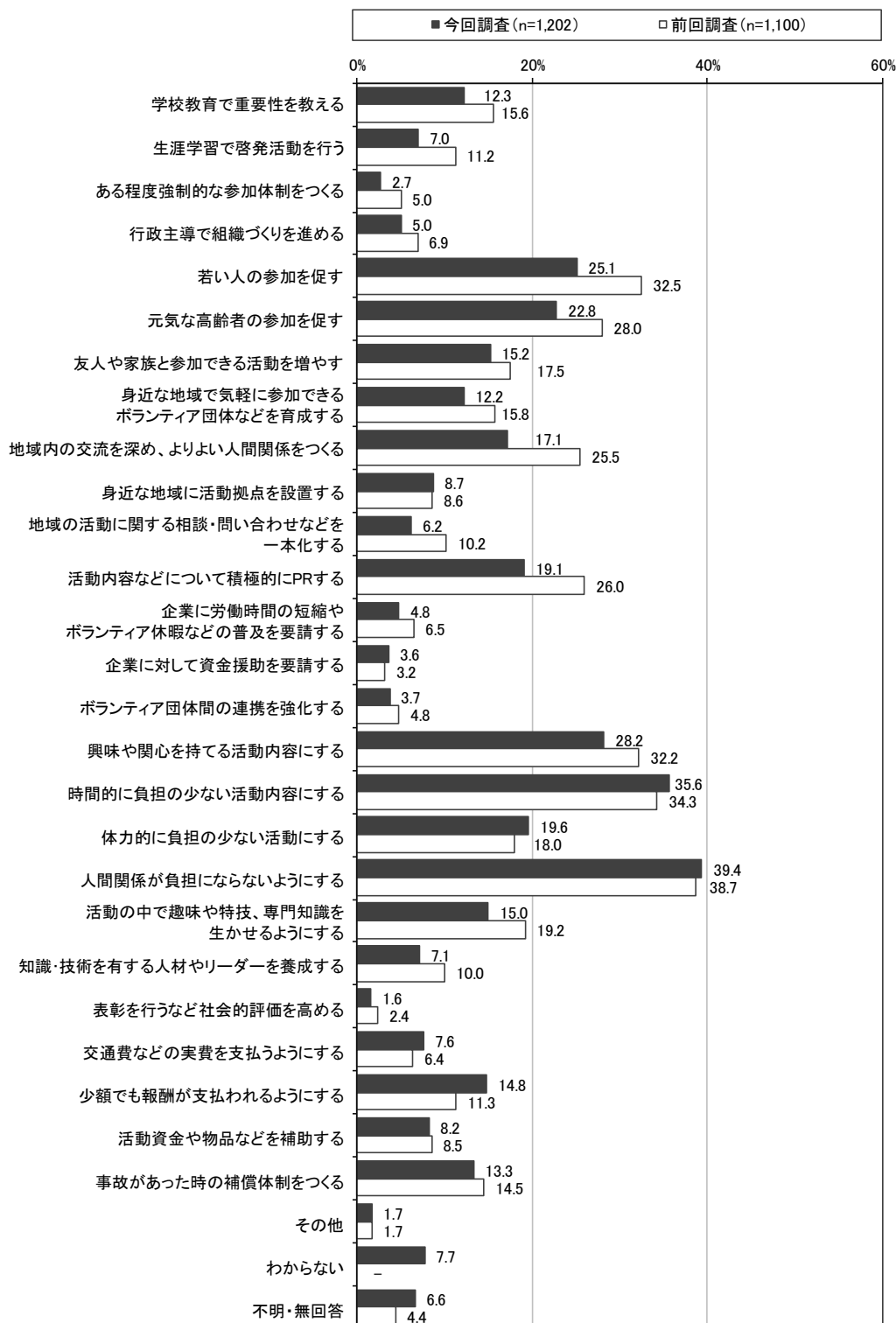
地区別をみると、いずれも「仕事や学業などで忙しく時間がないから」が最も多くなっています。

(単位:%)		楽しく興味のある活動内容がないから	身近な地域のことには関心がないから	仕事や学業などで忙しく時間がないから	どのような活動があるのか知らないから	体力的に自信がないから	人付き合いが面倒だから	その他	わからない	無回答	
合計	(n=927)	6.9	4.0	47.5	26.1	25.0	17.9	8.6	3.6	2.5	
年齢別	10代	(n=15)	6.7	6.7	73.3	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0
	20代	(n=81)	3.7	4.9	71.6	38.3	2.5	14.8	4.9	1.2	2.5
	30代	(n=104)	1.9	5.8	66.3	35.6	6.7	15.4	11.5	3.8	1.0
	40代	(n=163)	3.7	3.7	68.1	28.8	13.5	15.3	5.5	3.1	3.1
	50代	(n=144)	6.3	2.1	63.9	23.6	9.0	19.4	9.7	2.1	4.9
	60代	(n=149)	10.7	3.4	45.6	29.5	24.2	22.8	9.4	3.4	0.7
	70代以上	(n=249)	10.8	2.8	9.2	17.3	58.2	18.9	10.0	4.8	2.4
地区別	千代田中学校地区	(n=130)	10.0	3.8	46.2	24.6	26.2	17.7	9.2	3.8	1.5
	北中学校地区	(n=144)	5.6	2.1	52.1	29.2	23.6	17.4	6.9	0.0	3.5
	西中学校A地区	(n=130)	6.2	3.8	41.5	20.0	28.5	20.8	6.2	4.6	5.4
	西中学校B地区	(n=128)	5.5	2.3	51.6	25.0	28.9	14.8	13.3	3.1	0.8
	四街道中学校地区	(n=220)	8.2	6.4	48.2	29.1	19.1	20.0	5.9	5.0	1.8
	旭中学校地区	(n=142)	6.3	1.4	46.5	26.1	27.5	17.6	12.0	2.8	1.4

問 14 今後、地域での活動が活性化するためには、何が必要だと思いますか。
(複数回答／主なもの5つまで)

「人間関係が負担にならないようにする」が 39.4%と最も多く、次いで「時間的に負担の少ない活動内容にする」が 35.6%となっています。

前回調査と比較すると、「地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる」(8.4ポイント)や「若い人の参加を促す」(7.4ポイント)など多くの項目が前回より少なくなっています。



※「わからない」は、今回調査で追加した選択肢。

●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「友人や家族と参加できる活動を増やす」が、20～40代では「時間的に負担の少ない活動内容にする」が、それ以外の年代では「人間関係が負担にならないようにする」が最も多く、特に10代の「友人や家族と参加できる活動を増やす」と30代の「時間的に負担の少ない活動内容にする」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、20代では「少額でも報酬が支払われるようにする」が、30代では「友人や家族と参加できる活動を増やす」が全体より10ポイント以上多くなっています。

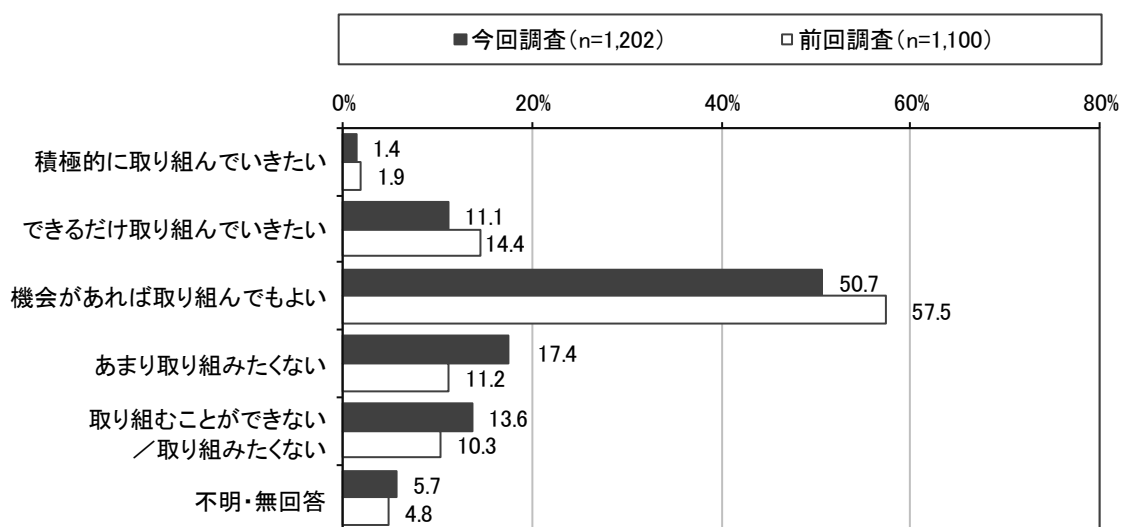
地区別をみると、いずれも「人間関係が負担にならないようにする」が最も多くなっています。また、旭中学校地区では「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が全体より11.9ポイント多くなっています。

(単位：%)		学校教育で重要性を教える	生涯学習で啓発活動を行う	ある程度強制的な参加体制をつくる	進める行政主導で組織づくりを	若い人の参加を促す	元氣な高齢者の参加を促す	友人や家族と参加できる活動を増やす	身近な地域で気軽に参加できるボランティア団体を育成する	地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる	身近な地域に活動拠点を設置する	地域の活動に関する相談・問い合わせなどを一本化する	活動内容などについて積極的にPRする	企業に労働時間の短縮やボランティア休暇などの普及を要請する	企業に対して資金援助を要請する	ボランティア団体間の連携を強化する	
合計	(n=1,202)	12.3	7.0	2.7	5.0	25.1	22.8	15.2	12.2	17.1	8.7	6.2	19.1	4.8	3.6	3.7	
年齢別	10代 (n=18)	11.1	0.0	5.6	0.0	22.2	11.1	50.0	5.6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	5.6	5.6	
	20代 (n=88)	13.6	3.4	1.1	1.1	23.9	6.8	25.0	14.8	17.0	9.1	2.3	25.0	3.4	4.5	1.1	
	30代 (n=116)	10.3	3.4	6.0	5.2	28.4	12.9	28.4	7.8	16.4	6.0	7.8	19.0	7.8	2.6	3.4	
	40代 (n=188)	12.8	5.9	4.8	5.9	21.3	16.5	18.6	12.8	10.6	10.6	8.0	22.9	11.2	5.9	4.8	
	50代 (n=178)	9.6	7.3	1.7	6.7	21.3	23.6	7.9	14.6	10.7	7.3	5.6	20.2	5.1	4.5	2.8	
	60代 (n=201)	12.4	8.5	3.0	4.5	26.4	24.4	13.9	16.9	18.9	6.5	7.5	19.9	4.0	3.5	3.5	
	70代以上 (n=383)	13.8	9.1	1.6	5.2	28.7	32.1	10.7	10.2	23.2	10.4	5.7	14.9	1.6	2.1	4.4	
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	12.7	7.4	2.6	6.9	30.2	23.8	17.5	10.6	22.8	10.6	4.2	20.6	4.2	2.1	4.8	
	北中学校地区 (n=194)	12.4	7.2	2.6	5.7	27.3	26.3	16.5	11.3	17.0	8.2	7.2	17.5	6.7	3.1	5.2	
	西中学校A地区 (n=154)	12.3	5.8	3.9	4.5	27.3	20.8	14.9	7.1	11.0	5.2	7.1	20.1	6.5	4.5	1.9	
	西中学校B地区 (n=159)	13.8	6.9	3.1	3.8	25.8	23.3	10.7	13.8	18.2	6.9	7.5	16.4	1.3	1.9	1.9	
	四街道中学校地区 (n=274)	12.8	6.9	2.9	5.5	20.1	20.1	16.1	13.1	17.5	9.1	5.1	19.7	5.5	4.0	3.3	
	旭中学校地区 (n=189)	11.1	8.5	2.1	3.7	25.4	23.8	15.9	16.9	15.9	10.6	7.4	18.5	3.2	5.8	5.3	
(単位：%)		に興味や関心を持てる活動内容	時間的に負担の少ない活動	身体的に負担の少ない活動	人間関係が負担にならない	活動の中で興味や特長に専門知識を生かせるようにする	知識・技術を有する人材やリソースを養成する	高表彰を行うなど社会的評価を高める	交通費などの実費を支払う	少額でも報酬が支払われる	活動資金や物品などを補助する	事故があった時の補償体制をつくる	その他	わからない	無回答		
合計	(n=1,202)	28.2	35.6	19.6	39.4	15.0	7.1	1.6	7.6	14.8	8.2	13.3	1.7	7.7	6.6		
年齢別	10代 (n=18)	27.8	11.1	16.7	27.8	16.7	0.0	5.6	16.7	16.7	11.1	11.1	0.0	16.7	5.6		
	20代 (n=88)	31.8	40.9	13.6	26.1	14.8	5.7	8.0	13.6	28.4	15.9	11.4	3.4	5.7	5.7		
	30代 (n=116)	35.3	47.4	13.8	39.7	17.2	6.9	2.6	8.6	23.3	7.8	10.3	3.4	6.0	3.4		
	40代 (n=188)	29.3	44.1	14.4	43.1	14.4	6.4	0.0	8.5	23.9	9.6	11.7	2.7	3.7	3.2		
	50代 (n=178)	27.0	34.8	12.4	43.8	13.5	6.7	0.6	9.6	12.4	12.9	18.0	1.7	7.3	5.6		
	60代 (n=201)	26.4	38.8	18.4	39.8	15.9	11.4	1.0	5.5	11.4	6.0	14.9	0.0	5.5	8.0		
	70代以上 (n=383)	25.8	26.6	29.0	38.4	14.4	6.0	1.0	5.0	8.1	4.7	12.0	1.3	11.0	9.1		
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	29.1	26.5	19.6	41.3	13.8	7.4	1.1	6.3	13.8	7.9	11.1	3.2	5.3	5.8		
	北中学校地区 (n=194)	30.4	32.5	20.6	33.0	18.0	9.3	1.5	6.2	14.9	7.2	13.4	1.5	5.7	5.2		
	西中学校A地区 (n=154)	20.8	38.3	16.9	39.6	11.7	6.5	1.3	7.1	14.3	8.4	16.9	1.3	14.9	3.9		
	西中学校B地区 (n=159)	26.4	42.8	17.0	44.7	13.8	8.2	1.3	5.0	12.6	7.5	13.8	1.3	8.2	9.4		
	四街道中学校地区 (n=274)	29.9	35.8	18.6	37.2	16.1	6.6	2.2	7.7	18.2	9.9	10.9	1.1	8.8	7.3		
	旭中学校地区 (n=189)	29.1	39.2	22.8	42.3	14.3	4.8	1.6	11.6	14.8	7.9	14.3	1.1	3.7	7.4		

問 15 あなたは、今後、地域での活動やボランティア活動に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。(単数回答)

「機会があれば、取り組んでもよい」が 50.7%と最も多くなっています。また、次いで「あまり取り組みたくない」が 17.4%と多く、「取り組むことができない／取り組みたくない」(13.6%)を合わせた“取り組みたくない”は 31.0%となっています。反対に、「積極的に取り組んでいきたい」(1.4%)と「できるだけ取り組んでいきたい」(11.1%)を合わせた“取り組んでいきたい”は 12.5%となっています。

前回調査と比較すると、「あまり取り組みたくない」が 6.2 ポイント前回より多く、反対に、「機会があれば、取り組んでもよい」が 6.8 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「機会があれば取り組んでもよい」と「あまり取り組みたくない」が、それ以外の年代では「機会があれば取り組んでもよい」が最も多く、特に10代の「あまり取り組みたくない」、20～40代と60代の「機会があれば取り組んでもよい」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、10代では「積極的に取り組んでいきたい」と「できるだけだけ取り組んでいきたい」が全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「機会があれば取り組んでもよい」が最も多くなっています。

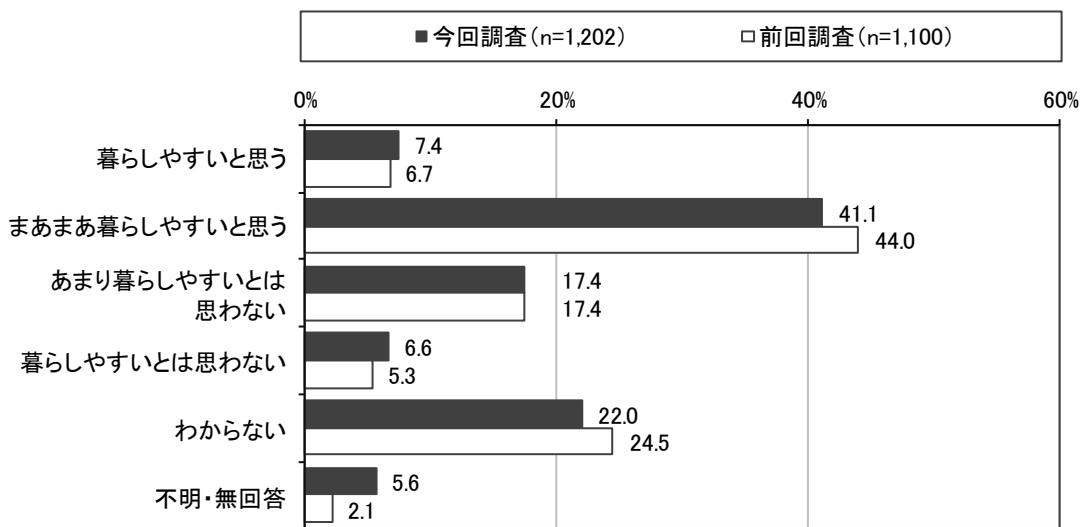
(単位:%)		積極的に 取り組んで いきたい	できるだけ だけ取り組 んでい きたい	機会があ れば取り 組んでも よい	あまり取 り組みた くない	取り組む ことが できない ／	無回 答	
合計	(n=1,202)	1.4	11.1	50.7	17.4	13.6	5.7	
年齢別	10代	(n=18)	11.1	16.7	33.3	33.3	5.6	0.0
	20代	(n=88)	2.3	10.2	56.8	18.2	12.5	0.0
	30代	(n=116)	0.9	9.5	56.9	20.7	9.5	2.6
	40代	(n=188)	1.1	6.4	57.4	18.6	12.8	3.7
	50代	(n=178)	0.6	8.4	52.8	18.0	13.5	6.7
	60代	(n=201)	0.0	10.9	61.7	13.4	9.5	4.5
	70代以上	(n=383)	2.1	14.6	39.7	16.7	17.8	9.1
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	2.6	11.1	54.5	19.6	9.5	2.6
	北中学校地区	(n=194)	2.1	13.9	51.5	17.0	11.9	3.6
	西中学校A地区	(n=154)	0.0	11.0	47.4	16.9	20.8	3.9
	西中学校B地区	(n=159)	1.3	13.2	46.5	16.4	13.2	9.4
	四街道中学校地区	(n=274)	0.7	8.4	50.4	20.1	14.6	5.8
	旭中学校地区	(n=189)	1.6	9.5	55.0	13.2	12.7	7.9

4 「福祉の考え方」について

問 16-1 四街道市は子どもや高齢者、障がいのある人などにとって暮らしやすいまちだと思いますか。(単数回答)

「まあまあ暮らしやすいと思う」が41.1%と最も多く、「暮らしやすいと思う」(7.4%)を合わせた“暮らしやすいと思う”は48.5%となっています。反対に、「あまり暮らしやすいとは思わない」(17.4%)と「暮らしやすいとは思わない」(6.6%)を合わせた“暮らしやすいとは思わない”は24.0%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「まあまあ暮らしやすいと思う」と「あまり暮らしやすいとは思わない」が、それ以外の年代では「まあまあ暮らしやすいと思う」が最も多く、特に10代の「あまり暮らしやすいとは思わない」では、全体より10.4ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「まあまあ暮らしやすいと思う」が最も多くなっています。また、旭中学校地区では「あまり暮らしやすいとは思わない」が全体より5.4ポイント多くなっています。

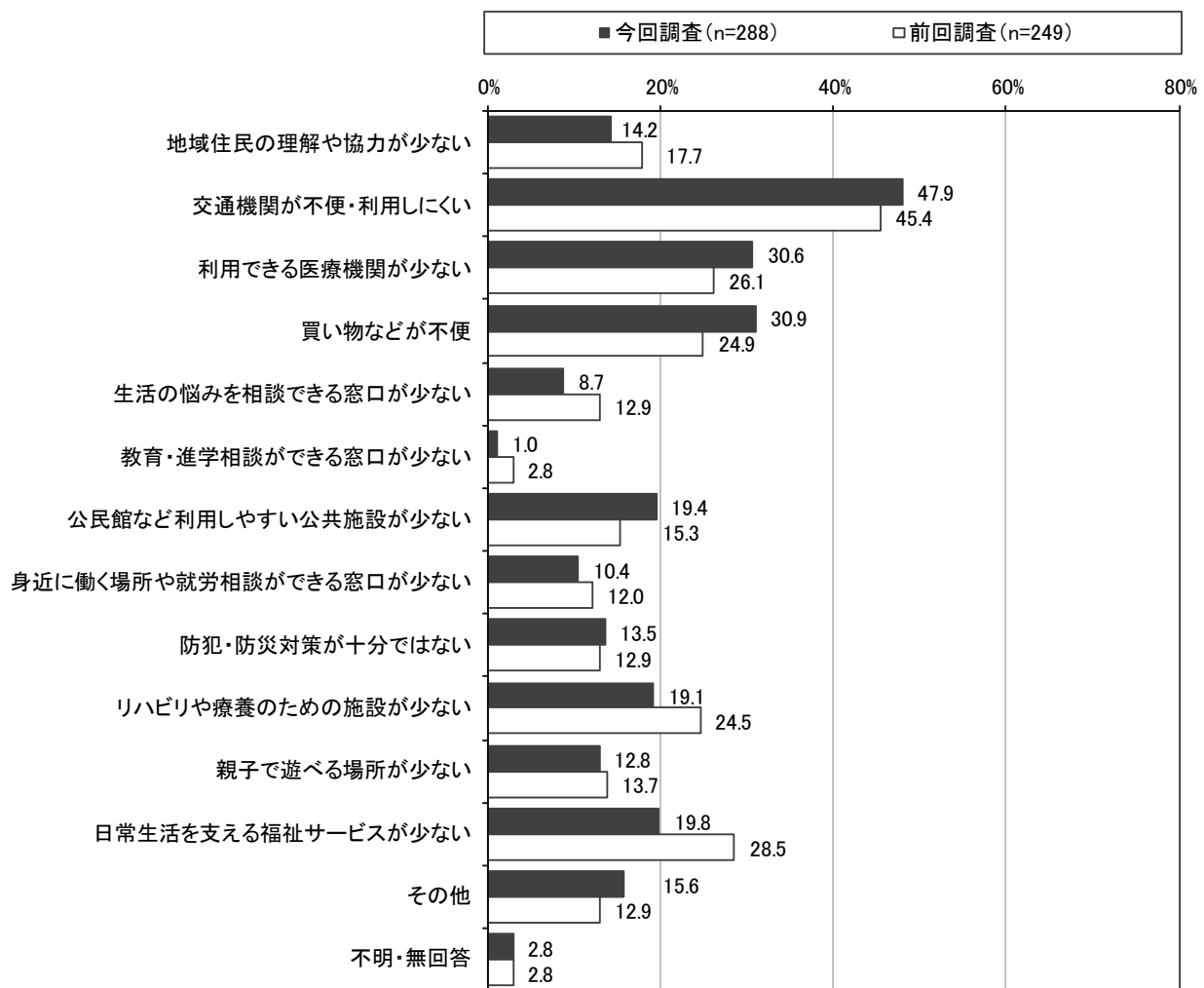
(単位:%)		暮らしやすいと思う	まあまあ暮らしやすいと思う	あまり暮らしやすいとは思わない	暮らしやすいとは思わない	わからない	無回答	
合計	(n=1,202)	7.4	41.1	17.4	6.6	22.0	5.6	
年齢別	10代	(n=18)	16.7	27.8	27.8	5.6	16.7	5.6
	20代	(n=88)	9.1	43.2	15.9	4.5	26.1	1.1
	30代	(n=116)	8.6	45.7	16.4	3.4	24.1	1.7
	40代	(n=188)	8.0	40.4	14.9	8.5	25.0	3.2
	50代	(n=178)	7.9	34.8	15.7	7.9	28.1	5.6
	60代	(n=201)	4.0	46.3	17.9	5.5	19.9	6.5
	70代以上	(n=383)	7.6	40.7	18.5	7.3	17.5	8.4
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	5.8	43.4	16.4	5.3	24.3	4.8
	北中学校地区	(n=194)	5.7	44.3	17.5	6.7	19.1	6.7
	西中学校A地区	(n=154)	10.4	36.4	18.8	5.8	24.7	3.9
	西中学校B地区	(n=159)	8.8	38.4	16.4	6.9	25.2	4.4
	四街道中学校地区	(n=274)	8.0	44.5	13.5	4.4	24.1	5.5
	旭中学校地区	(n=189)	6.3	37.6	22.8	11.6	14.8	6.9

(問 16-1 で「あまり暮らしやすいとは思わない」または「暮らしやすいとは思わない」を選んだ方)

問 16-2 暮らしにくいと思う理由は何ですか。(複数回答/主なもの3つまで)

「交通機関が不便・利用しにくい」が 47.9%と最も多く、次いで「買い物などが不便」が 30.9%、「利用できる医療機関が少ない」が 30.6%となっています。

前回調査と比較すると、「買い物などが不便」が 6.0 ポイント前回より多く、「日常生活を支える福祉サービスが少ない」が 8.7 ポイント、「リハビリや療養のための施設が少ない」が 5.4 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「交通機関が不便・利用しにくい」と「公民館など利用しやすい公共施設が少ない」が、30代では「利用できる医療機関が少ない」が、それ以外の年代では「交通機関が不便・利用しにくい」が最も多く、特に10代の「公民館など利用しやすい公共施設が少ない」では、全体より30.6ポイント多くなっています。また、10代では「親子で遊べる場所が少ない」と「日常生活を支える福祉サービスが少ない」が、30代では「親子で遊べる場所が少ない」が、50代では「買い物などが不便」が、60代では「生活の悩みを相談できる窓口が少ない」と「身近に働く場所や就労相談ができる窓口が少ない」が、70代以上では「リハビリや療養のための施設が少ない」が全体より10ポイント以上多くなっています。

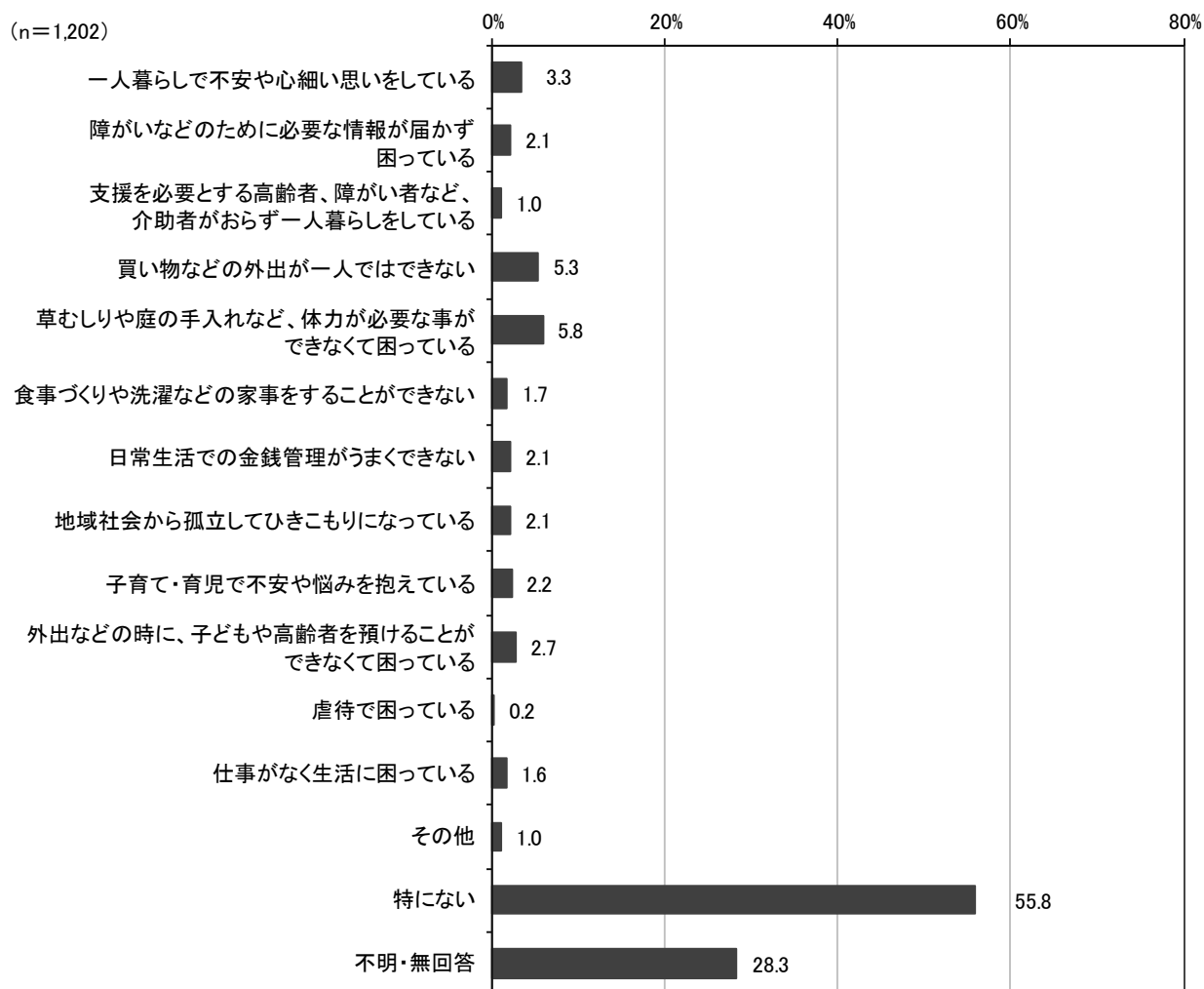
地区別をみると、西中学校A地区では「交通機関が不便・利用しにくい」と「利用できる医療機関が少ない」が、西中学校B地区では「利用できる医療機関が少ない」が、それ以外の地区では「交通機関が不便・利用しにくい」が最も多く、特に旭中学校地区の「交通機関が不便・利用しにくい」と西中学校B地区の「利用できる医療機関が少ない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、北中学校地区では「親子で遊べる場所が少ない」が、西中学校B地区では「日常生活を支える福祉サービスが少ない」が、四街道中学校地区では「地域住民の理解や協力が少ない」が、旭中学校地区では「利用できる医療機関が少ない」と「買い物などが不便」が全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		少ない地域住民の理解や協力が	交通機関が不便・	利用できる医療機関が少ない	買い物などが不便	生活の悩みを相談できる窓口が少ない	生活の悩みを相談できる窓口が少ない	教育・進学相談ができる窓口が少ない	公民館など利用しやすい公共施設が少ない	身近に働く場所や就労相談ができる窓口が少ない	防犯・防災対策が十分ではない	施設が少ない	リハビリや療養のための施設が少ない	親子で遊べる場所が少ない	福祉サービスが少ない	日常生活を支える	その他	無回答
合計	(n=288)	14.2	47.9	30.6	30.9	8.7	1.0	19.4	10.4	13.5	19.1	12.8	19.8	15.6	2.8			
年齢別	10代	(n=6)	0.0	50.0	16.7	33.3	16.7	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0		
	20代	(n=18)	16.7	50.0	38.9	22.2	0.0	0.0	27.8	11.1	5.6	11.1	22.2	16.7	16.7	0.0		
	30代	(n=23)	17.4	30.4	39.1	17.4	8.7	8.7	13.0	8.7	17.4	13.0	26.1	21.7	30.4	0.0		
	40代	(n=44)	15.9	45.5	29.5	25.0	2.3	0.0	20.5	9.1	18.2	6.8	9.1	29.5	18.2	4.5		
	50代	(n=42)	14.3	47.6	31.0	42.9	14.3	2.4	11.9	16.7	16.7	9.5	7.1	14.3	16.7	0.0		
	60代	(n=47)	8.5	40.4	31.9	23.4	21.3	0.0	10.6	21.3	14.9	21.3	21.3	17.0	14.9	4.3		
	70代以上	(n=99)	15.2	56.6	28.3	36.4	5.1	0.0	22.2	4.0	10.1	32.3	5.1	18.2	11.1	4.0		
地区別	千代田中学校地区	(n=41)	12.2	46.3	24.4	24.4	4.9	0.0	24.4	7.3	4.9	22.0	14.6	22.0	17.1	7.3		
	北中学校地区	(n=47)	10.6	46.8	25.5	27.7	8.5	0.0	12.8	10.6	21.3	27.7	23.4	10.6	19.1	0.0		
	西中学校A地区	(n=38)	10.5	31.6	31.6	28.9	13.2	2.6	5.3	13.2	5.3	15.8	21.1	21.1	26.3	5.3		
	西中学校B地区	(n=37)	16.2	45.9	48.6	16.2	2.7	0.0	18.9	21.6	18.9	27.0	13.5	32.4	8.1	2.7		
	四街道中学校地区	(n=49)	28.6	34.7	14.3	16.3	18.4	4.1	26.5	12.2	14.3	14.3	8.2	24.5	14.3	2.0		
	旭中学校地区	(n=65)	7.7	70.8	41.5	58.5	6.2	0.0	21.5	4.6	13.8	13.8	0.0	12.3	10.8	1.5		

問 17 現在、あなた自身や同居する家族の方で困っていることはありますか。また、お住まいの地域で、困っている人がいますか。

①回答者自身や同居する家族の方で、困っていることの有無（複数回答）

「特にない」が55.8%と最も多く、次いで、「草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている」が5.8%、「買い物などの外出が一人ではできない」が5.3%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「特にない」が最も多く、特に 10～20 代の「特にない」では、全体より 10 ポイント以上多くなっています。また、30 代では「外出などの時に、子どもや高齢者を預けることができなくて困っている」が全体より 10.2 ポイント多くなっています。

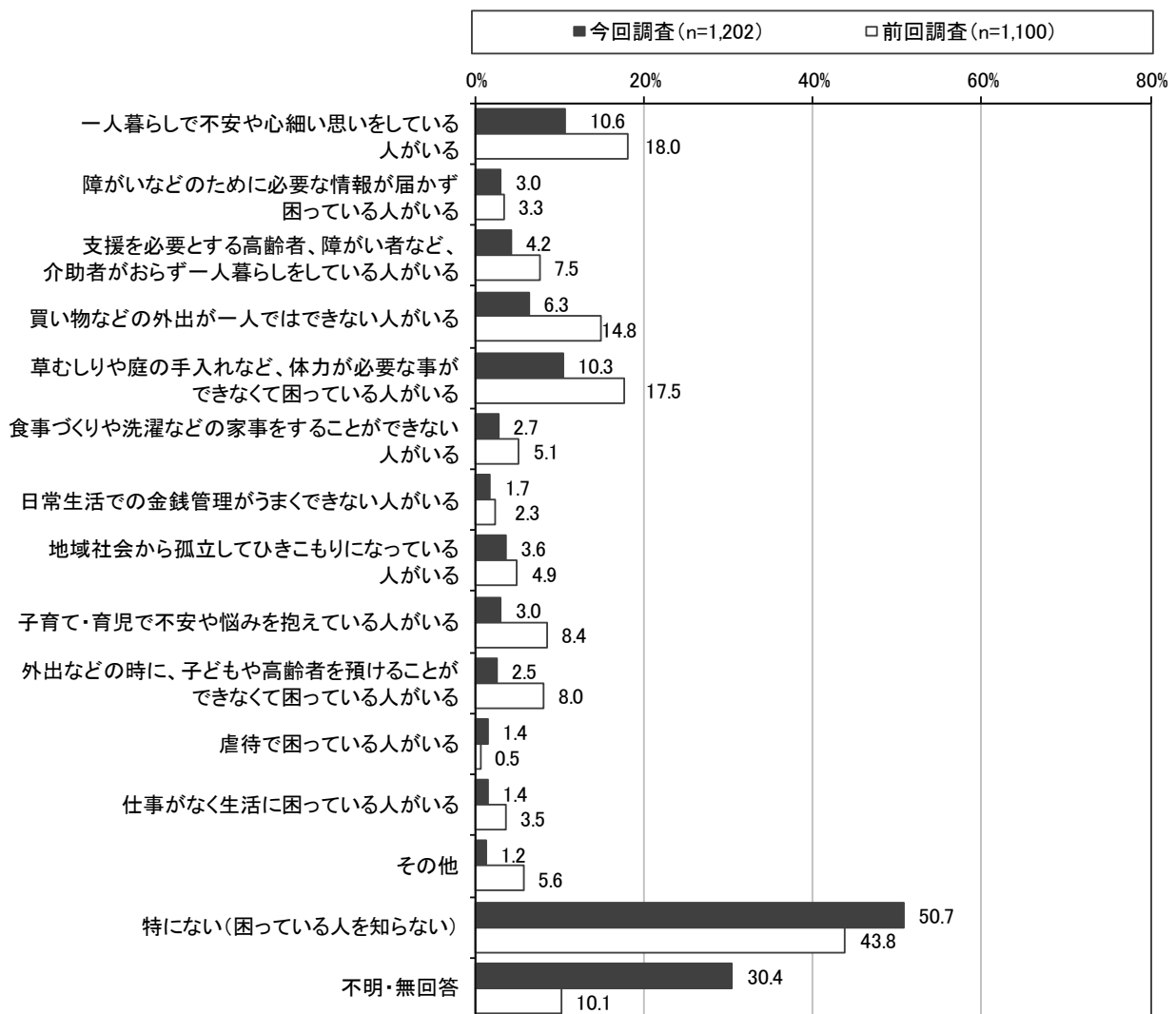
地区別をみると、いずれも「特にない」が最も多くなっています。

(単位:%)		一人暮らしで不安や心細い思いをしている	障がいなどのために必要な情報が届かず困っている	介護者がおらず一人暮らしをしている	支援を必要とする高齢者、障がい者など、介助者が必要とする	買い物などの外出が一人ではできない	草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている	食事づくりや洗濯などの家事をすることができない	日常生活での金銭管理がうまくできない	地域社会から孤立してひきこもりになっている	子育て・育児で不安や悩みを抱えている	預けるなどの時に、子どもや高齢者を預けることができなくて困っている	虐待で困っている	仕事がなく生活に困っている	その他	特にない	無回答
合計	(n=1,202)	3.3	2.1	1.0	5.3	5.8	1.7	2.1	2.1	2.2	2.7	0.2	1.6	1.0	55.8	28.3	
年齢別	10代	(n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	77.8	11.1
	20代	(n=88)	3.4	1.1	1.1	6.8	3.4	1.1	2.3	1.1	2.3	2.3	0.0	3.4	2.3	67.0	17.0
	30代	(n=116)	1.7	1.7	0.0	3.4	5.2	1.7	2.6	3.4	7.8	12.9	0.9	5.2	0.9	57.8	15.5
	40代	(n=188)	2.7	3.2	1.1	5.3	5.3	1.6	3.2	3.2	5.3	4.8	0.5	1.6	0.5	62.8	18.6
	50代	(n=178)	3.9	2.2	1.1	7.3	5.1	2.2	1.7	2.2	1.7	1.1	0.0	1.7	1.7	63.5	19.1
	60代	(n=201)	2.5	2.0	1.5	4.0	5.0	2.0	2.0	2.5	0.0	1.0	0.5	1.0	1.0	56.2	33.3
	70代以上	(n=383)	4.4	2.1	1.0	5.5	8.4	1.6	1.3	1.0	0.5	0.5	0.0	0.3	0.8	44.4	41.5
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	3.7	2.6	1.1	4.2	6.3	1.6	3.2	3.2	2.6	3.2	0.5	2.1	0.5	52.9	29.6
	北中学校地区	(n=194)	2.1	0.0	0.5	5.7	5.2	1.5	1.5	0.5	1.5	2.1	0.0	1.0	0.0	57.2	31.4
	西中学校A地区	(n=154)	3.2	1.9	0.6	7.1	6.5	3.9	3.9	1.9	1.9	3.2	0.6	1.3	0.6	54.5	28.6
	西中学校B地区	(n=159)	3.1	3.8	1.3	3.1	3.8	1.3	0.6	1.9	2.5	1.9	0.0	1.9	1.9	54.1	30.8
	四街道中学校地区	(n=274)	4.7	2.2	1.8	5.5	5.5	1.1	1.8	1.8	2.2	2.6	0.0	1.8	1.1	60.9	21.9
	旭中学校地区	(n=189)	2.6	2.1	0.5	6.3	9.0	1.6	1.6	3.2	2.6	2.6	0.5	1.6	2.1	52.4	29.6

②お住まいの地域で、困っている人の有無（複数回答）

「特にない（困っている人を知らない）」が50.7%と最も多く、次いで「一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる」が10.6%、「草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている人がいる」が10.3%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない（困っている人を知らない）」が6.9ポイント前回より多く、「買い物などの外出が一人ではできない人がいる」が8.5ポイント、「一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる」が7.4ポイント、「草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている人がいる」が7.2ポイント、「外出などの時に、子どもや高齢者を預けることができなくて困っている人がいる」が5.5ポイント、「子育て・育児で不安や悩みを抱えている人がいる」が5.4ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「特にない」が最も多く、特に10代の「特にない」では、全体より21.5ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「特にない」が最も多く、特に北中学校地区の「特にない」では、全体より7.0ポイント多くなっています。また、旭中学校地区では「草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている人がいる」が全体より5.6ポイント多くなっています。

(単位:%)		一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる	障がいなどのために必要な情報が届かず困っている人がいる	介護者やおらず一人暮らしをしている人がいる	支援を必要とする高齢者、障がい者など、介助者が必要な人がいる	買い物などの外出が一人ではできない人がいる	草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている人がいる	食事づくりや洗濯などの家事をすることができない人がいる	日常生活での金銭管理がうまくできない人がいる	地域社会から孤立してひきこもりになっている人がいる	子育て・育児で不安や悩みを抱えている人がいる	外出などの時に、子どもや高齢者を預けることができない人がいる	虐待で困っている人がいる	仕事がなく生活に困っている人がいる	その他	特にない	無回答
合計	(n=1,202)	10.6	3.0	4.2	6.3	10.3	2.7	1.7	3.6	3.0	2.5	1.4	1.4	1.2	50.7	30.4	
年齢別	10代	(n=18)	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.2	22.2
	20代	(n=88)	10.2	4.5	2.3	8.0	10.2	1.1	1.1	1.1	5.7	2.3	0.0	2.3	1.1	60.2	19.3
	30代	(n=116)	6.9	4.3	5.2	4.3	12.1	4.3	0.9	2.6	5.2	4.3	1.7	0.9	0.9	58.6	21.6
	40代	(n=188)	9.6	4.3	5.3	5.3	9.0	2.7	2.7	4.3	4.8	4.3	2.7	2.1	1.1	55.3	23.4
	50代	(n=178)	9.6	1.7	3.9	6.7	10.7	2.2	0.6	2.2	1.1	1.7	0.6	0.6	1.7	60.1	22.5
	60代	(n=201)	12.9	3.0	4.0	8.0	11.9	3.0	2.5	4.5	3.5	2.5	1.5	1.0	2.0	52.7	27.4
	70代以上	(n=383)	12.5	2.3	4.7	5.5	9.9	2.9	2.1	4.7	1.6	1.8	1.6	1.8	0.8	38.9	43.6
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	12.7	3.2	6.3	7.9	11.1	2.6	1.6	3.7	3.2	5.3	2.1	2.1	2.1	48.7	28.6
	北中学校地区	(n=194)	14.4	5.2	4.6	7.7	13.4	2.6	2.1	5.7	4.6	3.6	2.1	1.5	0.5	57.7	22.7
	西中学校A地区	(n=154)	9.1	3.9	3.9	3.2	7.1	1.9	1.3	2.6	0.6	2.6	1.3	1.3	0.6	51.9	35.1
	西中学校B地区	(n=159)	9.4	2.5	3.8	4.4	9.4	1.9	0.6	1.9	1.3	1.3	0.6	0.0	1.3	46.5	35.8
	四街道中学校地区	(n=274)	5.5	2.2	2.2	2.6	6.6	2.6	1.5	3.3	3.6	0.7	0.4	0.7	1.8	53.3	32.5
	旭中学校地区	(n=189)	14.8	1.6	5.8	11.6	15.9	4.2	3.2	4.2	3.2	2.6	2.1	2.6	0.5	47.1	26.5

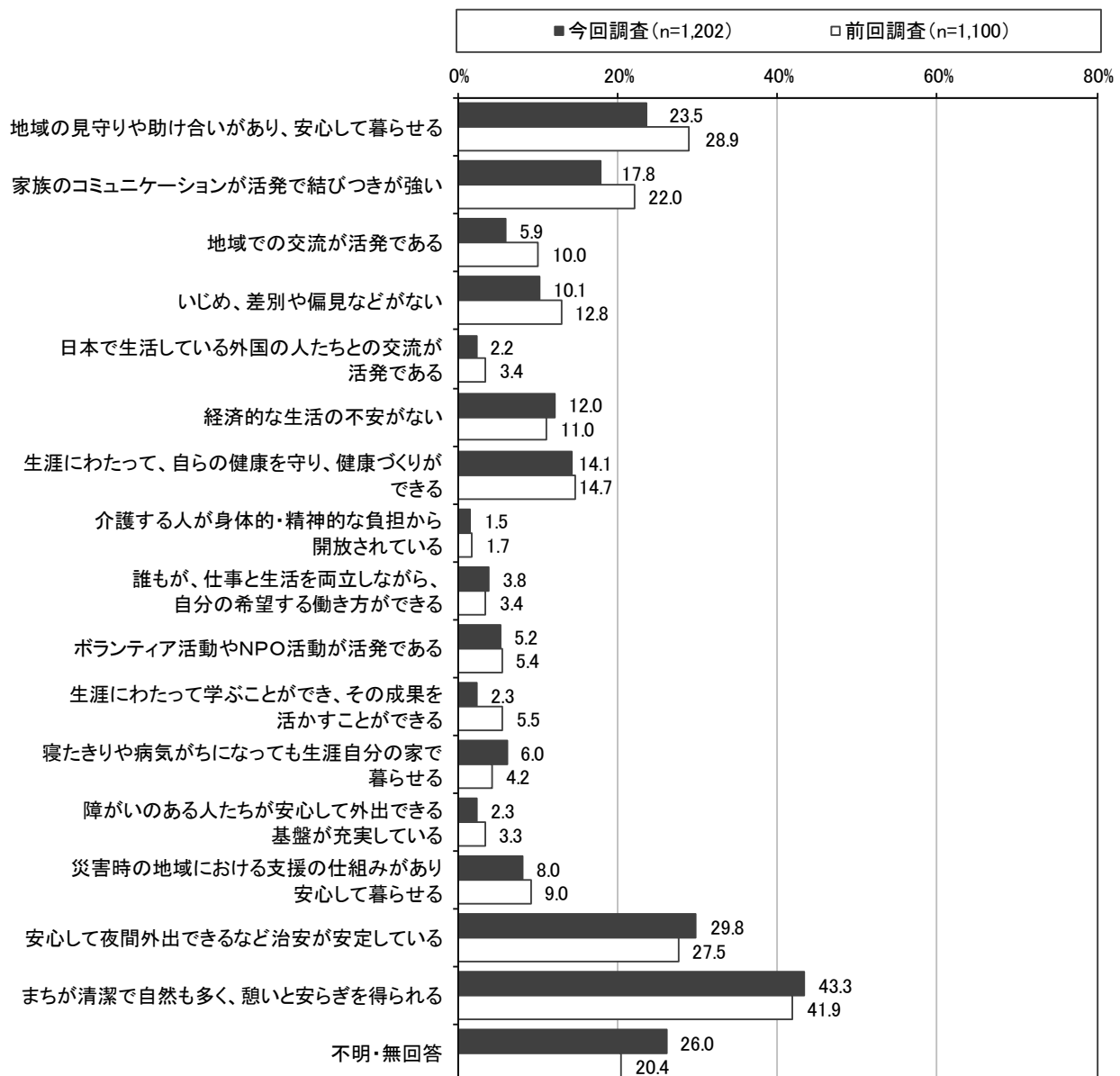
5 「地域の変化」について

問 18 現在、地域で暮らす中で、良いと思っていること、変わると良いと思っていることは何ですか。

①良いと思っていること（複数回答／主なもの3つまで）

「まちが清潔で自然も多く、憩いと安らぎを得られる」が 43.3%と最も多く、次いで「安心して夜間外出できるなど治安が安定している」が 29.8%、「地域の見守りや助け合いがあり、安心して暮らせる」が 23.5%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の見守りや助け合いがあり、安心して暮らせる」が 5.4 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「安心して夜間外出できるなど治安が安定している」が、それ以外の年代では「まちが清潔で自然も多く、憩いと安らぎを得られる」が最も多く、特に10代の「安心して夜間外出できるなど治安が安定している」と30代の「まちが清潔で自然も多く、憩いと安らぎを得られる」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、10代では「家族のコミュニケーションが活発で結びつきが強い」と「障がいのある人たちが安心して外出できる基盤が充実している」が、30代では「地域の見守りや助け合いがあり、安心して暮らせる」が全体より10ポイント以上多くなっています。

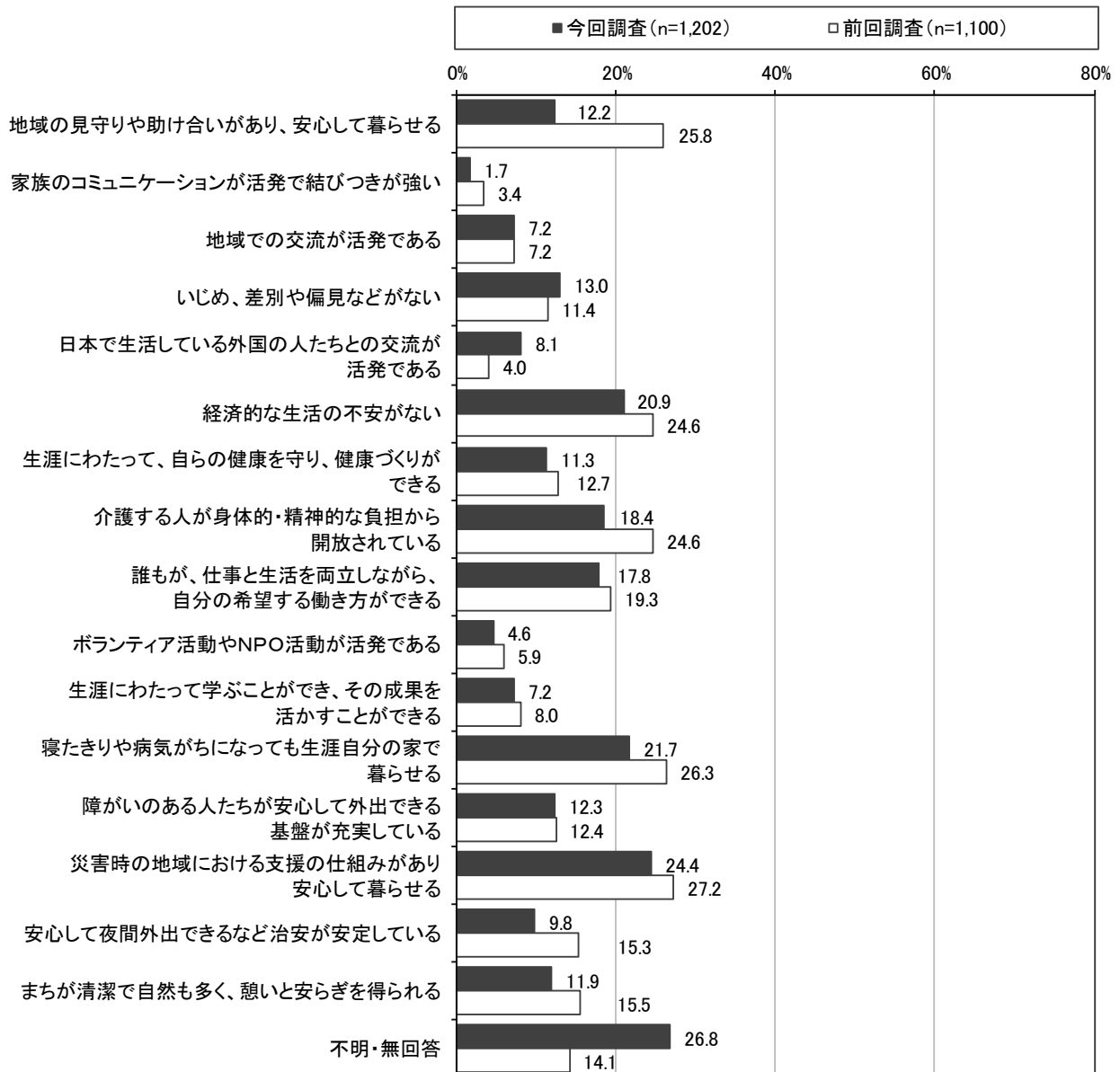
地区別をみると、いずれも「まちが清潔で自然も多く、憩いと安らぎを得られる」が最も多くなっています。

(単位:%)		安心して暮らせる	地域の見守りや助け合いがあり、結びつきが強い	家族のコミュニケーションが活発で	地域での交流が活発である	いじめ、差別や偏見がない	交流が活発である	日本で生活している外国人の人たちとの	経済的な生活の不安がない	健康的な生活ができる	健康づくりが	生涯にわたって、自らの健康を守り、	負担から開放されている	介護する人が身体的・精神的な	自分の希望する働き方ができる	誰もが、仕事と生活を両立しながら、	ボランティア活動やNPO活動が	その成果を活かすことができる	生涯にわたって学ぶことができ、	自分の家で暮らせる	寝たきりや病気がちになっても生涯	障がいのある人たちが安心して	外出できる基盤が充実している	災害時の地域における支援の仕組みが	あり安心して暮らせる	安心して夜間外出できるなど治安が	安定している	安らぎを得られる	まちが清潔で自然も多く、憩いと	無回答
		23.5	17.8	5.9	10.1	2.2	12.0	14.1	1.5	3.8	5.2	2.3	6.0	2.3	8.0	29.8	43.3	26.0												
合計	(n=1,202)	23.5	17.8	5.9	10.1	2.2	12.0	14.1	1.5	3.8	5.2	2.3	6.0	2.3	8.0	29.8	43.3	26.0												
年齢別	10代	(n=18)	11.1	27.8	5.6	5.6	0.0	11.1	16.7	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	38.9	27.8											
	20代	(n=88)	22.7	21.6	8.0	6.8	5.7	13.6	5.7	2.3	3.4	4.5	4.5	1.1	5.7	10.2	26.1	43.2	35.2											
	30代	(n=116)	35.3	21.6	11.2	5.2	2.6	6.9	7.8	0.9	6.9	4.3	0.9	3.4	2.6	8.6	31.0	56.0	21.6											
	40代	(n=188)	27.1	19.1	3.2	6.9	3.2	9.0	9.0	0.0	3.7	6.9	1.6	3.2	2.7	11.2	38.8	48.9	20.7											
	50代	(n=178)	20.2	16.3	3.9	7.9	1.7	9.0	14.6	1.1	2.8	9.0	3.4	3.9	0.6	6.7	38.8	50.6	23.0											
	60代	(n=201)	19.4	16.4	5.0	10.4	2.0	12.9	17.4	2.5	4.0	3.5	2.5	6.0	1.0	8.5	27.4	34.3	29.4											
	70代以上	(n=383)	22.2	15.7	6.3	14.6	1.6	15.4	18.8	1.8	3.4	4.4	2.3	10.7	1.8	6.8	23.5	37.6	27.2											
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	28.0	18.5	5.3	7.9	3.7	8.5	14.3	2.1	3.7	3.2	3.7	5.8	1.6	9.0	30.7	46.0	22.8											
	北中学校地区	(n=194)	25.3	17.0	7.2	13.4	1.5	14.4	14.9	1.5	4.6	6.2	1.5	5.7	4.1	9.3	28.4	42.8	24.2											
	西中学校A地区	(n=154)	21.4	17.5	5.8	8.4	1.3	11.7	15.6	1.3	4.5	3.2	3.2	6.5	0.0	9.1	31.2	39.6	28.6											
	西中学校B地区	(n=159)	17.6	17.0	5.7	11.9	3.8	13.2	14.5	3.1	1.9	6.9	1.9	5.7	3.8	8.8	30.2	34.6	26.4											
	四街道中学校地区	(n=274)	20.4	16.8	5.1	8.8	1.5	11.7	16.1	1.1	4.7	5.1	2.6	6.2	2.6	8.4	28.8	44.9	27.0											
	旭中学校地区	(n=189)	27.5	19.0	5.8	10.6	2.6	12.7	9.5	0.5	3.2	6.9	1.6	6.9	0.5	4.8	33.3	47.6	26.5											

②変わるとよいと思っていること（複数回答／主なもの3つまで）

「災害時の地域における支援の仕組みがあり安心して暮らせる」が24.4%と最も多く、次いで「寝たきりや病気がちになっても生涯自分の家で暮らせる」が21.7%、「経済的な生活の不安がない」が20.9%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の見守りや助け合いがあり、安心して暮らせる」が13.6ポイント、「地介護する人が身体的・精神的な負担から開放されている」が6.2ポイント、「安心して夜間外出できるなど治安が安定している」が5.5ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10～20代では「いじめ、差別や偏見などが無い」が、30～40代では「経済的な生活の不安が無い」が、70代以上では「寝たきりや病気がちになっても生涯自分の家で暮らせる」が、それ以外の年代では「災害時の地域における支援の仕組みがあり安心して暮らせる」が最も多く、特に10～20代の「いじめ、差別や偏見などが無い」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、10代では「安心して夜間外出できるなど治安が安定している」が、30代では「誰もが、仕事と生活を両立しながら、自分の希望する働き方ができる」が、50代では「経済的な生活の不安が無い」が全体より10ポイント以上多くなっています。

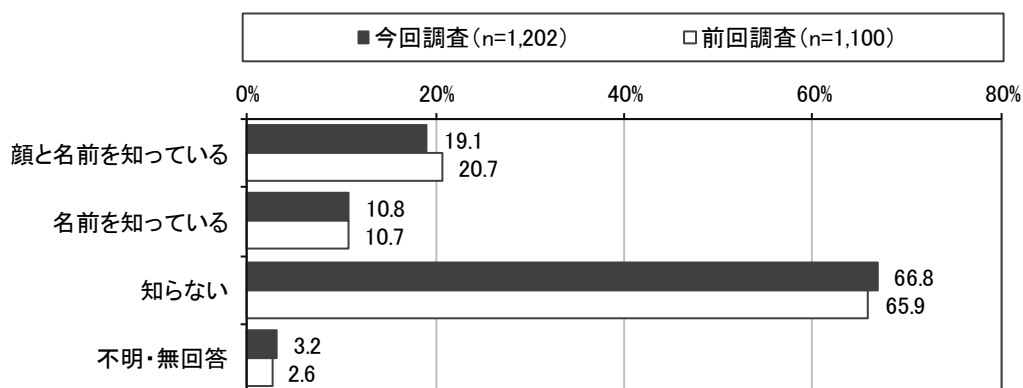
地区別をみると、千代田中学校地区では「経済的な生活の不安が無い」と「寝たきりや病気がちになっても生涯自分の家で暮らせる」が、西中学校B地区では「経済的な生活の不安が無い」が、それ以外の地区では「災害時の地域における支援の仕組みがあり安心して暮らせる」が最も多くなっています。また、西中学校A地区では「まちが清潔で自然も多く、憩いと安らぎを得られる」が、30代旭中学校地区では「寝たきりや病気がちになっても生涯自分の家で暮らせる」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		安心して暮らせる	地域の見守りや助け合いがあり、結びつきが強い	家族のコミュニケーションが活発で	地域での交流が活発である	いじめ、差別や偏見などが無い	交流が活発である	日本で生活している外国人の人たちとの	経済的な生活の不安が無い	健康づくりができる	生涯にわたって、自らの健康を守り、	負担から開放されている	介護する人が身体的・精神的な	自分の希望する働き方ができる	誰もが、仕事と生活を両立しながら、	活発である	その成果を活かすことができる	生涯にわたって学ぶことができ、	自分の家で暮らせる	寝たきりや病気がちになっても生涯	障がいのある人たちが安心して	外出できる基盤が充実している	災害時の地域における支援の仕組みが	安心して夜間外出できるなど治安が	安心して暮らせる	安らぎを得られる	まちが清潔で自然も多く、憩いと	無回答								
合計	(n=1,202)	12.2	1.7	7.2	13.0	8.1	20.9	11.3	18.4	17.8	4.6	7.2	21.7	12.3	24.4	9.8	11.9	26.8	12.2	1.7	7.2	13.0	8.1	20.9	11.3	18.4	17.8	4.6	7.2	21.7	12.3	24.4	9.8	11.9	26.8	
年齢別	10代	(n=18)	5.6	5.6	0.0	33.3	16.7	16.7	11.1	22.2	5.6	0.0	11.1	11.1	16.7	22.2	22.2	16.7	27.8	5.6	5.6	0.0	33.3	16.7	16.7	11.1	22.2	5.6	0.0	11.1	11.1	16.7	22.2	22.2	16.7	27.8
	20代	(n=88)	12.5	1.1	6.8	27.3	13.6	23.9	8.0	12.5	22.7	8.0	4.5	15.9	5.7	19.3	17.0	13.6	28.4	12.5	1.1	6.8	27.3	13.6	23.9	8.0	12.5	22.7	8.0	4.5	15.9	5.7	19.3	17.0	13.6	28.4
	30代	(n=116)	5.2	2.6	6.9	13.8	12.1	29.3	8.6	22.4	28.4	1.7	6.0	25.0	19.8	22.4	12.9	6.9	20.7	5.2	2.6	6.9	13.8	12.1	29.3	8.6	22.4	28.4	1.7	6.0	25.0	19.8	22.4	12.9	6.9	20.7
	40代	(n=188)	10.6	2.7	3.2	19.7	9.6	29.3	8.0	23.4	24.5	2.1	6.4	14.9	14.9	27.1	10.1	8.0	20.2	10.6	2.7	3.2	19.7	9.6	29.3	8.0	23.4	24.5	2.1	6.4	14.9	14.9	27.1	10.1	8.0	20.2
	50代	(n=178)	14.6	1.1	4.5	16.3	7.3	32.0	10.7	24.7	19.1	2.2	6.7	20.2	11.8	34.3	9.0	13.5	18.5	14.6	1.1	4.5	16.3	7.3	32.0	10.7	24.7	19.1	2.2	6.7	20.2	11.8	34.3	9.0	13.5	18.5
	60代	(n=201)	14.9	2.0	7.5	9.0	5.0	14.4	13.9	15.4	16.9	5.0	9.5	24.9	8.0	27.9	7.5	13.9	29.9	14.9	2.0	7.5	9.0	5.0	14.4	13.9	15.4	16.9	5.0	9.5	24.9	8.0	27.9	7.5	13.9	29.9
	70代以上	(n=383)	13.1	1.3	11.0	6.8	6.3	12.5	13.3	15.1	10.7	6.8	7.3	24.5	12.3	18.5	7.8	13.1	33.2	13.1	1.3	11.0	6.8	6.3	12.5	13.3	15.1	10.7	6.8	7.3	24.5	12.3	18.5	7.8	13.1	33.2
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	12.7	2.1	10.1	12.2	7.9	23.8	12.7	14.3	17.5	4.2	10.6	23.8	11.6	21.7	9.0	11.1	23.8	12.7	2.1	10.1	12.2	7.9	23.8	12.7	14.3	17.5	4.2	10.6	23.8	11.6	21.7	9.0	11.1	23.8
	北中学校地区	(n=194)	13.9	3.1	9.3	11.3	9.8	14.4	13.4	21.1	21.1	5.2	8.2	17.5	11.9	22.2	12.9	14.9	23.7	13.9	3.1	9.3	11.3	9.8	14.4	13.4	21.1	21.1	5.2	8.2	17.5	11.9	22.2	12.9	14.9	23.7
	西中学校A地区	(n=154)	14.3	1.3	5.2	11.7	7.8	23.4	9.1	19.5	16.2	3.2	6.5	21.4	11.0	26.6	12.3	18.2	25.3	14.3	1.3	5.2	11.7	7.8	23.4	9.1	19.5	16.2	3.2	6.5	21.4	11.0	26.6	12.3	18.2	25.3
	西中学校B地区	(n=159)	11.9	1.3	5.7	12.6	10.7	24.5	10.1	22.6	20.8	3.1	5.0	21.4	11.3	23.9	10.7	11.3	27.0	11.9	1.3	5.7	12.6	10.7	24.5	10.1	22.6	20.8	3.1	5.0	21.4	11.3	23.9	10.7	11.3	27.0
	四街道中学校地区	(n=274)	13.5	2.2	7.3	16.4	7.3	20.4	11.7	16.4	19.0	5.5	6.6	20.4	11.7	23.4	7.3	8.4	28.1	13.5	2.2	7.3	16.4	7.3	20.4	11.7	16.4	19.0	5.5	6.6	20.4	11.7	23.4	7.3	8.4	28.1
	旭中学校地区	(n=189)	7.9	0.5	5.3	13.2	5.8	21.7	10.1	19.0	12.7	5.3	5.3	26.5	14.3	29.1	8.5	10.6	30.2	7.9	0.5	5.3	13.2	5.8	21.7	10.1	19.0	12.7	5.3	5.3	26.5	14.3	29.1	8.5	10.6	30.2

6 「地域における支え合い」について

問 19 あなたはお住まいの地区の担当民生委員・児童委員をご存知ですか。(単数回答)

「知らない」が66.8%と最も多く、次いで「顔と名前を知っている」が19.1%となっています。前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「知らない」が最も多く、特に10～30代では、全体より20ポイント以上多くなっています。また、70代以上では「顔と名前を知っている」が全体より11.7ポイント多くなっています。

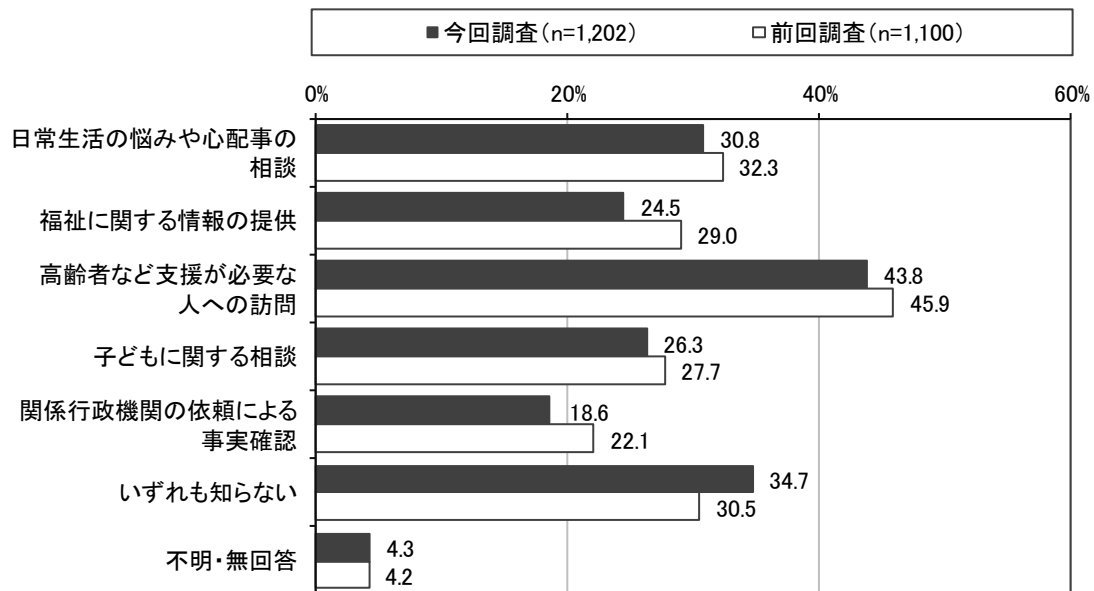
地区別をみると、いずれも「知らない」が最も多く、特に四街道中学校地区では、全体より5.1ポイント多くなっています。

(単位：%)		顔と名前を知っている	名前を知っている	知らない	無回答	
合計	(n=1,202)	19.1	10.8	66.8	3.2	
年齢別	10代	(n=18)	0.0	5.6	94.4	0.0
	20代	(n=88)	2.3	6.8	89.8	1.1
	30代	(n=116)	5.2	3.4	89.7	1.7
	40代	(n=188)	13.8	8.0	75.5	2.7
	50代	(n=178)	11.2	12.4	72.5	3.9
	60代	(n=201)	24.4	12.9	59.7	3.0
	70代以上	(n=383)	30.8	14.6	49.9	4.7
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	23.3	14.3	59.8	2.6
	北中学校地区	(n=194)	22.2	11.9	63.9	2.1
	西中学校A地区	(n=154)	18.2	9.7	68.8	3.2
	西中学校B地区	(n=159)	19.5	11.9	66.7	1.9
	四街道中学校地区	(n=274)	15.7	6.9	71.9	5.5
	旭中学校地区	(n=189)	16.4	14.3	66.1	3.2

問 20 民生委員・児童委員が行う活動として、ご存知のものはどれですか。(複数回答)

「高齢者など支援が必要な人への訪問」が 43.8%と最も多く、次いで「いずれも知らない」が 34.7%、「日常生活の悩みや心配事の相談」が 30.8%となっています。

前回調査と比較すると、「いずれも知らない」が 4.2 ポイント前回より多く、反対に、「福祉に関する情報の提供」が 4.5 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10～40代では「いずれも知らない」が、それ以外の年代では「高齢者など支援が必要な人への訪問」が最も多く、特に10～30代の「いずれも知らない」と、60代以上の「高齢者など支援が必要な人への訪問」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

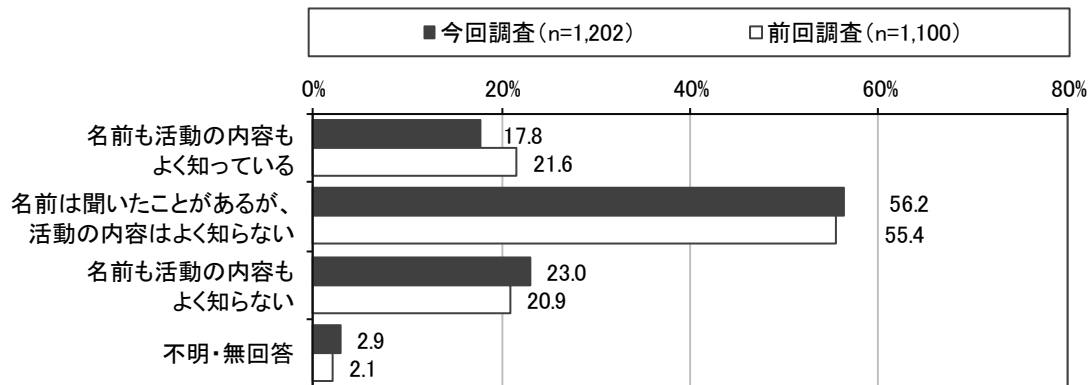
地区別をみると、四街道中学校地区では「いずれも知らない」が、それ以外の地区では「高齢者など支援が必要な人への訪問」が最も多く、特に四街道中学校地区の「いずれも知らない」と、北中学校地区の「高齢者など支援が必要な人への訪問」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、北中学校地区では「福祉に関する情報の提供」が全体より6.9ポイント多くなっています。

(単位:%)		談 日 常 生 活 の 悩 み や 心 配 事 の 相	福 祉 に 関 す る 情 報 の 提 供	の 高 訪 問 訪 問 者 な ど 支 援 が 必 要 な 人 へ	子 ど も に 関 す る 相 談	実 関 確 係 認 行 政 機 関 の 依 頼 に よ る 事	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答	
合計	(n=1,202)	30.8	24.5	43.8	26.3	18.6	34.7	4.3	
年 齢 別	10代	(n=18)	5.6	5.6	11.1	16.7	0.0	66.7	5.6
	20代	(n=88)	10.2	5.7	12.5	21.6	6.8	67.0	2.3
	30代	(n=116)	16.4	16.4	22.4	24.1	14.7	65.5	2.6
	40代	(n=188)	26.6	19.7	33.0	29.3	13.3	37.8	3.2
	50代	(n=178)	30.9	23.0	47.8	30.3	16.9	29.8	3.9
	60代	(n=201)	35.3	28.9	55.2	28.9	21.4	27.4	4.5
	70代以上	(n=383)	39.7	32.4	56.1	23.5	25.1	21.4	6.3
地 区 別	千代田中学校地区	(n=189)	31.2	20.6	43.4	27.0	20.6	33.3	3.7
	北中学校地区	(n=194)	32.5	31.4	49.5	26.8	19.1	32.0	3.6
	西中学校A地区	(n=154)	33.1	18.8	43.5	27.3	18.8	34.4	5.2
	西中学校B地区	(n=159)	32.1	25.2	42.1	30.2	17.6	32.1	4.4
	四街道中学校地区	(n=274)	26.3	23.7	40.5	23.4	18.6	41.6	3.6
	旭中学校地区	(n=189)	30.2	24.3	45.5	24.9	16.4	32.3	6.3

問 21 あなたは社会福祉協議会をご存じですか。(単数回答)

「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」が 56.2%と最も多く、次いで「名前も活動の内容もよく知っている」が 23.0%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10～20代では「名前も活動の内容もよく知らない」が、それ以外の年代では「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」が最も多く、特に10～20代では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、30代では「名前も活動の内容もよく知らない」が全体より14.1ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「名前も活動の内容もよく知らない」が最も多く、特に西中学校B地区では、全体より6.7ポイント多くなっています。また、旭中学校地区では「名前も活動の内容もよく知っている」が、四街道中学校地区では「名前も活動の内容もよく知らない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

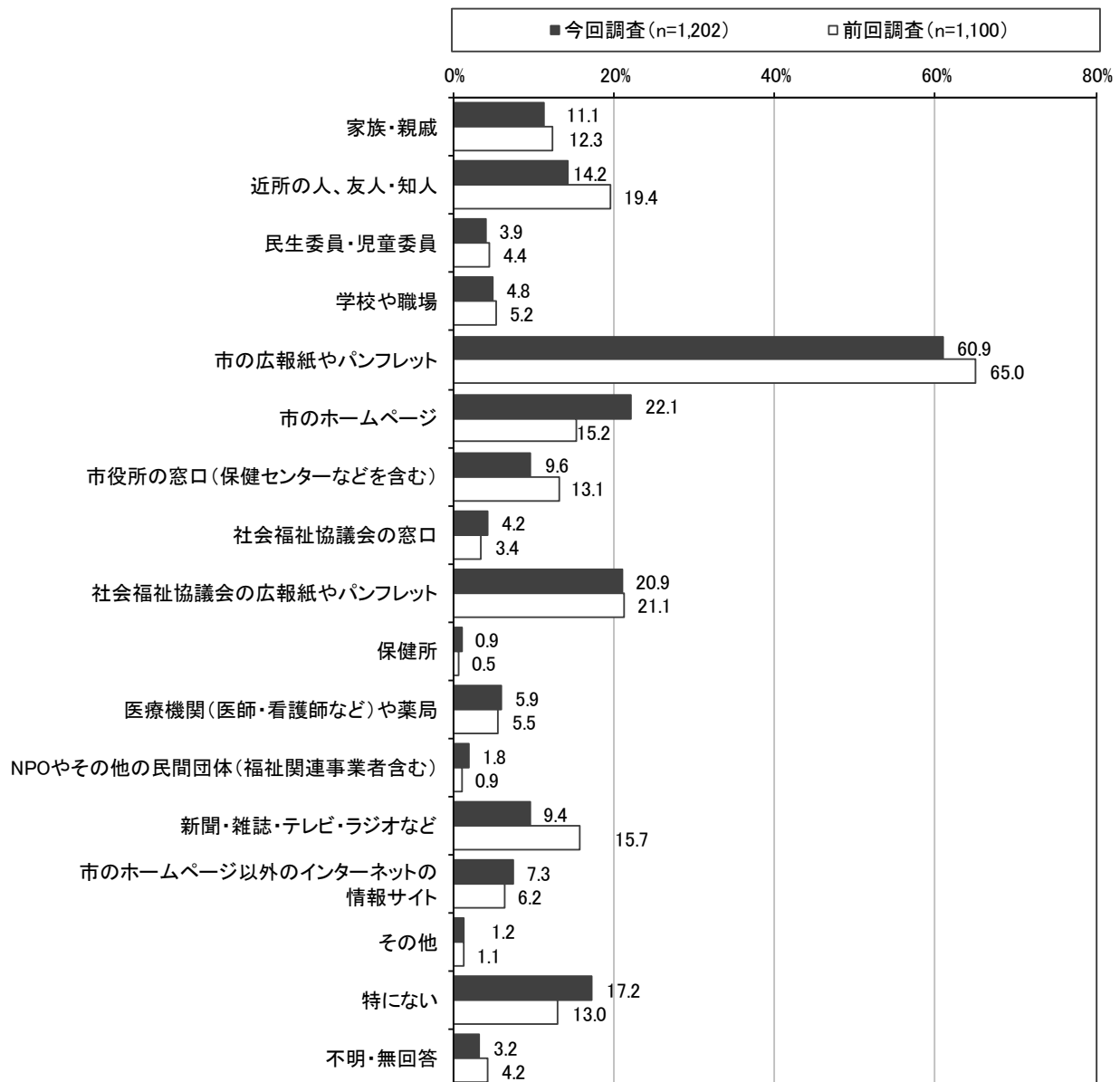
(単位：%)		知 っ て い る 活 動 の 内 容 も よ く	活 動 の 内 容 は 聞 い た こ と が あ る が 、	知 ら な い 活 動 の 内 容 も よ く	無 回 答
合計 (n=1,202)		17.8	56.2	23.0	2.9
年 齢 別	10代 (n=18)	0.0	27.8	72.2	0.0
	20代 (n=88)	8.0	38.6	52.3	1.1
	30代 (n=116)	11.2	50.0	37.1	1.7
	40代 (n=188)	10.6	63.3	23.4	2.7
	50代 (n=178)	15.7	58.4	20.8	5.1
	60代 (n=201)	21.4	60.7	14.9	3.0
	70代以上 (n=383)	25.3	56.1	15.4	3.1
地 区 別	千代田中学校地区 (n=189)	20.1	58.7	19.0	2.1
	北中学校地区 (n=194)	21.1	56.2	20.1	2.6
	西中学校A地区 (n=154)	13.0	58.4	25.3	3.2
	西中学校B地区 (n=159)	15.7	62.9	20.8	0.6
	四街道中学校地区 (n=274)	14.6	52.9	28.1	4.4
	旭中学校地区 (n=189)	23.3	49.2	23.3	4.2

7 「福祉に関する情報・相談など」について

問 22 福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか。(複数回答)

「市の広報紙やパンフレット」が60.9%と最も多く、次いで「市のホームページ」が22.1%、「社会福祉協議会の広報紙やパンフレット」が20.9%となっています。

前回調査と比較すると、「市のホームページ」が6.9ポイント前回より多く、反対に、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど」が6.3ポイント、「近所の人、友人・知人」が5.2ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10～20代では「特にない」が、それ以外の年代では「市の広報紙やパンフレット」が最も多く、特に10～20代の「特にない」と30～40代の「市の広報紙やパンフレット」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、10代では「家族・親戚」と「学校や職場」が、20代では「家族・親戚」が、70代以上では「社会福祉協議会の広報紙やパンフレット」が全体より10ポイント以上多くなっています。

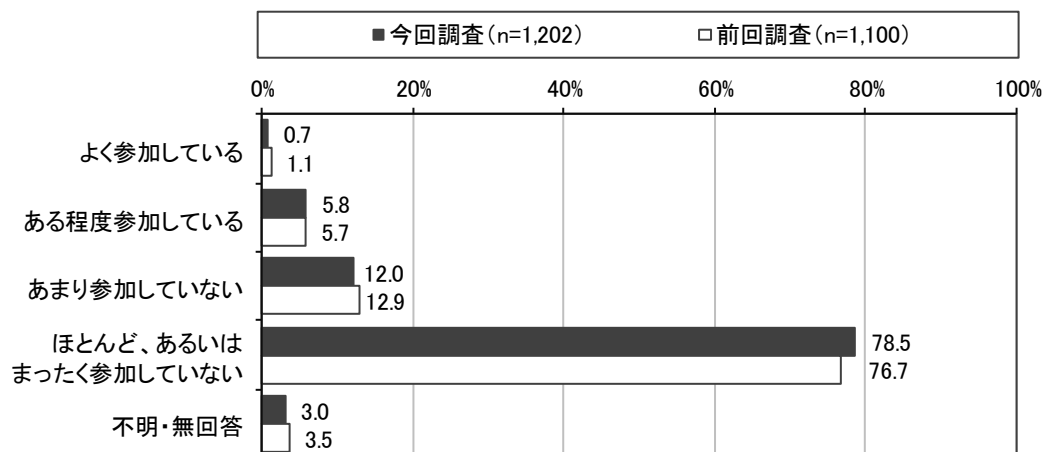
地区別をみると、いずれも「市の広報紙やパンフレット」が最も多くなっています。また、千代田中学校地区では「社会福祉協議会の広報紙やパンフレット」が全体より5.6ポイント多くなっています。

(単位:%)		家族・親戚	近所の人、友人・知人	民生委員・児童委員	学校や職場	市の広報紙やパンフレット	市のホームページ	市役所の窓口 (保健センターなどを含む)	社会福祉協議会の窓口	社会福祉協議会の広報紙やパンフレット
合計	(n=1,202)	11.1	14.2	3.9	4.8	60.9	22.1	9.6	4.2	20.9
年齢別	10代	(n=18)	22.2	11.1	0.0	16.7	22.2	5.6	0.0	0.0
	20代	(n=88)	25.0	6.8	0.0	5.7	35.2	14.8	4.5	1.1
	30代	(n=116)	11.2	17.2	2.6	9.5	48.3	36.2	7.8	1.7
	40代	(n=188)	12.8	9.6	2.1	10.6	60.6	32.4	9.0	1.6
	50代	(n=178)	7.9	7.9	0.0	5.1	64.0	28.7	12.4	5.1
	60代	(n=201)	9.5	17.9	6.5	3.5	66.2	23.4	12.4	5.5
	70代以上	(n=383)	9.4	18.8	6.5	0.5	66.8	11.7	9.1	5.7
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	11.1	15.3	3.7	4.2	62.4	23.8	4.8	2.6
	北中学校地区	(n=194)	10.8	14.4	5.2	4.6	63.9	25.3	12.4	3.1
	西中学校A地区	(n=154)	12.3	14.9	2.6	4.5	57.1	14.9	7.8	3.9
	西中学校B地区	(n=159)	10.1	8.2	3.8	3.8	60.4	20.8	12.6	4.4
	四街道中学校地区	(n=274)	11.3	15.7	5.5	6.9	59.1	25.5	10.2	4.4
	旭中学校地区	(n=189)	11.6	15.3	1.6	4.2	59.3	19.0	9.5	6.3
(単位:%)		保健所	診療機関 (医師・看護師など)	NPOやその他の民間団体 (福祉関連事業者含む)	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	市のホームページの情報サイト	その他	特にない	無回答	
合計	(n=1,202)	0.9	5.9	1.8	9.4	7.3	1.2	17.2	3.2	
年齢別	10代	(n=18)	0.0	0.0	5.6	5.6	16.7	0.0	33.3	0.0
	20代	(n=88)	1.1	3.4	2.3	10.2	10.2	1.1	36.4	1.1
	30代	(n=116)	1.7	6.9	1.7	1.7	11.2	0.0	22.4	1.7
	40代	(n=188)	1.6	4.3	2.1	5.3	10.6	2.1	17.6	3.2
	50代	(n=178)	0.0	9.6	0.6	9.0	9.0	0.0	19.1	3.9
	60代	(n=201)	2.0	5.0	1.5	11.9	9.0	2.0	13.9	3.0
	70代以上	(n=383)	0.3	5.7	2.3	12.3	2.3	1.3	11.7	4.4
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	0.5	4.8	1.1	11.1	7.4	1.1	15.9	3.2
	北中学校地区	(n=194)	1.0	6.7	3.1	10.3	7.2	0.0	18.0	3.6
	西中学校A地区	(n=154)	1.9	5.8	1.9	8.4	5.2	1.9	18.2	3.2
	西中学校B地区	(n=159)	1.3	8.2	1.3	6.9	9.4	1.9	18.9	2.5
	四街道中学校地区	(n=274)	0.4	5.5	2.2	10.2	8.4	0.4	17.9	4.0
	旭中学校地区	(n=189)	1.1	4.8	1.6	7.9	6.9	2.1	16.4	3.2

問 23 福祉に関する行事や講座などにどの程度参加していますか。(単数回答)

「ほとんど、あるいはまったく参加していない」が 78.5%と最も多く、「あまり参加していない」(12.0%) を合わせた“参加していない”は 90.5%となっています。反対に、「よく参加している」(0.7%) と「ある程度参加している」(5.8%) を合わせた“参加している”は 6.5%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

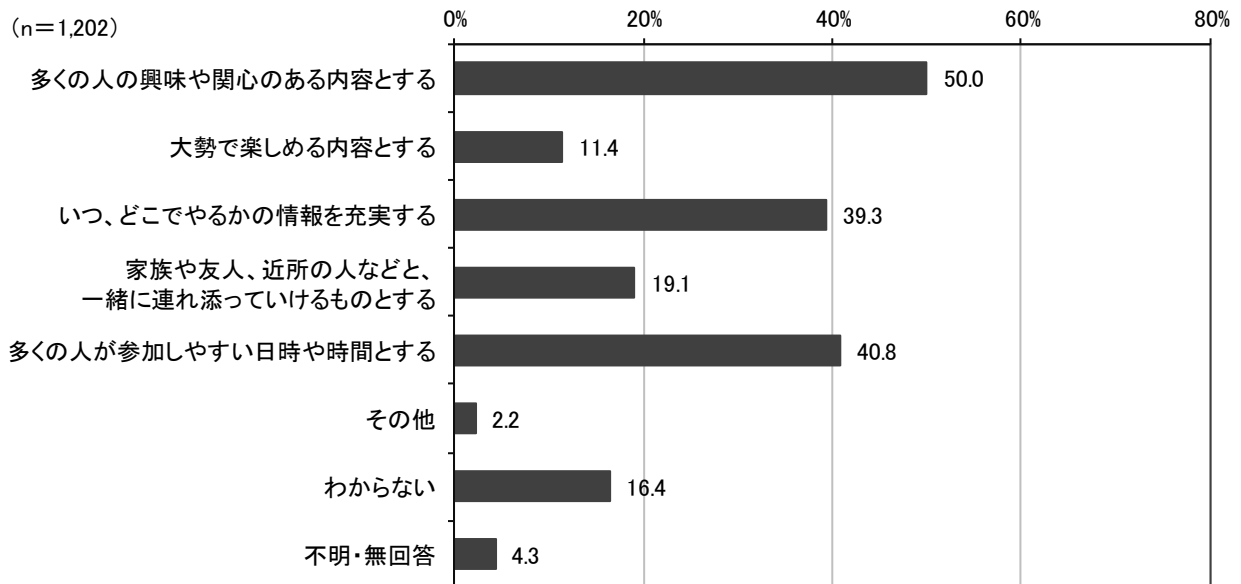
年代別をみると、いずれも「ほとんど、あるいはまったく参加していない」が最も多く、特に10～20代では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「ほとんど、あるいはまったく参加していない」が最も多くなっています。

(単位:%)		よく参加している	ある程度参加している	あまり参加していない	ほとんど、あるいはまったく参加していない	無回答	
合計	(n=1,202)	0.7	5.8	12.0	78.5	3.0	
年齢別	10代	(n=18)	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	20代	(n=88)	0.0	4.5	5.7	88.6	1.1
	30代	(n=116)	0.0	4.3	6.9	87.1	1.7
	40代	(n=188)	0.0	5.3	8.0	83.5	3.2
	50代	(n=178)	0.0	1.7	10.1	84.8	3.4
	60代	(n=201)	1.5	4.0	14.9	76.6	3.0
	70代以上	(n=383)	1.3	9.9	16.7	68.1	3.9
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	0.5	5.3	15.9	75.1	3.2
	北中学校地区	(n=194)	0.5	9.3	11.3	77.3	1.5
	西中学校A地区	(n=154)	0.0	4.5	9.1	83.1	3.2
	西中学校B地区	(n=159)	1.3	6.9	14.5	76.1	1.3
	四街道中学校地区	(n=274)	1.1	5.8	9.9	78.8	4.4
	旭中学校地区	(n=189)	0.5	3.2	13.8	78.8	3.7

問 24 福祉に関する行事や講座などに、より多くの人が参加するためには、どのような条件が整えば良いと思いますか。(複数回答)

「多くの人の興味や関心のある内容とする」が 50.0%と最も多く、次いで「多くの人が参加しやすい日時や時間とする」が 40.8%、「いつ、どこでやるかの情報を充実する」が 39.3%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

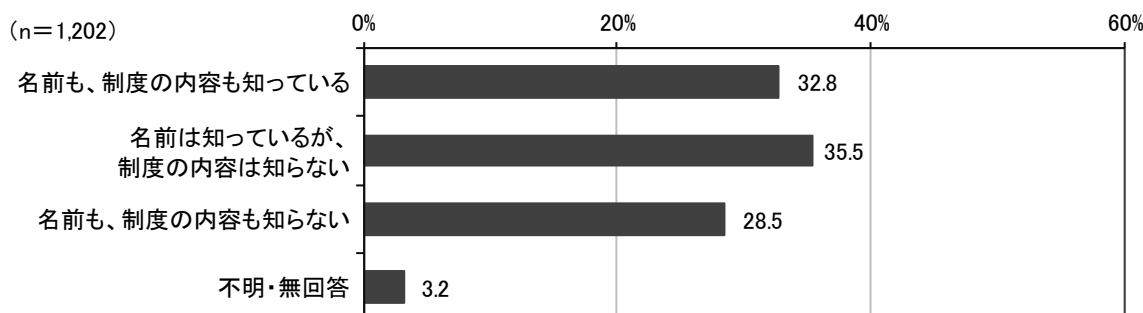
年代別をみると、10代では「多くの人の興味や関心のある内容とする」と「いつ、どこでやるかの情報を充実する」、20代では「多くの人の興味や関心のある内容とする」と「いつ、どこでやるかの情報を充実する」が、50代では「多くの人が参加しやすい日時や時間とする」が、それ以外の年代は「多くの人の興味や関心のある内容とする」が最も多く、特に20代の「いつ、どこでやるかの情報を充実する」では、全体より10.7ポイント多くなっています。

地区別をみると、いずれも「多くの人の興味や関心のある内容とする」が最も多く、特に西中学校B地区と北中学校地区では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、千代田中学校地区では「家族や友人、近所の人などと、一緒に連れ添っていけるものとする」が全体より5.2ポイント多くなっています。

(単位:%)		多くの人の興味や関心のある内容とする	大勢で楽しめる内容とする	いつ、どこでやるかの情報を充実する	家族や友人、近所の人などと、一緒に連れ添っていけるものとする	多くの人が参加しやすい日時や時間とする	その他	わからない	無回答
合計 (n=1,202)		50.0	11.4	39.3	19.1	40.8	2.2	16.4	4.3
年齢別	10代 (n=18)	44.4	11.1	44.4	22.2	44.4	5.6	16.7	0.0
	20代 (n=88)	50.0	5.7	50.0	22.7	44.3	1.1	13.6	1.1
	30代 (n=116)	46.6	12.1	37.1	27.6	39.7	4.3	14.7	1.7
	40代 (n=188)	52.7	11.2	37.8	23.4	42.6	1.6	18.6	3.2
	50代 (n=178)	48.3	8.4	35.4	15.2	48.9	1.7	15.7	3.9
	60代 (n=201)	53.7	9.5	43.8	20.9	43.8	0.5	16.9	3.5
	70代以上 (n=383)	48.8	15.1	37.3	14.6	33.7	3.1	17.2	7.6
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	46.0	14.8	40.2	24.3	36.0	2.1	14.8	4.2
	北中学校地区 (n=194)	56.7	11.3	39.2	21.1	40.7	1.5	14.4	4.6
	西中学校A地区 (n=154)	42.9	5.8	34.4	13.0	40.3	4.5	25.3	3.9
	西中学校B地区 (n=159)	58.5	12.6	37.7	18.2	45.3	2.5	13.8	3.1
	四街道中学校地区 (n=274)	48.9	10.2	41.2	19.7	45.3	1.8	14.6	4.7
	旭中学校地区 (n=189)	46.6	13.8	42.3	18.0	35.4	1.1	20.1	5.3

問 25 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(単数回答)

「名前は知っているが、制度の内容は知らない」が 35.5%と最も多く、次いで「名前も、制度の内容も知っている」が 32.8%、「名前も、制度の内容も知らない」が 28.5%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

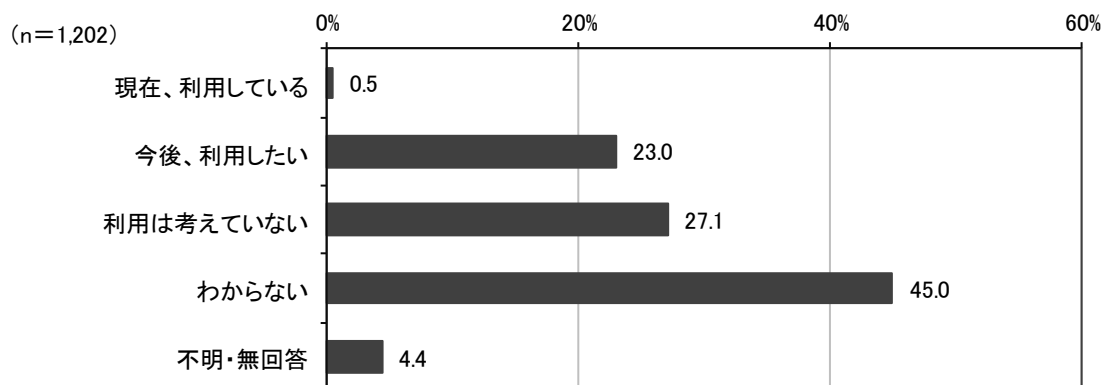
年代別をみると、10～30代では「名前も、制度の内容も知らない」が、それ以外の年代では「名前は知っているが、制度の内容は知らない」が最も多く、特に10～30代の「名前も、制度の内容も知らない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、四街道中学校地区では「名前も、制度の内容も知らない」が、それ以外の地区では「名前は知っているが、制度の内容は知らない」が最も多く、特に北中学校地区の「名前は知っているが、制度の内容は知らない」では、全体より5.2ポイント多くなっています。

(単位:%)		名前も、 制度の内容も 知らない	名前は 知っているが、 制度の内容は 知らない	名前も、 制度の内容も 知らない	無 回 答	
合計	(n=1,202)	32.8	35.5	28.5	3.2	
年齢別	10代	(n=18)	22.2	11.1	66.7	0.0
	20代	(n=88)	27.3	11.4	59.1	2.3
	30代	(n=116)	31.9	28.4	38.8	0.9
	40代	(n=188)	26.6	39.9	30.9	2.7
	50代	(n=178)	34.8	38.2	23.0	3.9
	60代	(n=201)	34.8	37.3	22.9	5.0
	70代以上	(n=383)	35.0	40.7	20.6	3.7
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	34.9	34.4	27.0	3.7
	北中学校地区	(n=194)	33.5	40.7	23.7	2.1
	西中学校A地区	(n=154)	33.1	36.4	27.9	2.6
	西中学校B地区	(n=159)	29.6	37.7	30.8	1.9
	四街道中学校地区	(n=274)	31.8	30.7	32.8	4.7
	旭中学校地区	(n=189)	32.8	37.6	25.4	4.2

問 26-1 あなた自身が認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(単数回答)

「わからない」が45.0%と最も多く、次いで「利用は考えていない」が27.1%、「今後、利用したい」が23.0%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、70代以上では「利用は考えていない」が、それ以外の年代では「わからない」が最も多く、特に70代以上の「利用は考えていない」と、10代と30~40代の「わからない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

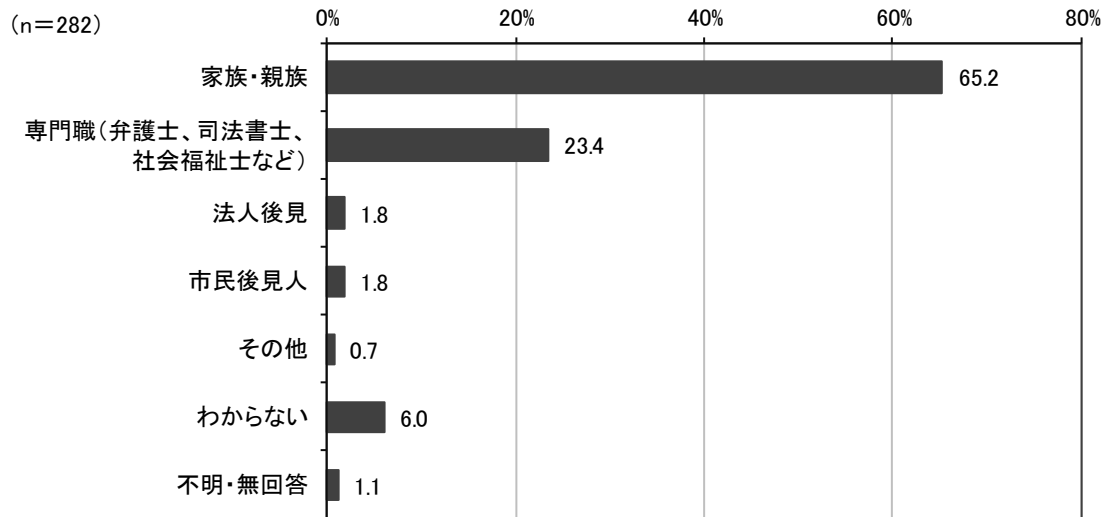
地区別をみると、いずれも「わからない」が最も多くなっています。また、北中学校地区では「利用は考えていない」が全体より6.4ポイント多くなっています。

(単位: %)		現在、利用している	今後、利用したい	利用は考えていない	わからない	無回答
合計	(n=1,202)	0.5	23.0	27.1	45.0	4.4
年齢別	10代 (n=18)	0.0	16.7	16.7	66.7	0.0
	20代 (n=88)	0.0	28.4	14.8	54.5	2.3
	30代 (n=116)	0.9	30.2	10.3	55.2	3.4
	40代 (n=188)	0.0	23.9	17.6	55.3	3.2
	50代 (n=178)	0.6	23.0	18.5	53.4	4.5
	60代 (n=201)	0.0	24.4	32.3	37.8	5.5
	70代以上 (n=383)	1.0	18.5	41.5	33.2	5.7
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	0.0	26.5	27.0	43.9	2.6
	北中学校地区 (n=194)	1.0	20.1	33.5	40.7	4.6
	西中学校A地区 (n=154)	0.0	20.8	27.3	48.7	3.2
	西中学校B地区 (n=159)	0.6	22.0	28.9	45.9	2.5
	四街道中学校地区 (n=274)	0.4	23.7	21.2	47.8	6.9
	旭中学校地区 (n=189)	1.1	23.3	28.6	41.3	5.8

(問 26-1 で「現在、利用している」または「今後、利用したい」を選んだ方)

問 26-2 成年後見制度の利用に際し、後見人は誰になってもらっていますか。また、誰になってもらいたいですか。(単数回答)

「家族・親族」が 65.2%と最も多く、次いで「専門職(弁護士、司法書士、社会福祉士など)」が 23.4%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

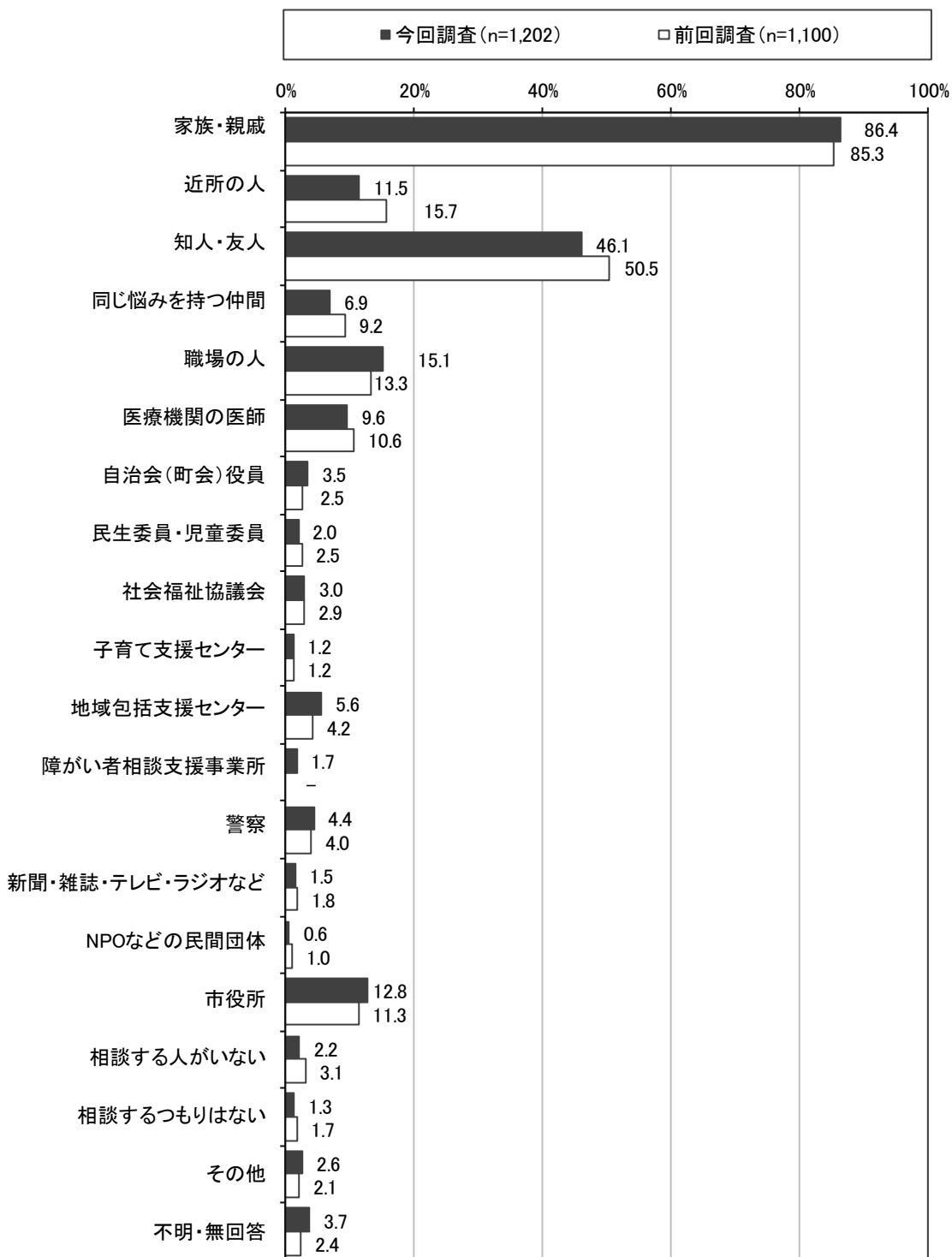
年代別をみると、いずれも「家族・親族」が最も多く、特に60代では、全体より10.3ポイント多くなっています。また、10代では「わからない」が、30代と50代では「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士など）」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「家族・親族」が最も多く、特に千代田中学校地区では、全体より8.8ポイント多くなっています。また、四街道中学校地区では「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士など）」と「わからない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		家族・親族	専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士など）	法人後見	市民後見人	その他	わからない	無回答
合計 (n=282)		65.2	23.4	1.8	1.8	0.7	6.0	1.1
年齢別	10代 (n=3)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	20代 (n=25)	60.0	20.0	4.0	0.0	0.0	12.0	4.0
	30代 (n=36)	52.8	36.1	2.8	2.8	0.0	2.8	2.8
	40代 (n=45)	64.4	24.4	2.2	0.0	0.0	8.9	0.0
	50代 (n=42)	47.6	42.9	0.0	0.0	2.4	4.8	2.4
	60代 (n=49)	75.5	16.3	2.0	2.0	0.0	4.1	0.0
	70代以上 (n=75)	74.7	13.3	1.3	4.0	1.3	5.3	0.0
地区別	千代田中学校地区 (n=50)	74.0	16.0	2.0	2.0	4.0	0.0	2.0
	北中学校地区 (n=41)	65.9	19.5	2.4	4.9	0.0	7.3	0.0
	西中学校A地区 (n=32)	62.5	21.9	0.0	3.1	0.0	6.3	6.3
	西中学校B地区 (n=36)	63.9	27.8	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	四街道中学校地区 (n=66)	57.6	28.8	1.5	0.0	0.0	12.1	0.0
	旭中学校地区 (n=46)	65.2	26.1	4.3	2.2	0.0	2.2	0.0

**問 27 あなたは、暮らしの中で相談や助けが必要なとき、誰に相談していますか。
(複数回答)**

「家族・親戚」が86.4%と最も多く、次いで「知人・友人」が46.1%となっています。
 前回調査と比較すると、「知人・友人」が4.4ポイント、「近所の人」が4.2ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「家族・親戚」が最も多くなっています。また、10～40代では「知人・友人」が、20～40代では「職場の人」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「家族・親戚」が最も多くなっています。

(単位:%)		家族・親戚	近所の人	知人・友人	同じ悩みを持つ仲間	職場の人	医療機関の医師	自治会（町会）役員	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	子育て支援センター
合計 (n=1,202)		86.4	11.5	46.1	6.9	15.1	9.6	3.5	2.0	3.0	1.2
年齢別	10代 (n=18)	88.9	0.0	66.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代 (n=88)	89.8	2.3	64.8	8.0	26.1	1.1	0.0	0.0	0.0	3.4
	30代 (n=116)	89.7	12.1	61.2	12.1	26.7	8.6	1.7	0.0	0.0	4.3
	40代 (n=188)	89.9	6.4	62.8	5.9	31.9	3.2	0.0	1.1	0.5	2.7
	50代 (n=178)	85.4	9.6	50.0	7.9	21.3	11.2	1.7	0.6	4.5	0.6
	60代 (n=201)	85.6	15.4	41.8	7.0	12.9	11.9	4.0	2.0	3.0	0.0
	70代以上 (n=383)	84.3	14.4	28.7	5.2	0.0	13.8	7.3	4.2	5.2	0.0
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	89.9	12.7	46.0	7.4	16.4	6.3	3.2	3.2	1.6	1.6
	北中学校地区 (n=194)	84.5	10.8	41.8	3.1	14.4	11.9	4.1	2.1	2.6	0.0
	西中学校A地区 (n=154)	83.8	10.4	46.8	8.4	13.6	7.1	1.9	1.9	5.2	1.9
	西中学校B地区 (n=159)	87.4	6.3	48.4	6.3	15.1	11.3	4.4	1.3	4.4	1.9
	四街道中学校地区 (n=274)	86.1	10.2	44.5	8.4	16.1	8.8	2.6	2.2	2.2	1.5
	旭中学校地区 (n=189)	87.8	14.8	50.3	7.9	14.8	12.7	4.8	1.1	3.2	0.5
(単位:%)		地域包括支援センター	障がい者相談支援事業所	警察	ラ新聞・オ・雑誌・テレビ・	NPOなどの民間団体	市役所	相談する人がいない	相談するつもりはない	その他	無回答
合計 (n=1,202)		5.6	1.7	4.4	1.5	0.6	12.8	2.2	1.3	2.6	3.7
年齢別	10代 (n=18)	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0
	20代 (n=88)	0.0	1.1	2.3	0.0	0.0	4.5	2.3	0.0	3.4	1.1
	30代 (n=116)	1.7	2.6	0.9	0.9	0.9	7.8	0.9	0.0	2.6	0.0
	40代 (n=188)	1.1	1.1	2.7	0.5	1.1	8.5	2.1	1.6	3.2	1.6
	50代 (n=178)	5.6	1.1	5.6	2.8	0.6	15.7	4.5	1.7	2.2	3.4
	60代 (n=201)	7.5	1.0	5.0	1.0	0.5	17.4	1.5	1.0	2.0	4.5
	70代以上 (n=383)	9.4	2.6	6.3	2.3	0.3	15.7	2.1	1.0	2.6	6.5
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	3.2	1.6	4.2	1.1	1.1	10.6	1.6	1.1	3.2	2.1
	北中学校地区 (n=194)	4.1	0.5	2.6	0.5	0.5	13.4	3.1	1.0	3.6	6.7
	西中学校A地区 (n=154)	7.1	1.3	5.2	2.6	0.0	14.9	3.9	2.6	1.3	3.2
	西中学校B地区 (n=159)	5.7	1.9	5.7	1.3	0.0	12.6	1.3	0.0	2.5	2.5
	四街道中学校地区 (n=274)	6.6	1.5	5.5	2.6	0.7	13.1	1.8	0.7	2.2	4.7
	旭中学校地区 (n=189)	6.3	4.2	3.7	1.1	0.5	12.7	2.1	1.6	3.2	2.6

問 28-1 あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり、不満に思ったことはありませんか。(単数回答)

「現在のところ、福祉サービスを必要としていない」が 67.6%と最も多く、次いで「福祉サービスの利用に際し、不都合や不満を感じたことはない」が 15.3%、「福祉サービスの利用に際し、不都合や不満を感じたことがある」が 8.3%となっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

年代別をみると、いずれも「現在のところ、福祉サービスを必要としていない」が最も多く、特に 20 代では、全体より 10.8 ポイント多くなっています。

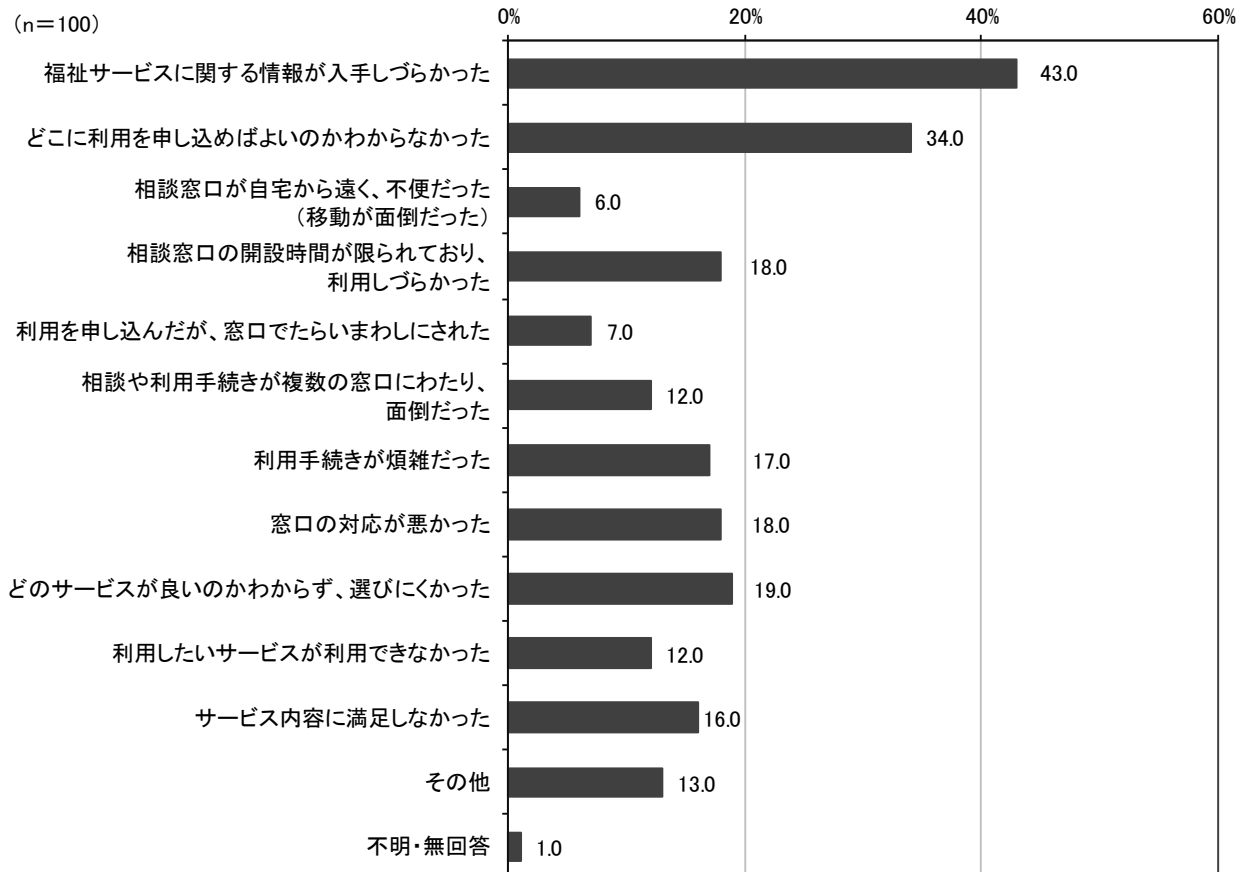
地区別をみると、いずれも「現在のところ、福祉サービスを必要としていない」が最も多くなっています。

		ある	不都合や不満を感じたことがある	福祉サービスの利用に際し、不都合や不満を感じたことはない	現在のところ、福祉サービスを必要としていない	無回答
(単位: %)						
合計 (n=1,202)		8.3	15.3	67.6	8.8	
年齢別	10代 (n=18)	5.6	16.7	72.2	5.6	
	20代 (n=88)	5.7	12.5	78.4	3.4	
	30代 (n=116)	12.9	17.2	62.9	6.9	
	40代 (n=188)	9.0	14.9	69.1	6.9	
	50代 (n=178)	10.7	18.0	64.6	6.7	
	60代 (n=201)	8.0	11.9	71.6	8.5	
	70代以上 (n=383)	6.5	16.7	64.8	12.0	
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	8.5	15.3	69.8	6.3	
	北中学校地区 (n=194)	8.2	14.9	66.5	10.3	
	西中学校A地区 (n=154)	9.1	16.9	65.6	8.4	
	西中学校B地区 (n=159)	8.8	18.9	66.0	6.3	
	四街道中学校地区 (n=274)	8.4	15.0	67.2	9.5	
	旭中学校地区 (n=189)	6.9	13.2	70.4	9.5	

(問 28-1 で「福祉サービスの利用に際し、不都合や不満を感じたことがある」を選んだ方)

問 28-2 不都合を感じたり、不満に思ったことは、どのようなことですか。 (複数回答)

「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が 43.0%と最も多く、次いで「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が 34.0%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「サービス内容に満足しなかった」が、20代と50代では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」と「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、60代では「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、それ以外の年代では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が最も多くなっています。

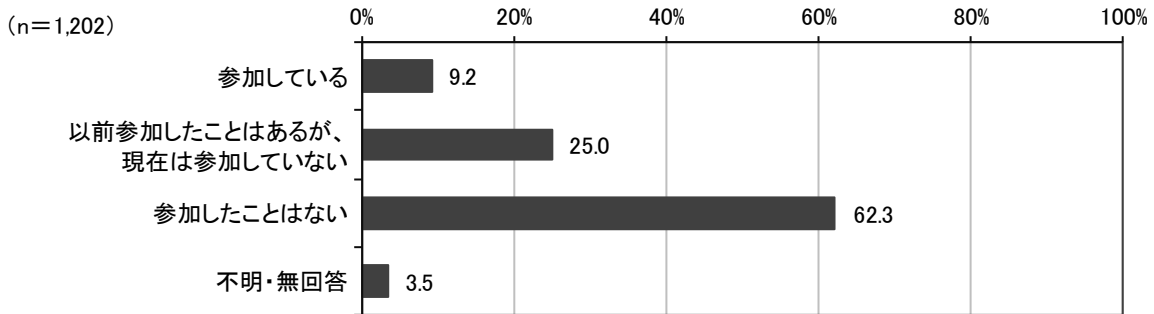
地区別をみると、西中学校A地区では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」と「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、四街道中学校地区では「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、旭中学校地区では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」と「利用手続きが煩雑だった」が、それ以外の地区では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が最も多くなっています。

(単位:%)		入 手 し づ ら か っ た	福 祉 サ ー ビ ス に 関 す る 情 報 が	よ い の か わ ら な か っ た	ど こ に 利 用 を 申 し 込 め ば	だ っ た （ 移 動 が 面 倒 だ っ た ）	相 談 窓 口 が 自 宅 か ら 遠 く 、 不 便	り 、 相 談 窓 口 の 開 設 時 間 が 限 ら れ て お	た ら い ま わ し 込 ん だ が 、 窓 口 で	利 用 を 申 し 込 ん だ が 、 窓 口 の	窓 口 に わ た り 、 面 倒 だ っ た	相 談 や 利 用 手 続 き が 複 数 の	利 用 手 続 き が 煩 雑 だ っ た	窓 口 の 対 応 が 悪 か っ た	わ か ら ず 、 選 び に く か っ た	ど の サ ー ビ ス が 良 い の か	で き な か っ た	利 用 し た い サ ー ビ ス が 利 用	し な か っ た	サ ー ビ ス 内 容 に 満 足	そ の 他	無 回 答
合計	(n=100)	43.0	34.0	6.0	18.0	7.0	12.0	17.0	18.0	19.0	12.0	16.0	13.0	1.0								
年 齢 別	10代	(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0								
	20代	(n=5)	60.0	60.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	0.0								
	30代	(n=15)	40.0	20.0	13.3	33.3	6.7	20.0	26.7	13.3	26.7	26.7	13.3	6.7								
	40代	(n=17)	41.2	29.4	5.9	29.4	5.9	17.6	23.5	17.6	23.5	5.9	5.9	17.6								
	50代	(n=178)	57.9	57.9	0.0	15.8	10.5	21.1	21.1	10.5	21.1	10.5	15.8	0.0								
	60代	(n=201)	31.3	50.0	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3	43.8	18.8	12.5	18.8	12.5								
	70代以上	(n=383)	40.0	16.0	8.0	8.0	0.0	0.0	8.0	12.0	12.0	4.0	16.0	28.0								
地 区 別	千代田中学校地区	(n=189)	37.5	12.5	0.0	31.3	0.0	6.3	6.3	25.0	18.8	6.3	12.5	25.0								
	北中学校地区	(n=194)	50.0	37.5	6.3	12.5	6.3	18.8	12.5	6.3	25.0	25.0	25.0	0.0								
	西中学校A地区	(n=154)	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	7.1	21.4	28.6	14.3	14.3	21.4	7.1								
	西中学校B地区	(n=159)	42.9	35.7	0.0	7.1	14.3	7.1	14.3	35.7	7.1	0.0	14.3	0.0								
	四街道中学校地区	(n=274)	47.8	52.2	8.7	26.1	4.3	4.3	13.0	0.0	21.7	13.0	13.0	4.3								
	旭中学校地区	(n=189)	38.5	23.1	7.7	15.4	7.7	23.1	38.5	30.8	23.1	15.4	15.4	15.4								

8 「防災」について

問 29 あなたは日ごろから地域の防災訓練に参加していますか。(複数回答)

「参加したことはない」が 62.3%と最も多く、次いで「以前参加したことはあるが、現在は参加していない」が 25.0%、「参加している」が 9.2%となっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

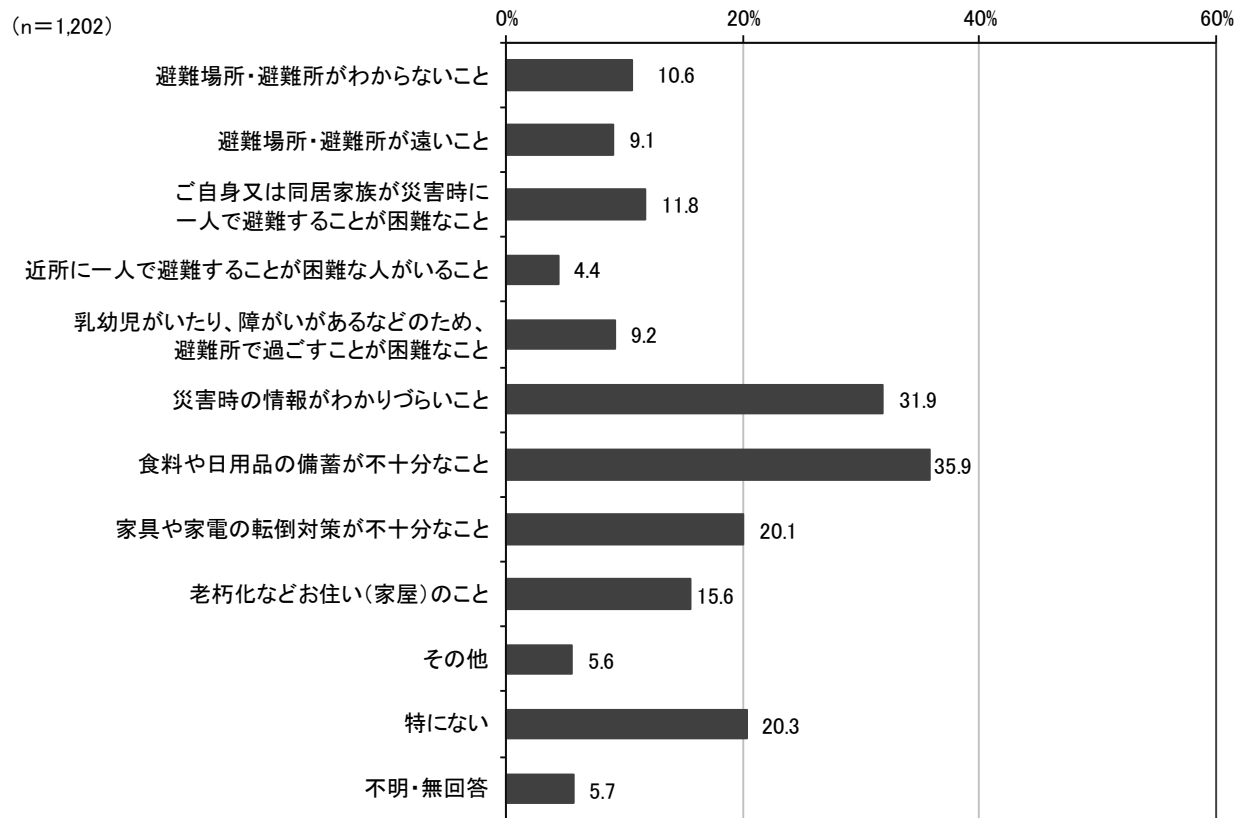
年代別をみると、いずれも「参加したことはない」が最も多く、特に 30～50 代では、全体より 10 ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「参加したことはない」が最も多く、特に西中学校 A 地区では、全体より 6.5 ポイント多くなっています。また、北中学校地区では「参加している」が全体より 5.2 ポイント多くなっています。

(単位:%)		参加している	以前参加したことはあるが、現在は参加していない	参加したことはない	無回答	
合計	(n=1,202)	9.2	25.0	62.3	3.5	
年齢別	10代	(n=18)	0.0	27.8	72.2	0.0
	20代	(n=88)	3.4	22.7	71.6	2.3
	30代	(n=116)	6.0	9.5	83.6	0.9
	40代	(n=188)	5.3	16.0	77.1	1.6
	50代	(n=178)	6.2	18.5	72.5	2.8
	60代	(n=201)	9.5	31.8	54.2	4.5
	70代以上	(n=383)	14.1	33.2	47.3	5.5
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	11.6	24.3	61.4	2.6
	北中学校地区	(n=194)	14.4	24.2	58.2	3.1
	西中学校A地区	(n=154)	1.3	26.6	68.8	3.2
	西中学校B地区	(n=159)	6.3	27.7	64.2	1.9
	四街道中学校地区	(n=274)	9.9	23.0	61.7	5.5
	旭中学校地区	(n=189)	7.9	23.8	64.6	3.7

問 30 災害時についての不安や心配事がありますか。(複数回答)

「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」が 35.9%と最も多く、次いで「災害時の情報がわかりづらいこと」が 31.9%、「特にない」が 20.3%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」と「特にない」が、60代以上では「災害時の情報がわかりづらいこと」が、それ以外の年代では「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多く、特に10代の「特にない」と、30代の「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、30代では「避難場所・避難所がわからないこと」と「乳幼児がいたり、障がいがあるなどのため、避難所で過ごすことが困難なこと」が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、北中学校地区では「災害時の情報がわかりづらいこと」が、それ以外の地区では「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多くなっています。また、千代田中学校地区では「乳幼児がいたり、障がいがあるなどのため、避難所で過ごすことが困難なこと」が、北中学校地区では「特にない」が、西中学校B地区では「避難場所・避難所がわからないこと」と「避難場所・避難所が遠いこと」が、旭中学校地区では「老朽化などお住い（家屋）のこと」が全体より5ポイント以上多くなっています。

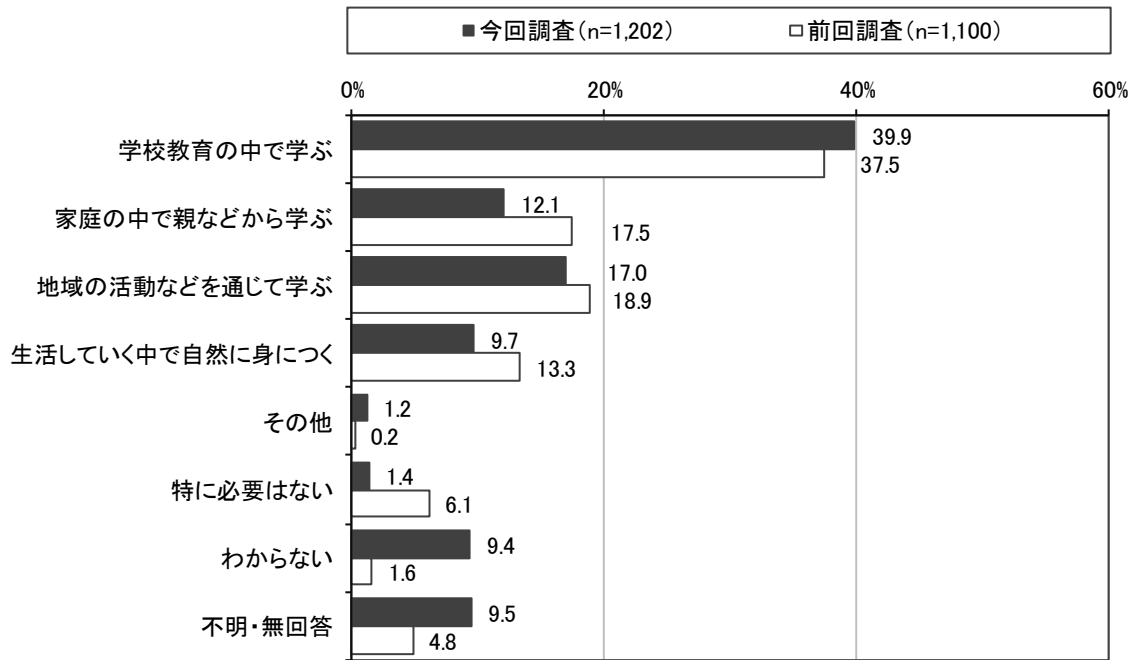
(単位:%)		避難場所・避難所がわからないこと	避難場所・避難所が遠いこと	災害時に又は同居家族が避難すること	近所に一人が避難すること	過るなどのため、障がいがあること	乳幼児がいたり、障がいがあること	災害時の情報がわかりづらいこと	食料や日用品の備蓄が不十分なこと	家具や家電の転倒対策が不十分なこと	老朽化などお住い（家屋）のこと	その他	特にない	無回答
合計	(n=1,202)	10.6	9.1	11.8	4.4	9.2	31.9	35.9	20.1	15.6	5.6	20.3	5.7	
年齢別	10代 (n=18)	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	16.7	38.9	16.7	11.1	5.6	38.9	5.6	
	20代 (n=88)	12.5	3.4	11.4	2.3	12.5	33.0	39.8	25.0	19.3	9.1	19.3	3.4	
	30代 (n=116)	20.7	5.2	16.4	3.4	35.3	26.7	49.1	26.7	8.6	6.9	8.6	2.6	
	40代 (n=188)	9.6	4.8	10.1	2.7	13.8	31.9	44.1	19.1	12.8	8.0	19.1	2.7	
	50代 (n=178)	10.1	11.8	14.6	3.4	3.4	36.5	39.9	25.8	19.7	4.5	19.1	2.8	
	60代 (n=201)	11.9	8.0	8.0	8.0	3.5	37.3	32.8	20.4	16.9	4.0	18.4	7.0	
	70代以上 (n=383)	7.3	13.6	12.5	5.2	4.4	29.0	25.8	15.4	15.7	4.7	24.8	9.7	
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	7.9	4.8	11.1	4.8	15.3	36.0	38.1	23.3	13.8	4.2	15.3	5.3	
	北中学校地区 (n=194)	8.2	9.3	14.4	7.2	7.7	28.9	25.3	14.9	12.9	4.1	26.3	6.2	
	西中学校A地区 (n=154)	14.9	7.8	12.3	4.5	6.5	36.4	39.6	24.7	15.6	7.1	20.1	4.5	
	西中学校B地区 (n=159)	16.4	18.9	13.8	5.0	8.2	33.3	36.5	17.0	19.5	7.5	16.4	3.1	
	四街道中学校地区 (n=274)	10.6	9.5	12.0	2.9	11.3	28.8	38.3	20.4	10.6	5.8	22.3	6.9	
	旭中学校地区 (n=189)	6.9	5.8	8.5	3.7	5.3	30.7	34.9	22.2	23.8	5.3	19.6	6.9	

9 「福祉教育・学習」について

問 31 福祉教育・学習（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育・学習）について、どのように行うべきだと思いますか。（単数回答）

「学校教育の中で学ぶ」が 39.9%と最も多く、次いで「地域の活動などを通じて学ぶ」が 17.0%となっています。

前回調査と比較すると、「家庭の中で親などから学ぶ」が 5.4 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「学校教育の中で学ぶ」が最も多く、特に10～20代では全体より10ポイント以上多くなっています。

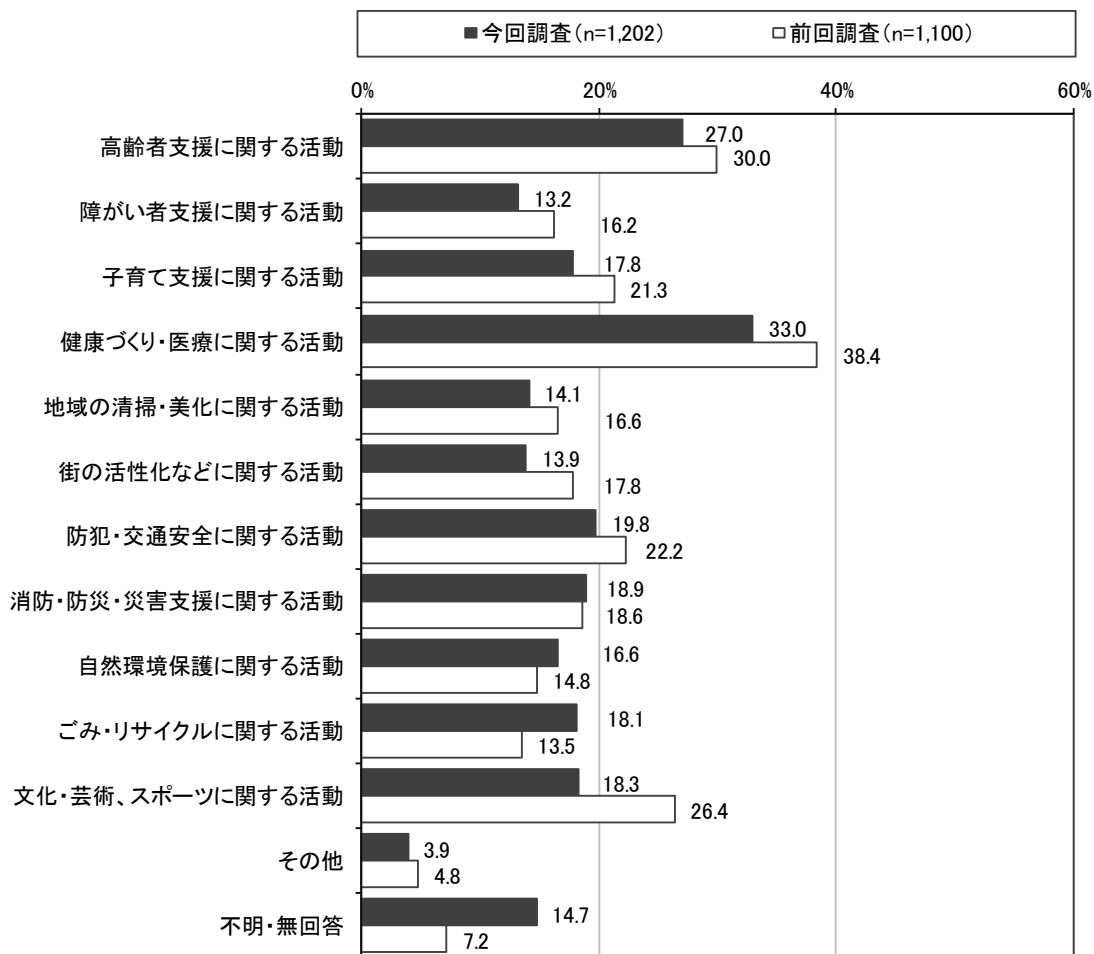
地区別をみると、いずれも「学校教育の中で学ぶ」が最も多くなっています。また、西中学校A地区では「わからない」が全体より5.5ポイント多くなっています。

(単位:%)		学校教育の中で学ぶ	家庭の中で親などから学ぶ	地域の活動などを通じて学ぶ	身生活つくいく中で自然に	その他	特に必要はない	わからない	無回答
合計 (n=1,202)		39.9	12.1	17.0	9.7	1.2	1.4	9.4	9.5
年齢別	10代 (n=18)	50.0	16.7	5.6	16.7	5.6	0.0	5.6	0.0
	20代 (n=88)	52.3	3.4	15.9	11.4	1.1	2.3	5.7	8.0
	30代 (n=116)	44.8	12.1	13.8	12.1	1.7	0.9	7.8	6.9
	40代 (n=188)	45.7	14.9	12.8	10.1	0.5	1.1	7.4	7.4
	50代 (n=178)	43.8	12.9	18.5	5.1	1.7	0.0	10.1	7.9
	60代 (n=201)	37.3	12.9	21.4	7.0	1.0	2.5	10.0	8.0
	70代以上 (n=383)	30.8	12.0	18.5	11.5	1.0	1.6	11.0	13.6
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	36.5	14.8	18.5	10.1	1.1	1.6	7.4	10.1
	北中学校地区 (n=194)	39.2	11.3	18.6	9.3	0.5	1.5	8.2	11.3
	西中学校A地区 (n=154)	39.6	11.7	18.8	3.9	1.9	1.3	14.9	7.8
	西中学校B地区 (n=159)	42.8	14.5	14.5	13.2	1.3	1.3	5.7	6.9
	四街道中学校地区 (n=274)	39.8	12.4	13.5	10.9	1.5	1.1	10.2	10.6
	旭中学校地区 (n=189)	39.7	8.5	21.7	9.5	0.5	1.6	10.1	8.5

問 32 より暮らしやすい地域社会の実現に向けては、福祉はもちろん、より幅広い分野について、関心を持つ方や活動する方が増えることも重要なことといえます。今後、学びたい・活動したいと思うものはどれですか。（複数回答）

「健康づくり・医療に関する活動」が 33.0%と最も多く、次いで「高齢者支援に関する活動」が 27.0%となっています。

前回調査と比較すると、「文化・芸術、スポーツに関する活動」が 8.1 ポイント、「健康づくり・医療に関する活動」が 5.4 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「障がい者支援に関する活動」と「健康づくり・医療に関する活動」、「文化・芸術、スポーツに関する活動」が、20～30代では「子育て支援に関する活動」が、それ以外の年代では「健康づくり・医療に関する活動」が最も多く、特に10代の「障がい者支援に関する活動」と「文化・芸術、スポーツに関する活動」、20～30代の「子育て支援に関する活動」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「健康づくり・医療に関する活動」が最も多く、特に千代田中学校地区では全体より5.6ポイント多くなっています。また、千代田中学校地区では「子育て支援に関する活動」が、北中学校地区では「地域の清掃・美化に関する活動」と「防犯・交通安全に関する活動」、「消防・防災・災害支援に関する活動」、「ごみ・リサイクルに関する活動」が、旭中学校地区では「高齢者支援に関する活動」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		高齢者支援に関する活動	障がい者支援に関する活動	子育て支援に関する活動	健康づくり・医療に関する活動	地域の清掃・美化に関する活動	街の活性化などに関する活動	防犯・交通安全に関する活動	消防・防災・災害支援に関する活動	自然環境保護に関する活動	活動	ごみ・リサイクルに関する活動	文化・芸術、スポーツに関する活動	その他	無回答
合計	(n=1,202)	27.0	13.2	17.8	33.0	14.1	13.9	19.8	18.9	16.6	18.1	18.3	3.9	14.7	
年齢別	10代	(n=18)	22.2	33.3	22.2	33.3	22.2	16.7	27.8	27.8	11.1	22.2	33.3	5.6	5.6
	20代	(n=88)	30.7	20.5	50.0	22.7	10.2	18.2	23.9	23.9	12.5	20.5	23.9	2.3	6.8
	30代	(n=116)	19.0	10.3	43.1	23.3	6.9	15.5	16.4	12.9	13.8	19.0	18.1	0.9	12.1
	40代	(n=188)	20.7	13.8	27.1	28.2	9.6	13.3	18.1	23.4	12.2	17.6	21.8	2.1	8.0
	50代	(n=178)	25.8	16.9	9.6	33.1	13.5	13.5	20.8	24.7	15.2	19.1	21.3	2.8	11.2
	60代	(n=201)	23.9	10.9	9.5	40.8	16.4	12.4	22.9	17.9	22.4	20.9	17.9	4.0	14.9
	70代以上	(n=383)	33.7	11.2	7.0	37.6	18.3	14.4	19.3	16.2	19.6	16.4	13.6	6.3	21.1
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	28.6	11.6	24.3	38.6	13.8	15.9	19.0	21.7	20.1	18.0	20.1	4.2	10.1
	北中学校地区	(n=194)	27.8	15.5	17.0	34.5	20.6	12.9	25.3	24.2	21.1	25.8	20.6	1.5	14.9
	西中学校A地区	(n=154)	24.0	11.7	13.6	30.5	9.7	11.0	19.5	18.8	14.3	20.1	14.3	6.5	15.6
	西中学校B地区	(n=159)	26.4	15.1	15.1	33.3	14.5	13.8	17.6	16.4	15.1	18.9	19.5	4.4	13.2
	四街道中学校地区	(n=274)	23.4	14.2	22.6	28.8	11.7	17.2	20.4	18.2	16.4	17.5	17.9	3.3	15.3
	旭中学校地区	(n=189)	32.3	11.1	12.7	36.5	15.3	12.2	18.0	17.5	14.3	12.2	16.9	4.2	15.9

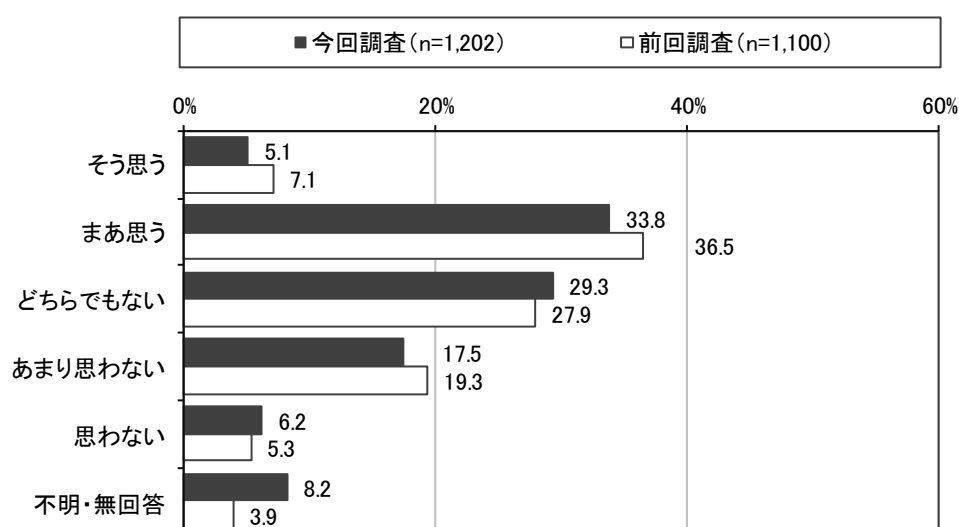
10 「福祉全般」について

問 33 四街道市の地域での支え合いの現状についてどう思われますか。(単数回答)

ア 住民同士のつながり・支え合いがある

「まあ思う」が33.8%と最も多く、「そう思う」(5.1%)を合わせた“つながり・支え合いがあると思う”は38.9%となっています。また、「どちらでもない」は29.3%で、「あまり思わない」(17.5%)と「思わない」(6.2%)を合わせた“つながり・支え合いがあると思わない”は23.7%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、60代では「どちらでもない」が、それ以外の年代では「まあ思う」が最も多く、特に10代の「まあ思う」では、全体より5.1ポイント多くなっています。また、10代では「そう思う」が、30代では「どちらでもない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

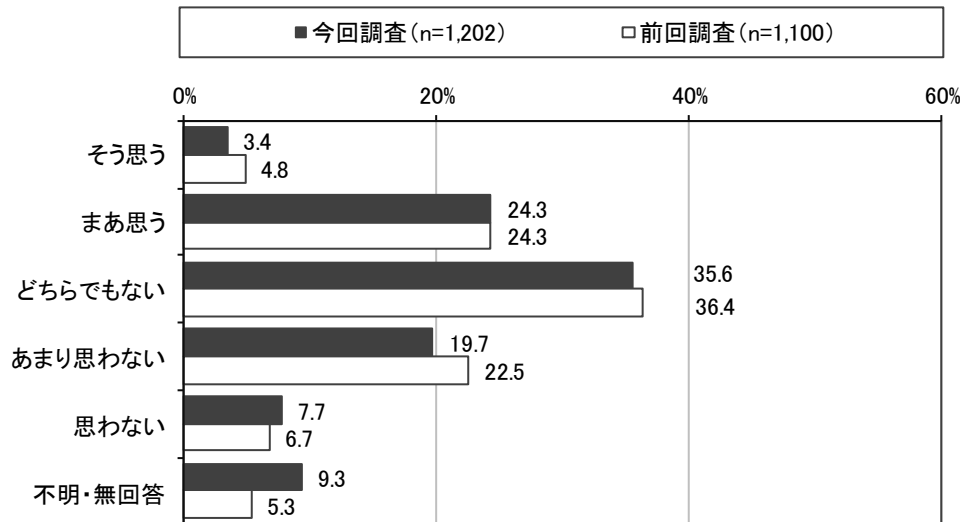
地区別をみると、西中学校B地区と四街道中学校地区では「どちらでもない」が、それ以外の年代では「まあ思う」が最も多くなっています。

(単位:%)		そう思う	まあ思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	無回答	
合計	(n=1,202)	5.1	33.8	29.3	17.5	6.2	8.2	
年齢別	10代	(n=18)	11.1	38.9	27.8	16.7	5.6	0.0
	20代	(n=88)	8.0	38.6	28.4	19.3	3.4	2.3
	30代	(n=116)	2.6	36.2	35.3	12.1	7.8	6.0
	40代	(n=188)	2.7	36.2	31.9	17.6	6.4	5.3
	50代	(n=178)	3.4	35.4	31.5	20.2	4.5	5.1
	60代	(n=201)	5.5	27.9	30.8	18.9	8.0	9.0
	70代以上	(n=383)	7.0	32.6	24.3	17.5	6.5	12.0
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	6.3	38.1	26.5	15.9	5.8	7.4
	北中学校地区	(n=194)	6.2	35.6	24.2	19.6	7.7	6.7
	西中学校A地区	(n=154)	5.8	32.5	29.2	16.2	9.1	7.1
	西中学校B地区	(n=159)	2.5	31.4	32.7	18.2	6.3	8.8
	四街道中学校地区	(n=274)	3.6	29.6	33.9	17.9	6.6	8.4
	旭中学校地区	(n=189)	6.9	36.5	28.0	17.5	2.6	8.5

イ 地域で暮らしやすくなるよう、いろいろ取り組んでいる人が多い

「どちらでもない」が35.6%と最も多くなっています。また、「まあ思う」(24.3%)と「そう思う」(3.4%)を合わせた“取り組んでいる人が多いと思う”は27.7%で、反対に、「あまり思わない」(19.7%)と「思わない」(7.7%)を合わせた“取り組んでいる人が多いと思わない”は27.4%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「まあ思う」と「どちらでもない」、「あまり思わない」が、それ以外の年代では「どちらでもない」が最も多く、特に10代の「あまり思わない」と50代の「どちらでもない」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、10代では「そう思う」が全体より7.7ポイント多くなっています。

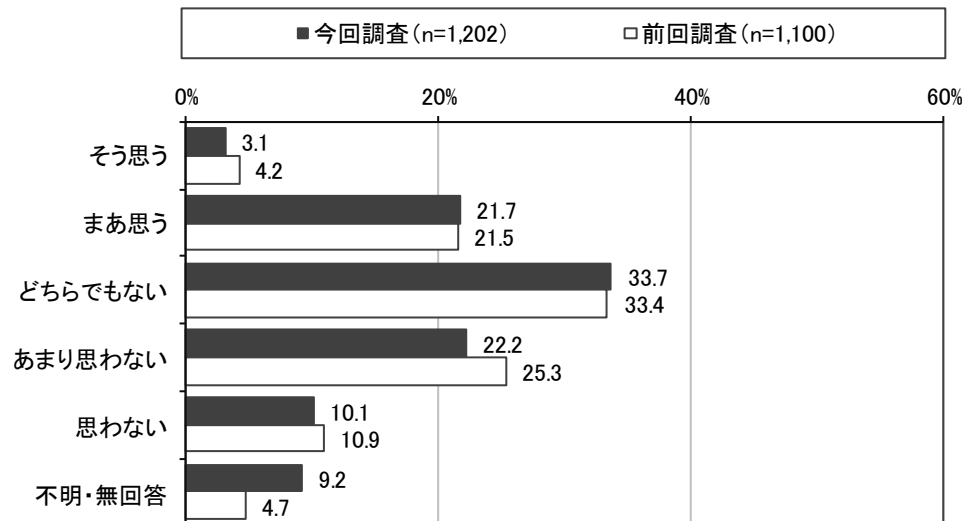
地区別をみると、いずれも「どちらでもない」が最も多くなっています。

(単位:%)		そう思う	まあ思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	無回答
合計	(n=1,202)	3.4	24.3	35.6	19.7	7.7	9.3
年齢別	10代	(n=18)	11.1	27.8	27.8	5.6	0.0
	20代	(n=88)	4.5	28.4	34.1	20.5	3.4
	30代	(n=116)	1.7	27.6	40.5	17.2	5.2
	40代	(n=188)	2.1	25.5	39.9	18.6	6.4
	50代	(n=178)	1.7	25.3	44.4	18.0	6.2
	60代	(n=201)	4.0	20.9	37.8	19.4	9.5
	70代以上	(n=383)	4.4	22.2	28.5	21.4	14.4
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	4.2	27.0	36.5	19.0	7.4
	北中学校地区	(n=194)	4.1	27.3	35.6	16.5	7.7
	西中学校A地区	(n=154)	1.9	17.5	36.4	22.1	9.1
	西中学校B地区	(n=159)	0.6	23.9	37.7	17.6	12.6
	四街道中学校地区	(n=274)	3.6	19.0	37.6	23.4	9.1
	旭中学校地区	(n=189)	4.8	30.2	31.7	19.0	9.0

ウ 困ったときには、解決できるよう相談できる／助けてもらえる安心感がある

「どちらでもない」が33.7%と最も多くなっています。また、「まあ思う」(21.7%)と「そう思う」(3.1%)を合わせた“安心感があると思う”は24.8%で、反対に、「あまり思わない」(22.2%)と「思わない」(10.1%)を合わせた“安心感があると思わない”は32.3%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「どちらでもない」が最も多く、特に10代と50代では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、10代では「そう思う」が、30代では「あまり思わない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

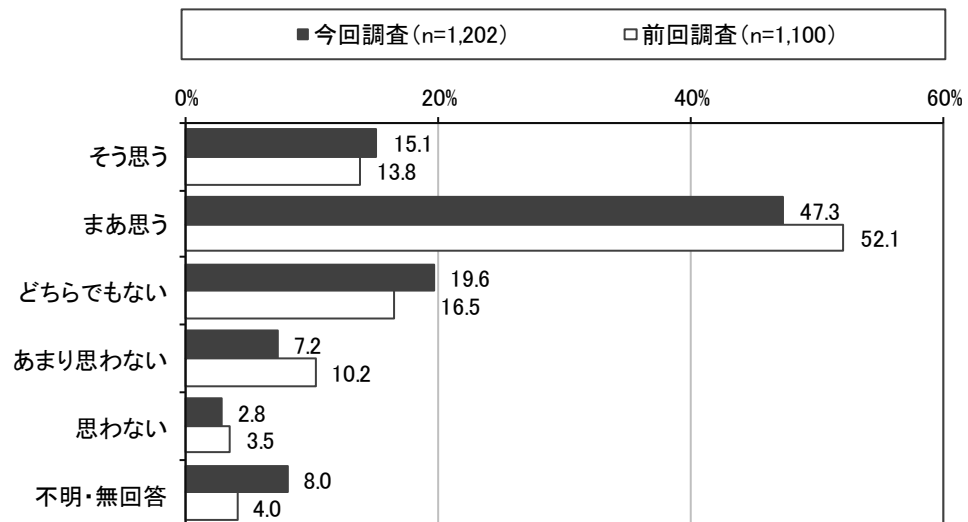
地区別をみると、いずれも「どちらでもない」が最も多く、特に西中学校 B 地区では、全体より5.3ポイント多くなっています。また、千代田中学校地区では「まあ思う」が全体より6.3ポイント多くなっています。

(単位:%)		そう思う	まあ思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	無回答
合計 (n=1,202)		3.1	21.7	33.7	22.2	10.1	9.2
年齢別	10代 (n=18)	11.1	22.2	38.9	16.7	11.1	0.0
	20代 (n=88)	5.7	23.9	36.4	19.3	11.4	3.4
	30代 (n=116)	0.9	22.4	32.8	29.3	9.5	5.2
	40代 (n=188)	1.6	25.0	37.2	22.3	8.0	5.9
	50代 (n=178)	2.8	20.2	39.9	24.7	7.3	5.1
	60代 (n=201)	2.5	17.9	32.3	22.9	14.4	10.0
	70代以上 (n=383)	4.2	22.7	28.2	20.1	10.4	14.4
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	1.1	28.0	34.9	19.0	9.0	7.9
	北中学校地区 (n=194)	4.6	22.2	34.5	20.6	10.3	7.7
	西中学校A地区 (n=154)	2.6	24.7	28.6	18.2	17.5	8.4
	西中学校B地区 (n=159)	1.9	15.7	39.0	23.3	8.2	11.9
	四街道中学校地区 (n=274)	3.6	17.5	34.7	25.9	9.5	8.8
	旭中学校地区 (n=189)	4.2	24.3	28.6	26.5	7.4	9.0

エ 暮らしている地域は安心・安全であると感じる

「まあ思う」が47.3%と最も多く、「そう思う」(15.1%)を合わせた“安心・安全であると思う”は62.4%となっています。また、「どちらでもない」は19.6%で、「あまり思わない」(7.2%)と「思わない」(2.8%)を合わせた“安心・安全であると思わない”は10.0%となっています。

前回調査と比較すると、「まあ思う」が4.8ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、いずれも「まあ思う」が最も多く、特に50代では、全体より8.9ポイント多くなっています。また、10代では「あまり思わない」が、30代では「どちらでもない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

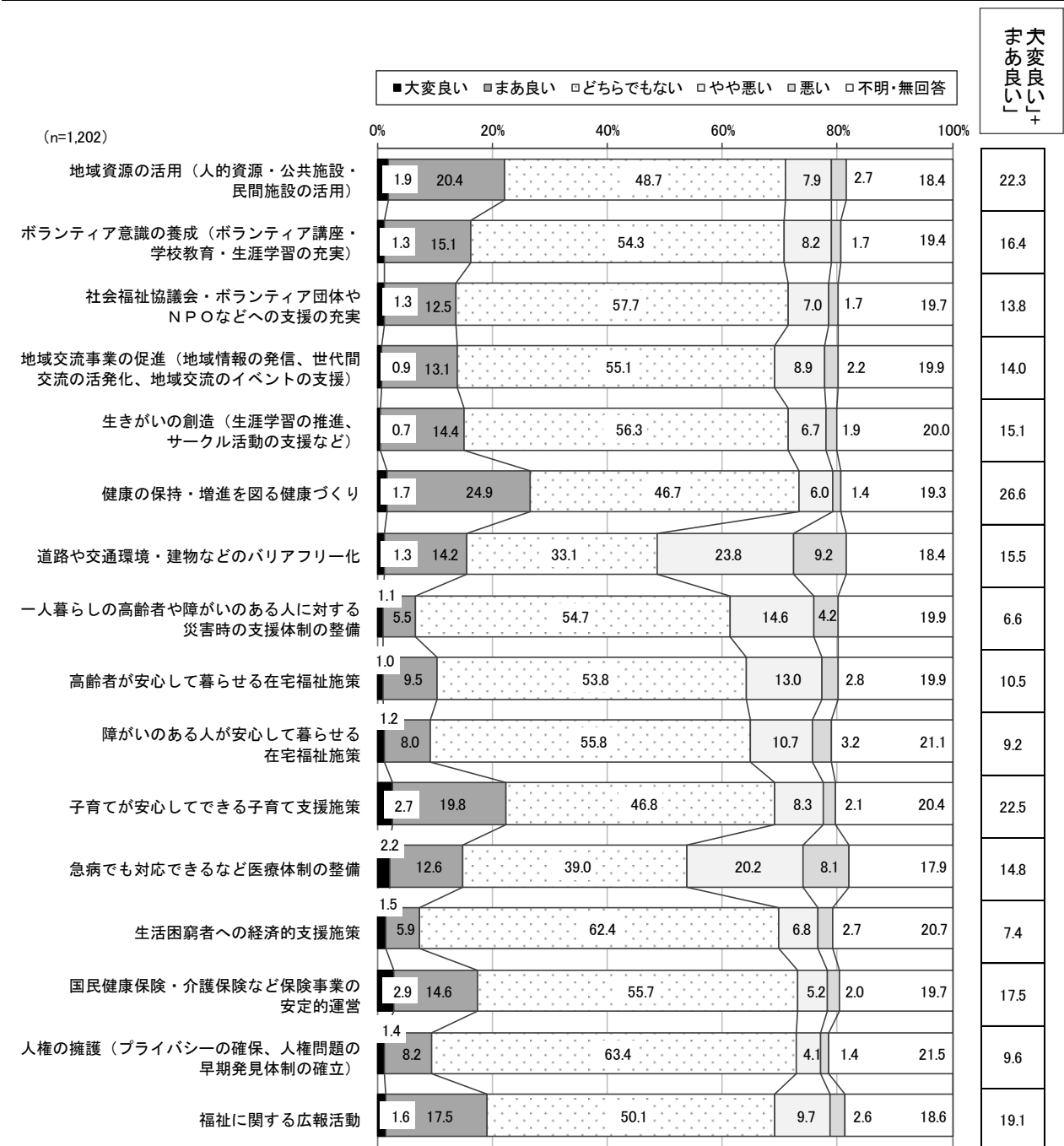
地区別をみると、いずれも「まあ思う」が最も多く、特に旭中学校地区では、全体より6.7ポイント多くなっています。

(単位:%)		そう思う	まあ思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	無回答	
合計	(n=1,202)	15.1	47.3	19.6	7.2	2.8	8.0	
年齢別	10代	(n=18)	16.7	38.9	22.2	16.7	5.6	0.0
	20代	(n=88)	17.0	48.9	23.9	5.7	2.3	2.3
	30代	(n=116)	13.8	46.6	25.0	4.3	5.2	5.2
	40代	(n=188)	12.8	51.6	22.3	5.3	2.7	5.3
	50代	(n=178)	12.4	56.2	17.4	8.4	1.1	4.5
	60代	(n=201)	12.4	50.2	17.9	6.5	4.0	9.0
	70代以上	(n=383)	18.5	41.8	16.2	8.9	2.6	12.0
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	14.8	51.3	19.6	4.8	2.1	7.4
	北中学校地区	(n=194)	19.6	42.3	20.6	8.2	3.1	6.2
	西中学校A地区	(n=154)	13.6	44.2	18.2	10.4	7.1	6.5
	西中学校B地区	(n=159)	9.4	45.9	23.3	6.3	5.0	10.1
	四街道中学校地区	(n=274)	17.9	48.2	19.0	6.6	0.7	7.7
	旭中学校地区	(n=189)	12.2	54.0	15.3	7.9	1.6	9.0

問 34 四街道市の、福祉関連の分野の施策について、①下記項目の現状についてどう思われますか。②また、今後どの分野に力を入れるべきと思いますか。

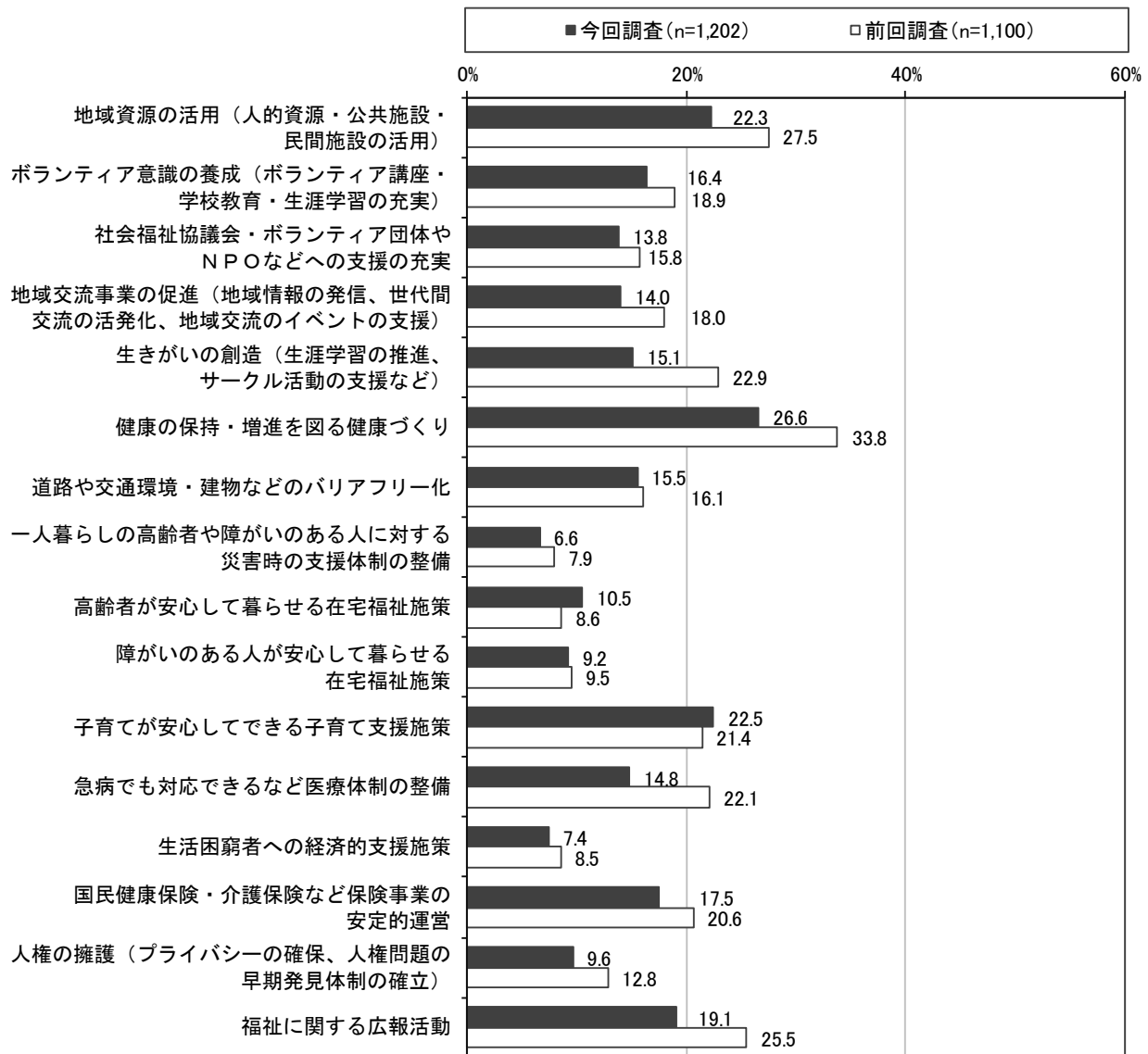
①現状について（単数回答）

「大変良い」と「まあ良い」を合わせた割合をみると、「健康の保持・増進を図る健康づくり」が26.6%と最も多く、次いで「子育てが安心してできる子育て支援施策」が22.5%、「地域資源の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）」が22.3%となっています。また、「やや悪い」と「悪い」を合わせた割合をみると、「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」が33.0%と最も多く、次いで「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が28.3%となっています。



●前回調査との比較（「大変良い」と「まあ良い」を合わせた割合）

前回調査と比較すると、「生きがいの創造（生涯学習の推進、サークル活動の支援など）」が7.8ポイント、「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が7.3ポイント、「健康の保持・増進を図る健康づくり」が7.2ポイント、「地域資源の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）」が5.2ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目／「大変良い」と「まあ良い」を合わせた割合）

年代別をみると、10代では「地域資源の活用」が、20～40代では「子育てが安心してできる子育て支援施策」が、50代では「健康の保持・増進を図る健康づくり」と「子育てが安心してできる子育て支援施策」が、それ以外の年代では「健康の保持・増進を図る健康づくり」が最も多く、特に10代の「地域資源の活用」と、20代の「子育てが安心してできる子育て支援施策」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、20代では「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」と「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」、「障がいのある人が安心して暮らせる在宅福祉施策」が全体より10ポイント以上多くなっており、10代においても「障がいのある人が安心して暮らせる在宅福祉施策」をはじめ、多くの項目が全体より10ポイント以上多くなっています。

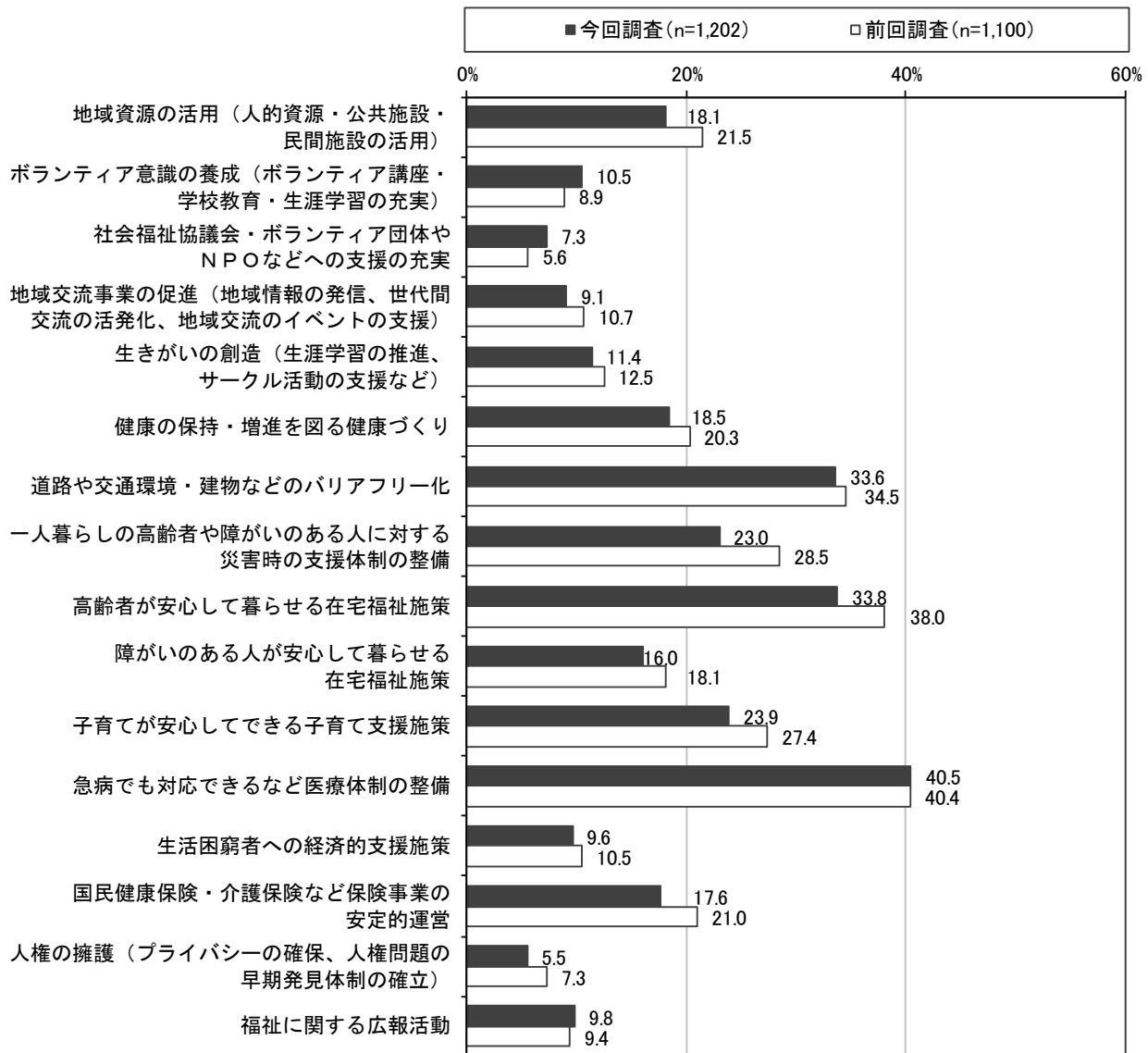
地区別をみると、西中学校A地区では「子育てが安心してできる子育て支援施策」が、それ以外の地区では「健康の保持・増進を図る健康づくり」が最も多くなっています。また、四街道中学校地区では「障がいのある人が安心して暮らせる在宅福祉施策」が全体より5.4ポイント多くなっています。

(単位:%)		地域資源の活用	ボランティア意識の養成	社会福祉協議会・ボランティア団体への支援の充実	地域交流事業の促進	生きがいの創造	健康づくり・増進を図る	道路や交通環境・建物などのバリアフリー化	対する災害時の支援体制の整備	一人暮らしの高齢者などに在宅福祉施策	高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策	障がいのある人が安心して暮らせる在宅福祉施策	子育てが安心してできる子育て支援施策	急病でも対応できるなど医療体制の整備	生活困窮者への経済的支援施策	国民健康保険・介護保険など保険事業の安定的運営	人権の擁護	福祉に関する広報活動
合計	(n=1,202)	22.3	16.4	13.8	14.0	15.1	26.6	15.5	6.6	10.5	9.2	22.5	14.8	7.4	17.5	9.6	19.1	
年齢別	10代	(n=18)	38.9	33.4	33.4	27.8	16.7	33.4	27.8	16.7	27.8	22.2	33.3	11.1	11.1	27.8	27.8	16.7
	20代	(n=88)	29.6	21.6	9.1	19.3	18.2	29.6	35.2	11.4	23.8	19.3	39.8	20.4	11.3	17.0	17.1	19.3
	30代	(n=116)	24.2	13.8	13.8	17.2	15.6	25.0	23.3	8.6	9.5	9.5	29.3	8.6	6.9	14.7	12.1	14.7
	40代	(n=188)	25.5	18.6	14.9	18.1	17.5	26.1	17.6	7.5	12.8	10.1	31.9	16.5	10.1	12.8	7.9	16.0
	50代	(n=178)	18.6	13.5	13.5	13.0	10.7	23.0	15.2	3.9	8.4	6.7	23.0	15.7	6.7	11.3	8.5	15.2
	60代	(n=201)	21.4	14.4	14.4	14.4	16.9	26.9	12.4	7.0	8.5	7.5	16.9	14.9	8.0	20.4	10.5	22.4
	70代以上	(n=383)	20.1	17.0	13.5	9.4	14.6	27.9	9.4	5.5	7.8	7.8	14.8	14.4	5.7	22.2	7.3	22.4
地区別	千代田中学校地区	(n=189)	25.9	19.6	17.5	13.7	14.3	28.0	14.3	4.3	5.3	6.4	18.5	15.9	7.4	17.5	8.5	21.1
	北中学校地区	(n=194)	24.8	15.9	11.3	12.9	15.4	28.4	15.9	6.2	8.2	7.7	23.7	16.5	7.8	17.0	8.7	21.6
	西中学校A地区	(n=154)	14.9	13.0	9.7	9.7	11.0	20.7	16.2	5.1	11.0	5.8	22.7	13.0	7.1	17.5	7.7	22.1
	西中学校B地区	(n=159)	17.0	11.4	10.7	13.2	15.1	25.2	15.1	5.7	10.7	8.8	21.3	11.3	7.0	18.9	11.3	17.7
	四街道中学校地区	(n=274)	25.9	17.6	15.7	18.2	16.0	28.1	17.5	9.5	15.3	14.6	27.7	16.8	7.6	15.7	11.0	16.4
	旭中学校地区	(n=189)	21.7	19.5	16.4	13.2	18.6	27.0	13.8	7.9	10.6	9.0	20.1	14.2	8.5	19.6	10.1	17.4

②今後力を入れる分野について（複数回答／主なもの5つまで）

「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が40.5%と最も多く、次いで「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」が33.8%、「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」が33.6%となっています。

前回調査と比較すると、「一人暮らしの高齢者や障がいのある人に対する災害時の支援体制の整備」が5.5ポイント、前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年代別をみると、10代では「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」が、30～40代では「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」と「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が、それ以外の年代では「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が最も多く、特に10代と30代の「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、20代では「子育てが安心してできる子育て支援施策」と「生活困窮者への経済的支援施策」が、30代では「子育てが安心してできる子育て支援施策」が、50代では「一人暮らしの高齢者などに対する災害時の支援体制の整備」が全体より10ポイント以上多くなっており、10代においても「生きがいの創造」をはじめ、多くの項目が全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、西中学校A地区では「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」が、それ以外の地区では「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が最も多く、特に西中学校A地区の「道路や交通環境・建物などのバリアフリー化」では、全体より9.9ポイント多くなっています。また、千代田中学校地区では「健康の保持・増進を図る健康づくり」が、西中学校B地区では「子育てが安心してできる子育て支援施策」が、旭中学校地区では「地域資源の活用」と「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」が全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		地域資源の活用	ボランティア意識の養成	社会福祉協議会・ボランティアなどへの支援の充実	地域交流事業の促進	生きがいの創造	健康づくり・増進を図る	道路や交通環境・建物などのバリアフリー化	一人暮らしの高齢者などに対する災害時の支援体制の整備	在宅福祉施策	高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策	障がいのある人が安心して暮らせる在宅福祉施策	子育てが安心してできる子育て支援施策	急病でも対応できるなど医療体制の整備	生活困窮者への経済的支援施策	国民健康保険・介護保険など	人権の擁護	福祉に関する広報活動	無回答
合計 (n=1,202)		18.1	10.5	7.3	9.1	11.4	18.5	33.6	23.0	33.8	16.0	23.9	40.5	9.6	17.6	5.5	9.8	29.0	
年齢別	10代 (n=18)	22.2	5.6	5.6	5.6	22.2	33.3	50.0	27.8	11.1	22.2	33.3	22.2	16.7	11.1	22.2	22.2	22.2	
	20代 (n=88)	13.6	14.8	0.0	11.4	10.2	13.6	38.6	23.9	37.5	21.6	45.5	40.9	21.6	9.1	8.0	11.4	15.9	
	30代 (n=116)	17.2	6.9	5.2	16.4	6.0	15.5	44.8	15.5	30.2	15.5	45.7	44.8	10.3	9.5	4.3	11.2	24.1	
	40代 (n=188)	22.3	10.6	8.0	9.0	10.1	17.0	37.8	22.9	30.3	18.1	30.3	37.8	10.1	11.2	4.8	9.0	23.9	
	50代 (n=178)	21.3	16.9	6.7	7.3	12.9	19.1	41.6	33.1	38.2	17.4	23.6	44.9	11.2	15.7	5.6	9.6	20.8	
	60代 (n=201)	17.4	11.4	8.5	7.5	14.4	23.4	31.8	22.9	33.3	15.9	21.4	41.8	7.5	25.4	4.0	10.0	31.3	
	70代以上 (n=383)	15.7	7.8	9.1	8.6	11.5	18.3	24.8	20.9	35.5	13.1	10.4	39.4	6.3	22.7	5.7	8.6	37.6	
地区別	千代田中学校地区 (n=189)	18.0	12.7	8.5	13.2	12.7	23.8	33.9	25.9	33.3	16.4	27.0	42.9	9.0	19.0	5.3	10.1	23.3	
	北中学校地区 (n=194)	18.0	10.8	6.7	6.7	13.4	14.9	35.6	20.6	36.1	18.0	23.7	42.3	11.3	20.6	5.7	12.9	28.9	
	西中学校A地区 (n=154)	14.9	13.6	7.1	9.1	7.8	19.5	43.5	20.1	28.6	16.9	24.0	36.4	9.1	18.8	5.8	10.4	26.0	
	西中学校B地区 (n=159)	17.0	7.5	6.9	10.1	12.6	18.2	29.6	27.0	37.1	18.9	28.9	42.8	9.4	17.0	5.0	6.9	31.4	
	四街道中学校地区 (n=274)	16.4	9.5	6.6	9.5	9.9	17.9	31.8	22.6	31.8	12.4	23.4	37.6	9.9	12.8	6.6	10.9	30.7	
	旭中学校地区 (n=189)	23.8	10.6	8.5	7.4	13.2	19.6	31.7	22.2	39.2	16.4	18.0	45.0	7.9	21.2	4.8	6.9	29.1	

(白場)

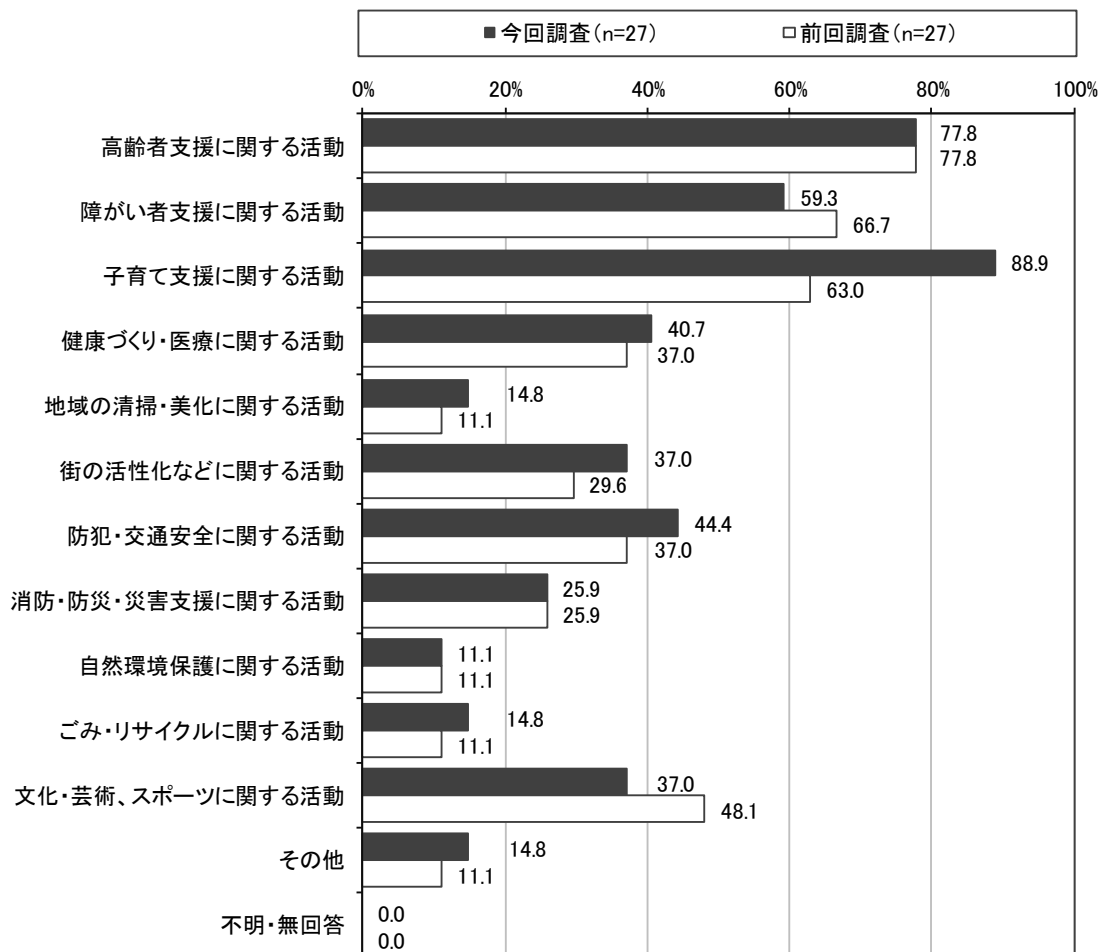
Ⅲ. 団体アンケート調査結果

1 団体が行っている福祉に関する活動について

問3 ふだんの活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けて行っている福祉に関する主な活動分野は、次のどれにあてはまりますか。(複数回答)

「子育て支援に関する活動」が88.9%と最も多く、次いで「高齢者支援に関する活動」が77.8%、「障がい者支援に関する活動」が59.3%となっています。

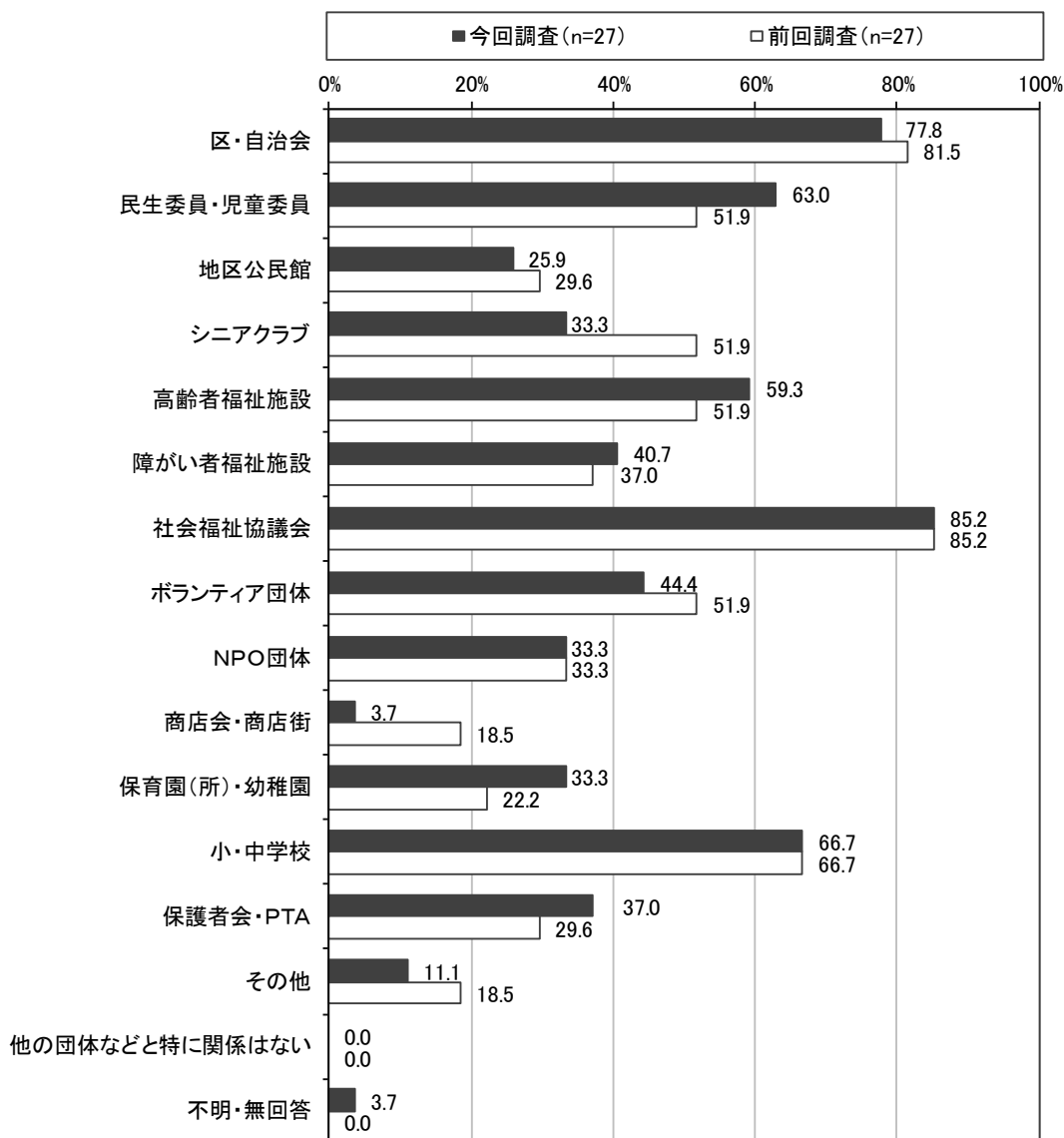
前回調査と比較すると、「子育て支援に関する活動」が25.9ポイント前回より多く、反対に、「文化・芸術、スポーツに関する活動」が11.1ポイント前回より少なくなっています。



問4 貴団体が活動を行う上で他のボランティア団体や公共団体などとの交流や協力関係がありますか。(複数回答)

「社会福祉協議会」が85.2%と最も多く、次いで「区・自治会」が77.8%となっています。

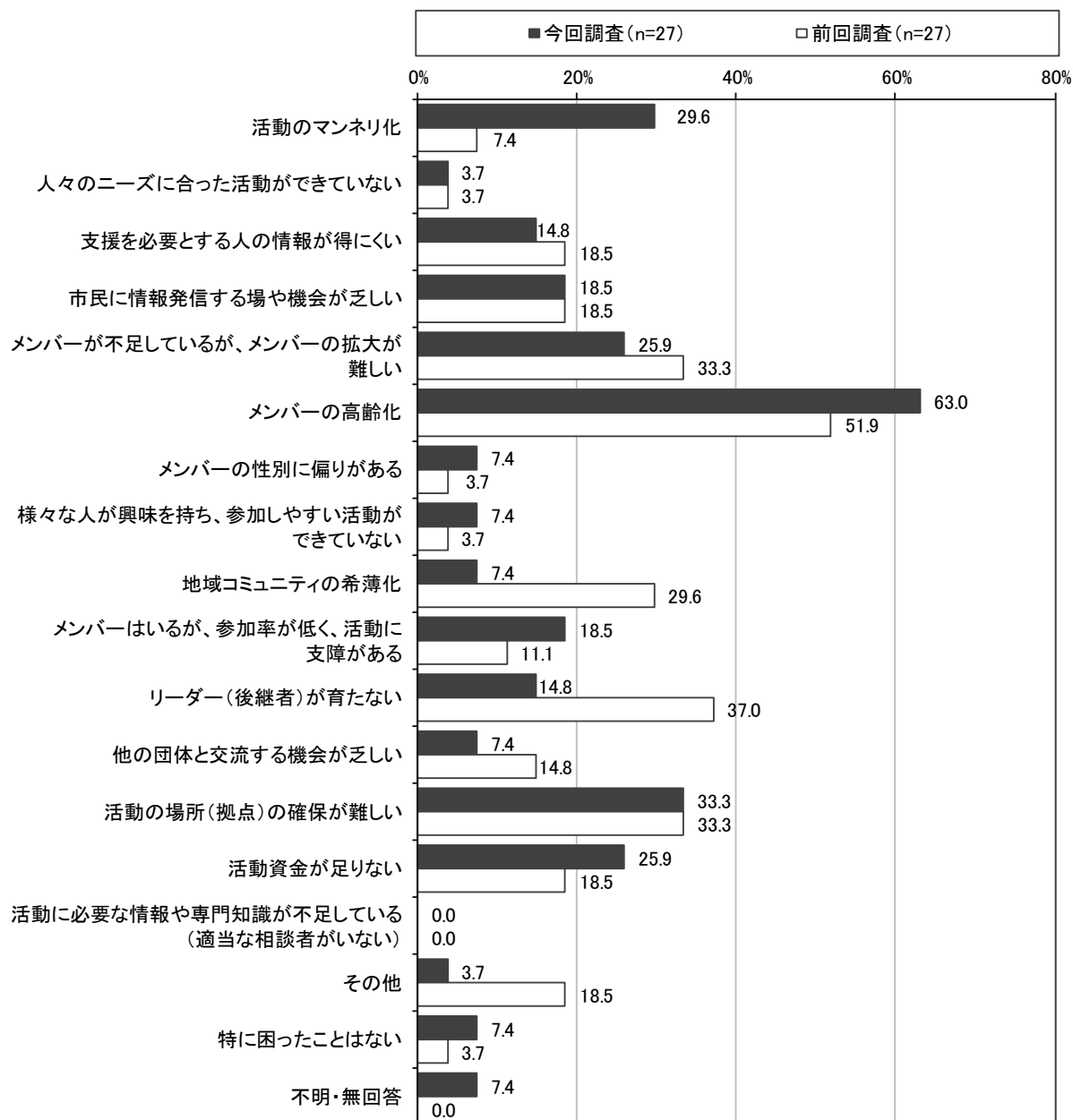
前回調査と比較すると、「民生委員・児童委員」と「保育園（所）・幼稚園」がともに11.1ポイント前回より多く、反対に、「シニアクラブ」が18.6ポイント、「商店会・商店街」が14.8ポイント前回より少なくなっています。



問5 現在、貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。
(複数回答)

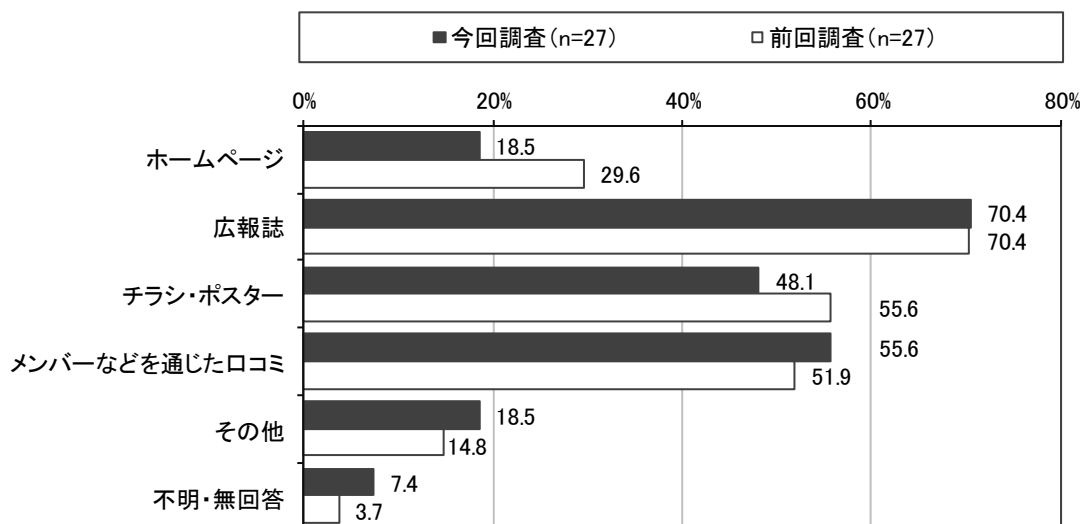
「メンバーの高齢化」が63.0%と最も多く、次いで「活動の場所(拠点)の確保が難しい」が33.3%、「活動のマナー化」が29.6%となっています。

前回調査と比較すると、「活動のマナー化」が22.2ポイント、「メンバーの高齢化」が11.1ポイント前回より多く、反対に、「地域コミュニティの希薄化」と「リーダー(後継者)が育たない」がともに22.2ポイント、「その他」が14.8ポイント前回より少なくなっています。



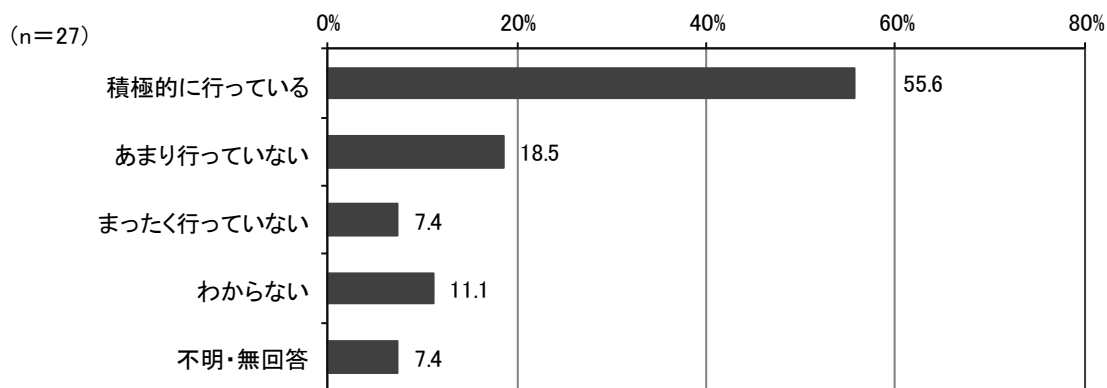
問6 貴団体の活動情報は、どのようなものを通じて、発信されていますか。(複数回答)

「広報誌」が70.4%と最も多く、次いで「メンバー等を通じた口コミ」が55.6%となっています。前回調査と比較すると、「ホームページ」が11.1ポイント前回より少なくなっています。



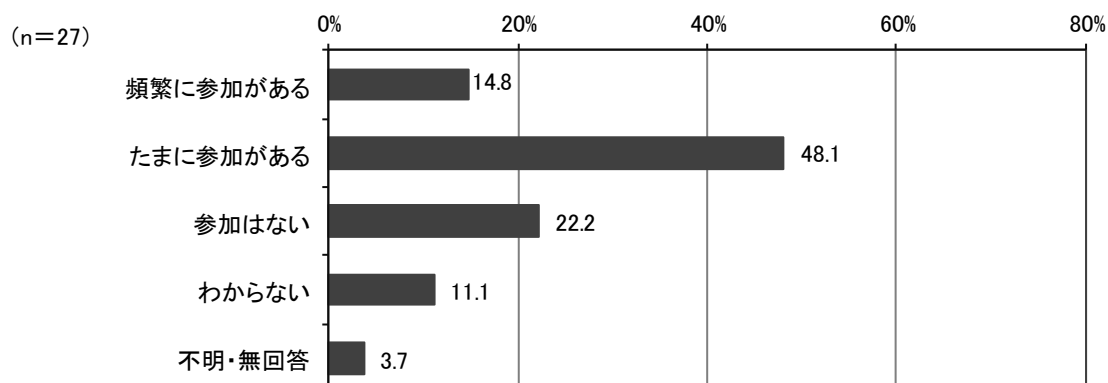
問7 貴団体は、新規メンバーの募集は行っていますか。(単数回答)

「積極的に行っている」が55.6%と最も多く、次いで「あまり行っていない」が18.5%となっています。



問8 貴団体の活動に、市民の方が様子見として参加することはありますか。(単数回答)

「たまに参加がある」が48.1%と最も多く、次いで「参加はない」が22.2%となっています。

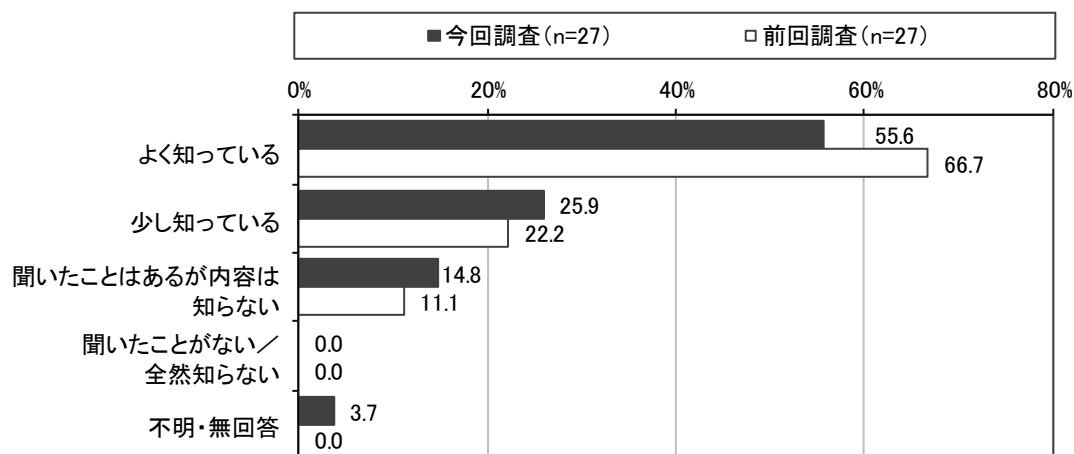


2 地域包括ケアシステム等について

問9 「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(単数回答)

「よく知っている」が55.6%と最も多く、「少し知っている」(25.9%)を合わせた“知っている”は81.5%となっています。反対に、「聞いたことはあるが内容は知らない」(14.8%)と「聞いたことがない/全然知らない」(0.0%)を合わせた“知らない”は14.8%となっています。

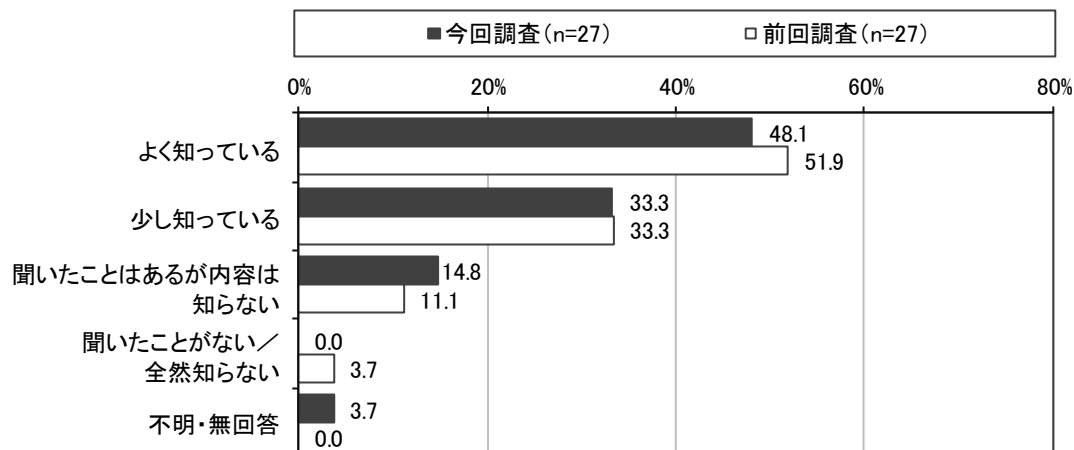
前回調査と比較すると、「よく知っている」が11.1ポイント前回より少なくなっています。



問 10 「生活困窮者自立支援制度」を知っていますか。(単数回答)

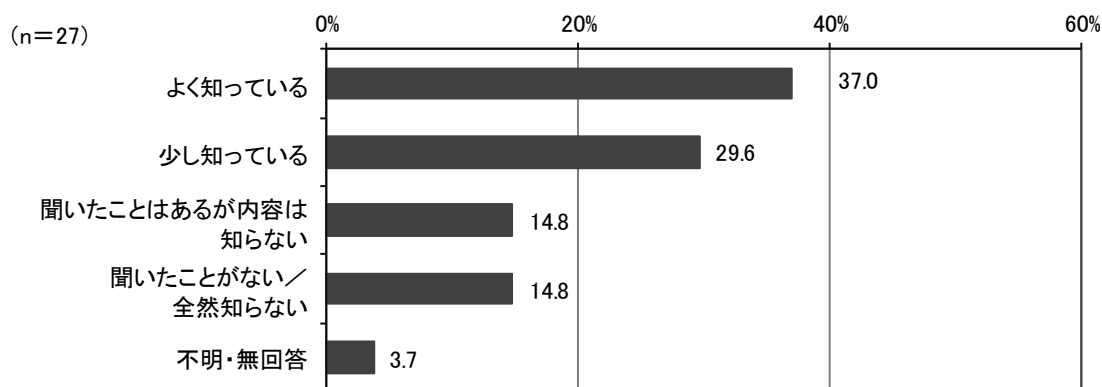
「よく知っている」が48.1%と最も多く、「少し知っている」(33.3%)を合わせた“知っている”は81.4%となっています。反対に、「聞いたことはあるが内容は知らない」(14.8%)と「聞いたことがない/全然知らない」(0.0%)を合わせた“知らない”は14.8%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問 11 「四街道市地域福祉計画」を知っていますか。(単数回答)

「よく知っている」が37.0%と最も多く、「少し知っている」(29.6%)を合わせた“知っている”は66.6%となっています。反対に、「聞いたことはあるが内容は知らない」(14.8%)と「聞いたことがない/全然知らない」(14.8%)を合わせた“知らない”は29.6%となっています。

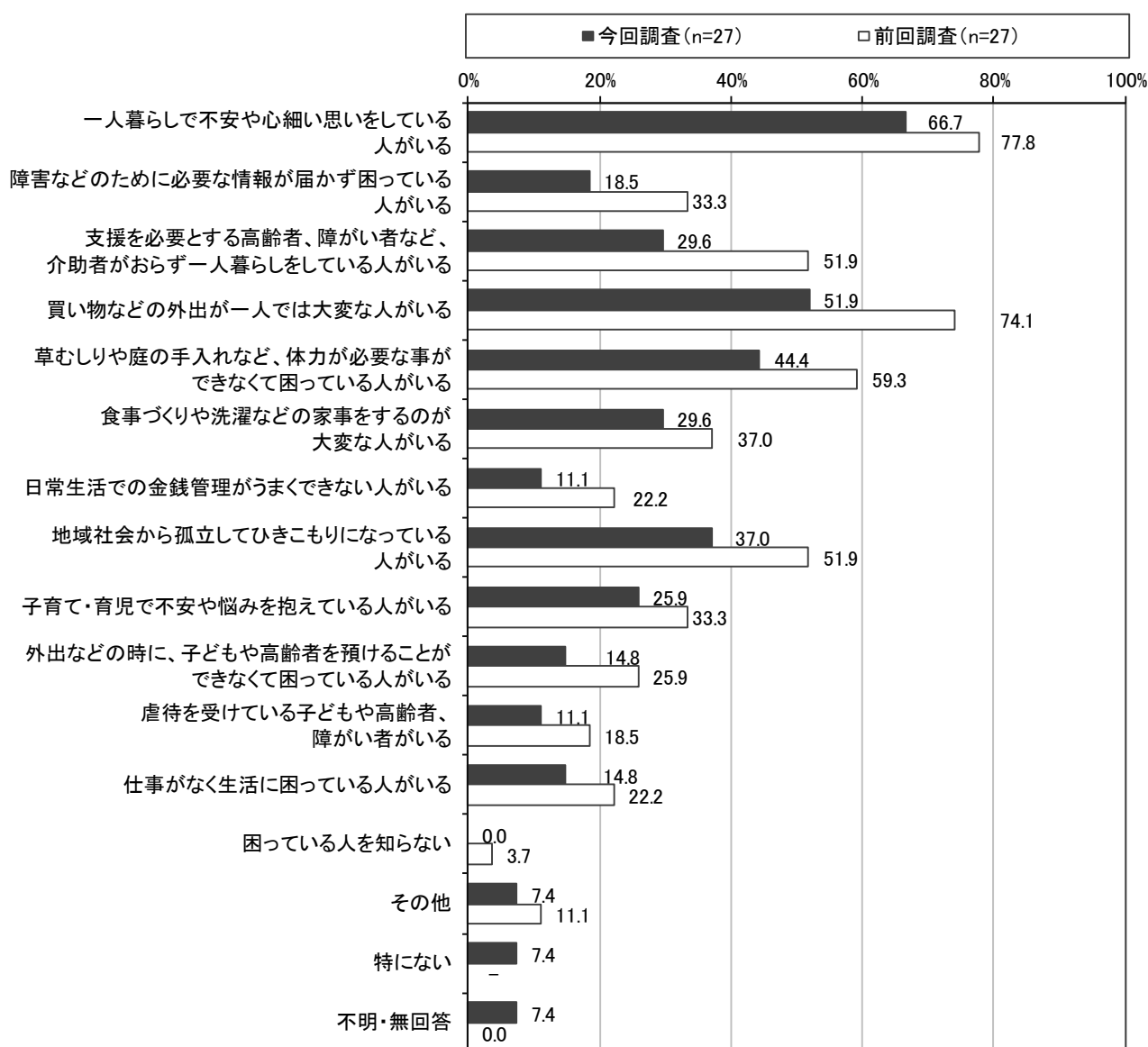


3 団体が活動する地域について

問 12 地域の人が日常生活で困っていることには、どのようなことがありますか。 (複数回答)

「一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる」が 66.7%と最も多く、次いで「買い物などの外出が一人では大変な人がいる」が 51.9%、「草むしりや庭の手入れなど、体力が必要な事ができなくて困っている人がいる」が 44.4%となっています。

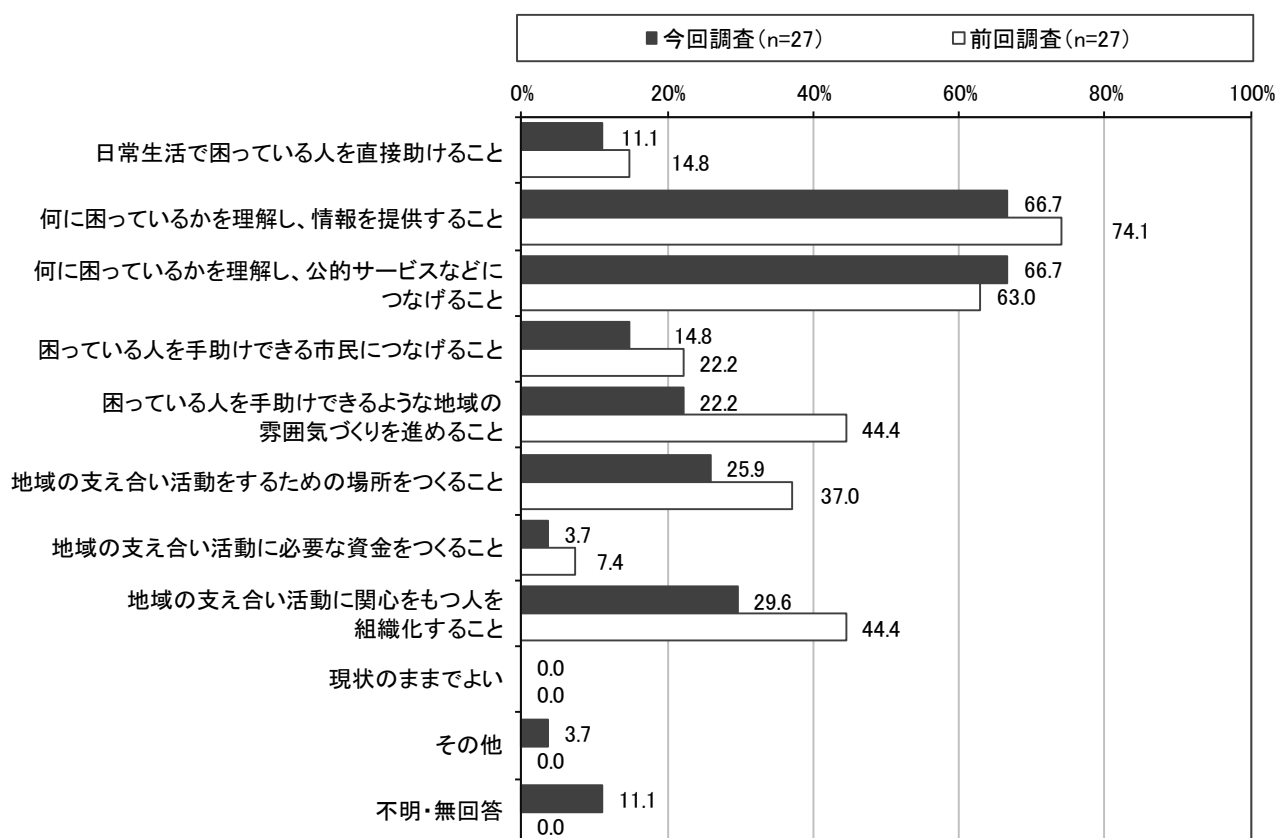
前回調査と比較すると、10 ポイント以上前回より少ない項目が多くみられ、特に「支援を必要とする高齢者、障がい者など、介助者がおらず一人暮らしをしている人がいる」と「買い物などの外出が一人では大変な人がいる」が 20 ポイント以上前回より少なくなっています。



問 13 日常生活で困っている人がいた場合、貴団体ではどのようなことをする必要あると思いますか。（複数回答/主なもの3つまで）

「何に困っているかを理解し、情報を提供すること」と「何に困っているかを理解し、公的サービスなどにつなげること」がともに 66.7%と、最も多くなっています。次いで「地域の支え合い活動に関心をもつ人を組織化すること」が 29.6%となっています。

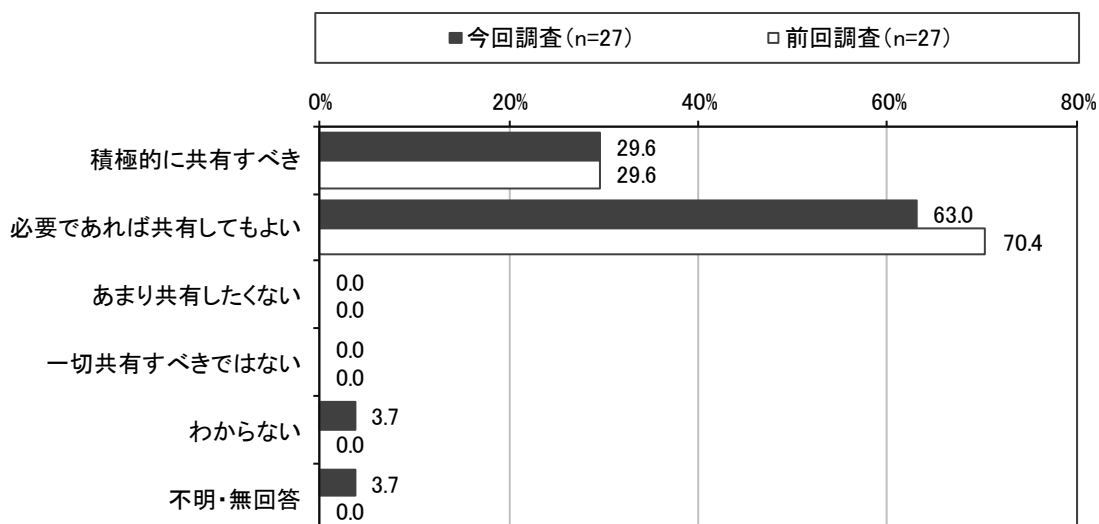
前回調査と比較すると、「困っている人を手助けできるような地域の雰囲気づくりを進めること」が 22.2 ポイント、「地域の支え合い活動に関心をもつ人を組織化すること」が 14.8 ポイント、「地域の支え合い活動をするための場所をつくること」が 11.1 ポイント前回より少なくなっています。



問 14 貴団体では、災害時の支援や孤独死・孤立死の防止などのために、区・自治会などを単位とした支援者が必要な個人情報を共有することについて、どのように思いますか。（単数回答）

「必要であれば共有してもよい」が63.0%と最も多く、次いで「積極的に共有すべき」が29.6%となっています。

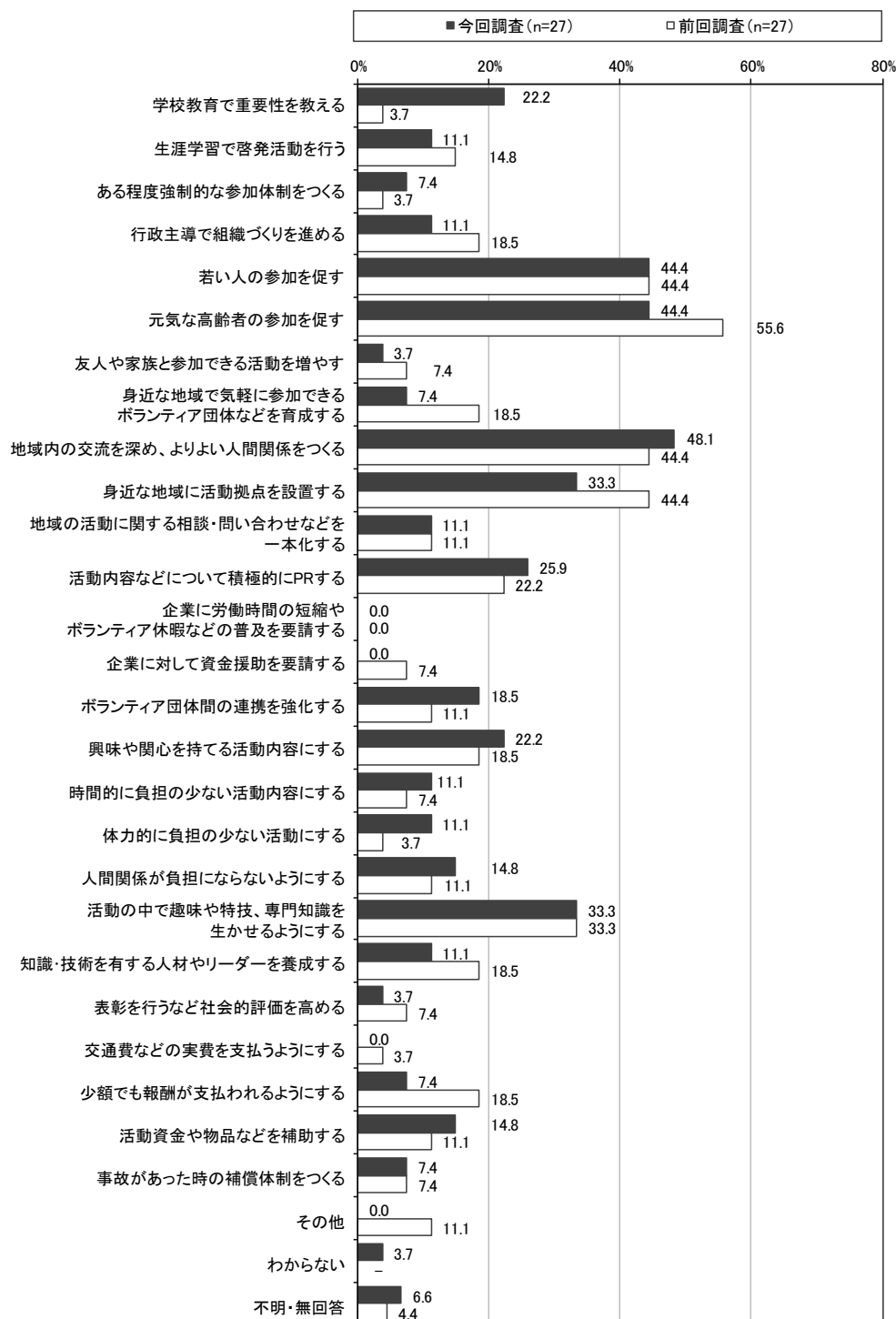
前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問 15 地域での活動が活性化するためには、何が必要だと思いますか。 (複数回答/主なもの5つまで)

「地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる」が 48.1%と最も多く、次いで「若い人の参加を促す」と「元気な高齢者の参加を促す」がともに 44.4%となっています。

前回調査と比較すると、「学校教育で重要性を教える」が 18.5 ポイント前回より多く、反対に、「元気な高齢者の参加を促す」が 11.2 ポイント、「身近な地域で気軽に参加できるボランティア団体などを育成する」と「身近な地域に活動拠点を設置する」と「少額でも報酬が支払われるようにする」がいずれも 11.1 ポイント前回より少なくなっています。



問 16 ふだん活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困り事、地域での問題などをお聞きしますか。（自由回答）

※有効回答件数は 17 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

地域住民の困り事などに関して
年齢的に来館される方は、子育て世代が多いので、子どもの事、子育ての事、遊び場の事、学習面での話がよくあります。
高齢者夫婦が住んでいる方は、近くに家族がいるので大丈夫と話されている。
○買い物に行く事が大変。 ○ゴミ出しが大変（体の問題と、日を間違える）。 ○植木、草取りが大変。
○買い物難民。歩いていける距離に店がなく、食料の買い出しに苦労している。 ○高齢者の居場所。歩いていける距離で、皆が集まれる場所がない。 ○こどもの居場所。気軽に参加できる場所がない。 ○防災、災害が発生した時に、地域でできる対応。支援が必要な人の把握。
○免許を返納し、通院・買い物等がとても不便です。送迎等の対策を要望する。 ○イベント等に参加したいが、足が悪いので参加できない。住まいの近くでサロン等の居場所を作ってほしい。
○認知症の方について。その方の子供達は遠方に住んでおり、年に数回程度来て面倒を見ているが、近所の方は、その方の行動や生活状態を心配している。 ○認知症の夫の行動について、その妻が、近所の方々に迷惑をかけていることが心配でならないらしい。
○高齢者は、地域の活動に参加したくても、足腰に自信がなくなると、参加を控えることが多くなる。 ○高齢者は、買い物や近くの病院に行くにも、タクシーを利用するしか交通種手段のない地域がある ○若い人達は、自治会活動に無関心な人が多い。これからの自治会活動のあり方を考えなければならない。
○移動についての相談。通院のためのタクシー代が、高額で困っている。 ○居場所についての相談。妻が認知症で、長い時間、家を空けられない。見守っている自分は、退屈でたまらない。 ○市役所に公的な手続きをしに行ったが、納得ができず、事務所に立ち寄る。 ○障がい等のある人からの相談。仕事を探している。ボランティア活動などを勧めた。
急速に高齢化が進み、認知症が増えています。
買い物難民。
○高齢になり、買い物に行けなくなった（移動手段がない）。 ○一人暮らしで、もしもの時（病院・介護）が心配。 ○災害時、地域で支援が必要な人が把握できない。 ○歩いていける範囲にある高齢者の居場所。 ○気軽に参加できる子どもの居場所。

家族間や近隣のもめごとから、行政サービスに関する事等、幅広く何でもあります。
○買い物難民の増加。
○一人暮らし高齢者への支援（草取り、植木の手入れ、電球の交換など）。
旧住民と新住民との地域交流があまりなく、新住民は地域に入りづらく、なかなか活動しづらい。
通学路の途中で、カーブミラーが見つらいと聞きます。
発達が気になる子の保護者から、子どもの発達支援の方法について、相談されることがあります。感覚の過敏、コミュニケーションの苦手さ、こだわりの強さなど、気軽に日常の中で相談でき、対応の仕方を教えてもらえる場や親の不安な気持ちを聞く場が必要だと感じます。
困っている人に対応した、団体活動上の困り事に関して
○「高齢者の見守り」について、各団体で連携できないか。
○「児童の登下校時の見守り」について、各団体でもっと連携できないか。
○災害発生時に、どの様に対応すればよいのか不安だ。
○高齢者が高齢者を支えなくてはならなくなっている。その為、老人会活動などに支障が起きてくるのではないかと、懸念される。
将来、若い人の定年が遅くなり、ボランティアや民生委員などの人員不足が課題だと思いますし、人員確保が難しく、困難だと思います。これからは、若い人を職員としたボランティア組織として、進めて頂きたいと思います。
アパート住いの高齢者や障がい者に対し、災害時の支援体制の整備に協力してくれる近隣の住民を見つけることが困難である。
○地区で、グランドゴルフやお祭り等のイベントがありますが、いつも出てこられる方は同じ人で、出てこない人を参加するようにするにはどうしたらよいかが、いつも話題になります。
○アパートが増えていくこの頃、どんな人が入居されているのかが、わからない。又、区費等も払わない。地域のつながりが希薄になっていくような気持で、とても寂しいです。

問 17 問 16 の地域での問題の中で、貴団体の活動として対応できるものにはどのようなことがあげられますか。（自由回答）

※有効回答件数は 16 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

他団体などとの連携による対応に関して
公的機関やボランティア団体、NPO 法人、個人など、それぞれの問題について対応してもらえる所を捜して、あらゆる生活上の問題に対応します。
地域の問題に、PTA がどう関わるのか、関われるかが、わかりません。
（アパート住いの方の災害時の協力体制について）その他の自治会と協力して、援護者を探す。
（買物難民の増加などについて）団体、個人へのリストアップと紹介。
（道路環境について）地域の区長さんに報告しています。
○（買い物が大変なことについて）各自治会で組織されているお助け隊にお願いをする。
○（ゴミ出しが大変なことについて）行政にお願いをする。

地域サロン（地区社協で助成しているサロン）、高齢者サロン、子育てサロン、子ども食堂、学習教室の紹介。
民生委員の方々に、事例をあげて話し、協力を得るようにしています。
地区社協は、地域福祉を推進する為に設置された組織であると認識しています。今後も地域住民のニーズを実現すべく、仕組みづくりに貢献して参りたい。
地域包括支援センターとの連携を密にし、情報を共有して対応することの大切さを、定例会等の場で理解していく必要がある。
八木原の地域福祉館で実施している「櫛」で対応することが多い。居場所であり、働きたいけど働けない障がいや困難を抱えた人には、適度な「やりがい」を感じられる場所のようです。
○サロン。 ○健康づくり。 ○買い物の支援。
○地域の居場所づくりのための勉強会の開講（関係者、開設希望者等）。 ○地域の居場所づくりをしている団体の連絡会。 ○情報交換会開催。 ○地域の居場所づくりをしている団体のサポート。
自団体での対応に関して
子どもの事、子育ての事については、スタッフに子育て世代や子育てが終わった方もいるので、その経験をもとに、話をしたり、悩みに合わせて選書を行って本を読んでもらったりします。また、遊び場については、敷地内にツリーハウスや竹林などの里山もあるため、自然の中で一緒に過ごしたりしています。また、学習面や学校に登校できない子どもに対しては、学習の場として提供することもできます。
本団体は全市を対象として活動している為、地域の活動には中学校区ごとに地域活動に参加し、お手伝いができるように努めている。
スタッフやプレーワーカー（遊び場スタッフ）が、子どもの発達や発達障がいについての研修を行い、困り事を抱える保護者や子どもへの対応を行っています。中高生については、週に一回、室内のフリースペースをはじめ、夕方以降も参加できる場を開催しています。
その他
高齢で無理ができなくなり、それなりの元気をいかに維持できるかと、年を重ねる都度、感じています。しかし、少しでも社会との関わりを大切に、思いやりを持って仲間との活動を続けていければと願っています。

問 18 貴団体が活動するうえで、他の団体に協力してほしいことはありますか。

(自由回答)

※有効回答件数は 13 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

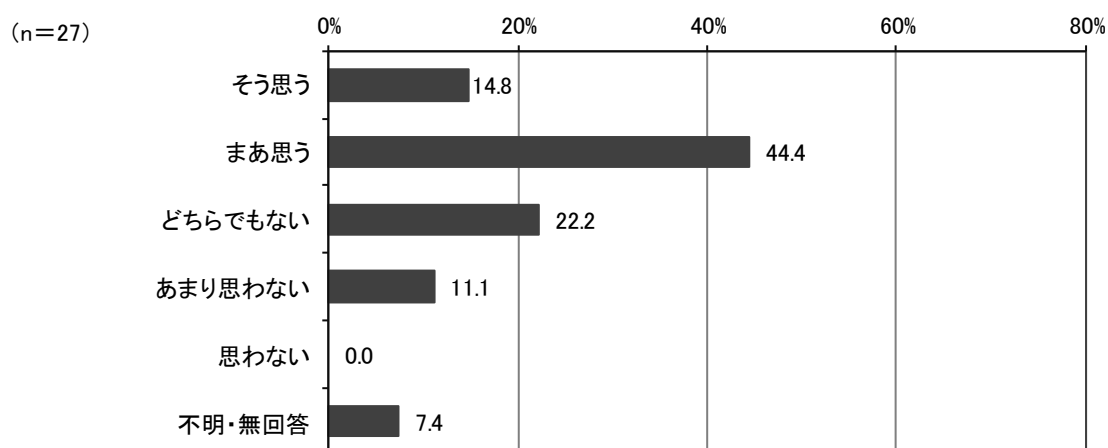
他団体との交流などによる協力体制に関して
チラシを置くなどの広報。
他の団体と手を組んで活動したいと考えていますが、他の団体を知らない為、協力を得ることが出来ない。橋渡しをする部所等があれば、協力し合うことができると考えます。紹介の説明会等が開かれると、理解しやすいと感じます。
各自治会との連携を大切にしたい。
○事業の広報協力。 ○事業のボランティア活動参加。 ○協働での福祉活動。
地域住民の皆様、各団体等の皆様と連携させていただいております。今後とも、その役割を果たしていきたい。
○国レベルで展開される「社会を明るくする運動」は、青少年の健全育成に関わる諸団体の積極的な協力のもと、活動できたらよいと思う。 ○目的を同じくする団体への活動協力ができることがあれば、行いたいと思います。
他の団体との交流の中で、活動の場が広がると良いです。
多種多様な団体が、それぞれの長所、持ち味を活かし、協働による住み良いまちづくりを進める。
今のところ、思いつきませんが、地域（自治会、子ども会など）とは協力しあう必要があると考えています。
情報の共有などに関して
民生委員が地域のすべての状況を把握できるわけではないので、自治会や支え合いの会などに寄せられた相談等は、民生委員に情報を流して下さい。地域全体での見守りが必要な場合には、個人情報に注意しながら協力をお願いします。
情報の共有をもっと促進する。
地区社協の理事、評議員としての参加や部会への参加。
参加者が抱える悩みの共有と、共に支援していく連携体制をつくる。
その他
放課後子ども教室のサポーターを探しているのですが、担ってもらえる方が出てこない。サポーター探しのPR 不足ではないか、と思っている。

4 四街道市の現状について

問 19 日常生活四街道市の地域での支え合いの現状についてどう思われますか。
(単数回答)

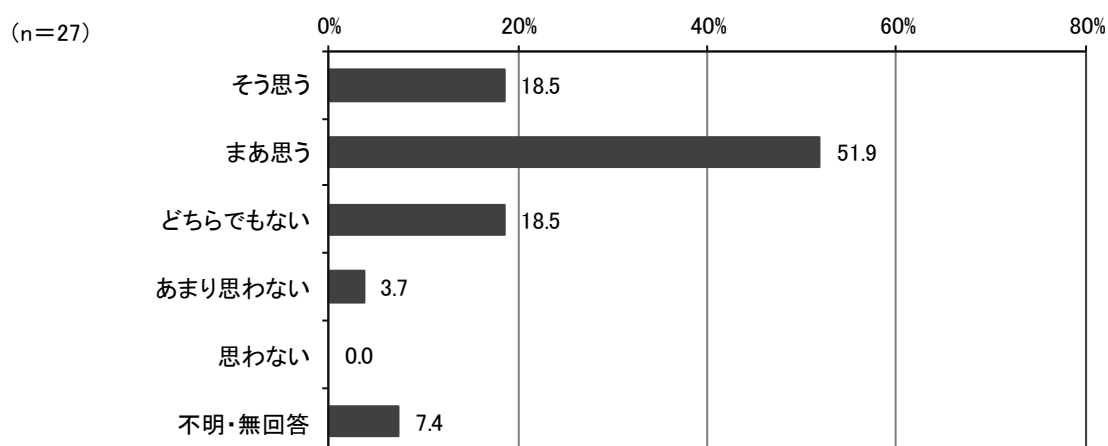
ア 住民同士のつながり・支え合いがある

「まあ思う」が44.4%と最も多く、「そう思う」(14.8%)を合わせた“つながり・支え合いがあると思う”は59.2%となっています。また、「どちらでもない」は22.2%で、「あまり思わない」(11.1%)と「思わない」(0.0%)を合わせた“つながり・支え合いがあると思わない”は11.1%となっています。



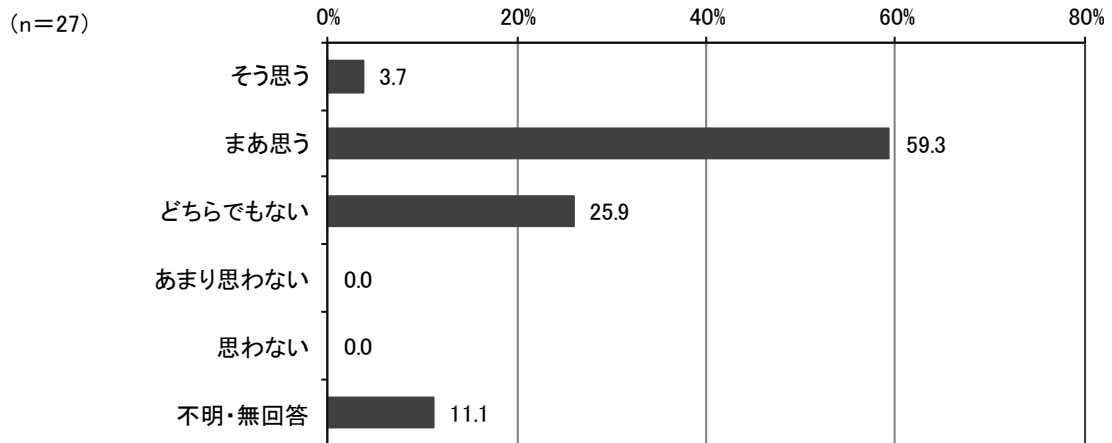
イ 地域で暮らしやすくなるよう、いろいろ取り組んでいる人が多い

「まあ思う」が51.9%と最も多く、「そう思う」(18.5%)を合わせた“取り組んでいる人が多いと思う”は70.4%となっています。また、「どちらでもない」は18.5%で、「あまり思わない」(3.7%)と「思わない」(0.0%)を合わせた“取り組んでいる人が多いと思わない”は3.7%となっています。



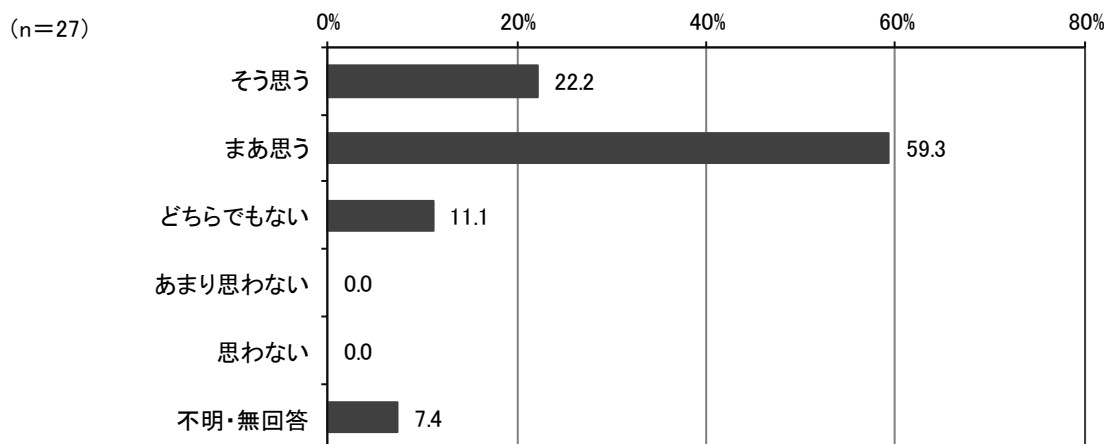
ウ 困ったときには、解決できるよう相談できる／助けてもらえる安心感がある

「まあ思う」が59.3%と最も多く、「そう思う」(3.7%)を合わせた“安心感があると思う”は63.0%となっています。また、「どちらでもない」は25.9%で、「あまり思わない」(0.0%)と「思わない」(0.0%)を合わせた“安心感があると思わない”は0.0%となっています。



エ 暮らしている地域は安心・安全であると感じる

「まあ思う」が59.3%と最も多く、「そう思う」(22.2%)を合わせた“安心・安全であると感じると思う”は81.5%となっています。また、「どちらでもない」は11.1%で、「あまり思わない」(0.0%)と「思わない」(0.0%)を合わせた“安心・安全であると感じると思わない”は0.0%となっています。



5 今後の活動について

問 20 貴団体の活動に関することで、市や社会福祉協議会に対してご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。(自由回答)

※有効回答件数は 19 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

団体の活動支援に関して
四街道は市民活動が活発で、それぞれで頑張っているが、広報などを市でもっと積極的に行い、地域の人々に情報を広げていければと思う。
活動の重点が、ともすれば高齢者に偏りがちと感ずるので、年少者（中学生位まで）に対する、支援活動を考えたい。
元気な高齢者へのボランティア参加を促す事業の設置。
保健推進委員の活動は、主に月曜～金曜日が多いので、仕事を休んでの活動になりますので、土曜、日曜日での活動となること、ありがたいです。
行政や団体間の連携強化に関して
これからの地域社会には、住民の自主的な活動が必須。行政には、活動の現場を直に見てもらい、共に地域づくりを考えていきたい。
子どもは、家庭、学校、地域の3つの場で育っていきます。それぞれの場での育ちを共有し、支援し合うために、連絡会や協議会など、三者が連携する機会とともに、医療機関や専門職ともつながる機会を増やしていただくとよいと思います。
協力をする事です。
○課題について
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域のネットワーク」が構築されていない（連携体制が確立していない）。各団体・市・社会協議会等が、それぞれバラバラな活動を展開している。ボランティアセンター、みんなで地域づくりセンター等を含め、すべてが縦割りになっており、活動が連携できていない。 ・地域ネットワークの要になるのが、地区社協であるにもかかわらず、地区社協の組織が活用されていない（地区社協を、もっともっと活用していただきたい）。
○地域福祉について
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉とは、地域を軸として、福祉政策を展開させることです。 ・社会福祉協議会は、社会福祉法に定められた民間団体であり、「地域福祉の推進を目的とする団体」であることが明記されています。 ・地域福祉を推進することの要が社会福祉協議会であり、それを具体的に展開していくのが、地区社協の役割であると認識しています。 ・本来、市社協と地区社協は、一体の組織であるべきと考えておりますが、現実には、別々の組織になっていると認識しています。 ・市社協の体制等が、地域福祉を推進する体制として、横断的に展開できる組織に変わっていくことの検討を希望します。

団体への活動予算に関して
PTA 連絡協議会の運営については、各 PTA から抽出した会費でまかなう部分が多いので、もう少し市からの補助をいただけたらうれしいです（PTA 連絡協議会の事務局は、大変ご苦労されていると思います）。
地区社協への助成金（補助金）は、これからも継続してほしい。
事業の見なおし等については、日頃活動している団体の意見、考えをお聞きいただきたい。
活動の活性化に伴い、予算の拡大が必要となるため、可能な限りの財政支援を望む。
行政の事業活動などに関して
今回の自粛生活で、閉じこもり生活を続けることになった一人住いの高齢者の方に対する支援策を示していただきたい。
高齢者への支援の充実。特に施設等。
会として登録用紙を提出しておりますが、個々の登録用紙を毎年提出するのが、当事者として面倒という声があがりましたので、団体で許可してもらえたら幸いです。
情報共有に関して
いつもお世話になっておりますが、民生委員に対する情報提供が、もう少しスムーズに行われることを願います。例えば、児童虐待の相談を受け、市に通報すると、既にケースとして扱っている場合が多いようですが、主任児童委員に氏名だけでも教えておいて頂けると、それなりの対応が出来ると思います（細かいことで申し訳ありません）。
訪問介護や介助を受けている方の情報を共有することで、見守り活動での共働ができるのではないかと思います。
人材の確保・育成に関して
ボランティア活動に関しての専門家の育成。
社協の働きには、感謝しております。しかし、将来を思うと大変不安です。定年制度も変わりますし、人員維持が困難だと思います。変革の時代に入ると思います。
移動支援に関して
吉岡、鷹の台地区は、市の中心部からも離れていて、「よっぴい」は走ってない。唯一のバスも本数を減らされ、四街道に行く手段が、車しかありません。四街道の中心部の方々が、利用しやすくするためにも、バスの本数を増やして頂きたい。
移動支援について、行政が中心となって、何か勧められませんか。市民の自発的な助け合いでは、事故についての保証が、車の持ち主である個人の負担になってしまいますので、助け合いは広がりません。社協の移送サービスも、運転者不足と聞いています。運転者に対し、有償活動の形は、できないでしょうか。
活動の拠点づくりに関して
私達の団体は、活動拠点を持っていない。拠点づくりの協力を考えてもらいたい。
その他
各地域の実情に合わせて活動していく。
市、地区社協の活動には、本団体の会員として参加させていただいているものが多くある。これからも、子育て支援や高齢者の活動、青少年への支援などを協力していきたい。

問 21 貴団体の活動として、今後行政との協働でどのようなことに取り組めると思われますか。(自由回答)

※有効回答件数は 16 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

困っている人などへの支援に関して
行政の支援が得られるのであれば、子育て支援や高齢者支援などの地域福祉活動をさらに広げることができる。
私達は PTA なので、基本的には「子ども」に関することがメインです。しかし、子どもの見守りなどを地域の皆様をお願いしている部分もあることから、地域と子ども達の交流などがあれば、協力していけるのではないかと思います（PTA 連絡協議会の意見ではなく、個人的見解です）。
学校、PTA との協働での子育て。
子ども達や中高生の声を聞く機会をつくる際には、場の提供（野外の方が話しやすい）や、子どもや親の相談の場を提供できます。また、これまでの経験を生かして、中高生の居場所づくりを広げていくことが可能です。
3歳6ヵ月児検診時に、応援として「食べたら（歯を）みがこう」という指人形劇を行っています（参考しての情報です）。
活動拠点を整備することにより、何か起きた時（問題）は、とりあえずそこに行って、いつでも相談出来るという安心感が生まれると良い。
災害時や今後起こるかも知れない多重災害時に、民生委員としての役割や出来ることを話し合っていきたいです。
再犯防止に向けた取り組み。
行政や団体との連携に関して
地域の支え合い活動について、自治会の協力を得られるような、情報発信、会合の場を設ける必要を感じます。
地域の身近な相談者として活動しているが、今後についても、住民が安心して地元で暮らしていくために、行政サービス等の必要な人については、つなぎ役として、情報提供をし、又、その中で地域での支援も必要な人については、情報共有や連携をして、働きかけをしていきたい。
福祉連絡会議などへの参加。
協力をする事です。
いろいろな事はできると思います。まずは行政の方が、どのような現状かを、現場を見て一緒に考えることが大切だと思います。
○地域内の少人数で取り組むサロン活動（飲食を含む）に対して、柔軟に対応できないか。 ○スポーツ・ゲーム大会等に於ける商品の提供について。
その他
福祉政策課の皆様には、大変お世話になっています。私達の活動が、より活発に成果のあるものになるよう、御指導をお願いしたい。

私共の活動は、わろうべの里を拠点として、一年を通しての行事が企画されており、メンバーも高齢化になっていますので、精一杯、行事を楽しんで行っています。

問 22 その他、地域福祉の推進についてご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。(自由回答)

※有効回答件数は 15 件でした。個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、分類項目に沿って回答を分割しています。

助け合い・支え合いの地域づくり・人材育成に関して
将来、ますます少子高齢化が進むので、その対策に協力・参加する若人の教育、発掘が急務と思う。地域住民が支え合うことができるまちになればよいと思います。
若い方達は仕事で忙しく、なかなかボランティア等には参加されませんが、元気な高齢者の方に参加してもらうのは、いいと思います。高齢者の方達も、少しでも収入になれば有り難いと思うので、その辺のところも考えていただくと、いいと思います。
70歳迄仕事をしなければならぬ時代になり、将来、地域福祉を担う人がいなくなってしまうのではないかと。また、今回の「コロナ渦」の中で、ボランティアによる福祉活動が休止し、集う場所もなくなってしまった。このような社会の現状で、「地域を支える」とか「地域で助け合う」とか、どんな姿を目指していくのか。新しい地域福祉の考え方が生まれてくるのでしょうか。
○お互いに支え合う(支える人=支えられる人) ことについて ・現状の福祉政策は、支える人と支えられる人が明確に区分されておりますが、一方的に支えてほしいと思っている人は、ごく少数で、大半の人々は、常に支える側の人でありたいと思っていることが、地区社協の活動の中で確認できました(活動に参加することが、すべてボランティア活動)。 ○高齢者の活用について(経験豊富で、元気な高齢者が多くいます) ・ポイントは、高齢者の活躍の場をいかに提供できるかということです。地域内には、いろいろなノウハウをお持ちの方や、専門知識等をお持ちの方等、経験豊富な高齢者が多くおり、地域のために何か役に立ちたいと思っています(地域内は、人材が豊富です)。また、高齢者の皆さんは、自分の活躍できる場を望んでいます。
行政による施策に関して
支援を必要としている方(家族)に対し、より良い支援が行える施策を期待したい。
地域包括ケアシステムの体制づくりの動きが始まってきているが、在宅で生活している障がい者(特に精神)の方に対し、事業への支援充実が必要だと思います。
100人程度の懇親会ができる場所の充実。
情報共有に関して
民生委員や各ボランティアからの情報が、反映できるようにしていきたい。
例えば、包括支援センターやヘルパー等に関わっている人と、情報共有ができれば助かります。
活動予算などに関して
四街道市は、高齢者が増えている。この人達が集まれる場を作りたいと自治会等が考えているが、予算が無い。補助金等を作り、サロンを開く助けになるように考えて下さい。

地域福祉予算の充実
団体間の連携に関して
現在、社会情勢の変化により、地域の福祉問題は複雑化しており、1つの団体だけの活動では、諸問題への対応をカバーしきれない。これからの地域福祉は、様々な団体が協働して課題に取り組む必要があり、行政には各団体が連携しやすい環境整備について、リーダーシップをもって進めてほしい。
移動支援に関して
市内循環バスの路線増や乗合いタクシー制度など、住民の足の利便化。
その他
PTAとして、地域福祉について、ご協力できる範囲内で協力できればと考えております。引き続き、宜しく願い申し上げます。
行政として無駄な支出がないよう、大切な税金を有意義に運用して頂きたいと存じます。切に願っております。

IV. 団体意見交換会・まとめ

1 第1回意見交換会の主な意見

■団体活動の担い手不足に関して

【課題・問題について】

- メンバーの高齢化が問題。新しく活動メンバーを募集するのだが、近年では定年が伸びて、仕事をされている方が増え、ボランティア活動につながらない。
- ボランティア団体においても、メンバーの固定化と高齢化は課題となっている。
- 地域の人たちの高齢化が進み、保健推進委員に推薦することが大変という感じで、区・自治会長は悩んでいる。
- 民生委員も、メンバーが固定化し、欠員になっても補充ができない状態にある。

【課題解決について】

- 若者のボランティア育成が重要。幼稚園・小学生などの小さい頃から福祉について学ぶ事で、大人になっても活動につながることから、福祉教育に力をいれる必要がある。

■団体間の協力・連携に関して

【課題・問題について】

- 高齢者の見守りについて、各団体でもっと連携できないのか。民生委員や自治会の人などと連携を強化できないのか。具体的に児童の登校時の見守り活動をしているが、そういったものについて、もっと各団体連携できないのかと思っている。
- 様々な団体と連携し、各団体の特色を十分発揮することができるネットワークづくりが課題。

【課題解決について】

- 各自治会と意見交換をしながら進める。
- 連携体制の確立に取り組む事が、地区社会福祉協議会の役割と認識している。課題対応した取り組みを各地区に水平に展開し、具体的な施策に落とし込んでほしい。総合的な施策ではなく、優先順位をつけて、具体的に展開できるような施策を作ってほしい。
- 困っている人に対しては、民生委員や自治会に協力をお願いしている。
- 地域の支援ネットワークづくりで大切なのは自治会である。しかし、社会福祉協議会を通じて支え合い会議をやっているが、なかなか自治会の方が来られていない。行政から自治会長を呼ぶなど、行政がサポートをしながら地域の支援ネットワークを完成させていくことが大切。
- 民生委員として活動する中でも、自治会との連携が非常に重要。

■社会福祉協議会の活動に関して

【課題・問題について】

- 活動している中で、様々な制約があって、活動が難しいとアンケートで書いてくる人がいた。それに輪をかけて、金銭的な縛りが多く、やりがいを感じられない。
- 地区社会福祉協議会の地域活動の枠組みが大きいのではないか。小学校単位なら、もう少し地域福祉が手に届く。
- 地区社会福祉協議会のメンバーが高齢者であるため、若い人などは、なかなか活動に参加してくれない。子育て支援に関しても、年代が違うから、上手くいかない。
- 地域に困っている人が、どれくらいいるのかが掴みづらい。また、自分の地域で支援してやろうという人も、掴みづらい。
- 四街道市は、面積は狭いが、各地区にそれぞれ固有の課題があり、課題の把握が正確にできていないというのが問題と思う。

【課題解決について】

- 民生委員の活動の中で、公的機関につなぐことや、困った人に情報を提供することが主な活動だが、直接家に訪問しているのも、ほとんどが民生委員。社会福祉協議会や自治会の人は、家まで訪問しない。家庭の困り事や人数の把握するのは、民生委員が1番先にできると思う。この民生委員の役割を上手く活用できる仕組みづくりを、さらに発展させる必要がある。
- 困っている方をいかに早く必要なところにつなげるかが、非常に重要。社会福祉協議会では、たくさんの相談機関をもっているし、そういうところとつながっている。地域の中に必要な情報が必要なおところに流れて、困った人がいた時に、速やかにつなげられるような仕組みを作る事が重要。

■民生委員の活動に関して

【課題・問題について】

- 個人情報の問題があり、積極的に住民の情報を得る事ができない。そのため、各サロンや社会福祉協議会の様々な行事に関わりながら、そこから情報をいただくという形に変わってきているが、その参加が多くなり、本来の仕事に負担を感じている。
- 個人情報については、「民生委員がなんでそんな事知っているのだ」というクレームが、いくつかある。
- 民生委員がもっている個人情報を、地域の自治会などに伝えられないから、自治会などとの連携が上手く取れない。

【課題解決について】

- 民生委員の活動をもっとアピールするとともに、民生委員を上手く活用する仕組みづくりをバックアップしてもらえると、民生委員の人たちはボランティアの気持ちが凄くあるので、解決につながると思う。

○一人暮らしのほとんどの人にヘルパーさんが入っているが、ヘルパーさんがもっている情報を共有ができればいいと思っている。

■活動拠点に関して

【課題・問題について】

- おかげさまで地区社会福祉協議会では、すでに4地区の拠点を設置し、5つ目を設置する予定だが、こちらは問題ないと思っている。
- 北中学校地区の地区社会福祉協議会では活動拠点について、空き家の民家を活用した拠点をつくり、皆の集いの場所になっている。行政の方が中心になってスキームを作った。そういうスキームを行政が作ってくれないと、具体的に話が進まない。

■地域活動への参加促進などに関して

【課題・問題について】

- 高齢者の会は、高齢化のため、メンバーが減っていく。市からの補助も受けられない。補助がでないからお金を使う行事が出来ない。そうすると皆が集まらないから、どんどん縮小されていく。このような悪循環を、高齢化に対する行政の考え方の中で、制度的に上手く対応してもらいたい。
- 高齢者の貯金体操に来る人が固定化している。
- 区・自治会長が悩んでいる事は、自治会の行事などの参加者の固定化で、普段出てこない人がどうすれば出てくるようになるのかを模索中。
- 地域活動などに参加しない人に対し、民生委員として、どのように働きかけていけばよいか課題。

【課題解決について】

- 区費を払っていない家庭のお子さんでも参加できるよう、うちの地区では月に1回コスモスの会を開催し、そこで、ちぎり絵づくりとか料理づくりとかをやっている。

■災害時の対応に関して

【課題・問題について】

- 災害の発生時に、どのように対応すればよいかの体制づくりが必要。
- 私の区では災害時の支援体制はとれてない。

【課題解決について】

- 行政を通じて、自治会に協力を働きかけてもらい、支援体制の重要性などをもっと明確にもらうと、民生委員としてやりやすくなる。

■移動支援に関して

【課題・問題について】

- 交通の便が悪く、運転免許を返納して買い物等が不便な人がいる。
- 高齢者や障がい者の移動手段について、有効な手段はそんなに多くなく、むしろ少ない。特に、コロナ感染の影響でボランティア活動が自粛している時は、移動に困った人が浮き彫りとなり、大きな課題だと感じている。
- 施設が離れたところにあり、車の運転をして、誰かを乗せて行かないといけない時がある。その人員を増やしていかなければならないというのが、今の悩み。
- 中学校向けのスクールバス化している路線バスがあるが、生徒の都合の良い時間に合っていない。
- 四街道中学校地区にはヨッピーバスがない。駅の北側はあるけれど、南側にはバスがない。高齢者のためにも、若い世代の車が無い人のためにも、ぜひ市の政策の方で考えていただきたい。

【課題解決について】

- 学校や地域の方に、都合の良いバスの時間帯を聞いてもらえば、乗る人が増える事もあると思う。

■その他の地域住民が困っていることなどに関して

【課題・問題について】

- イベント等に参加したいけれど、足が悪くて参加できない人がいる。住いの近くで、居場所を作ってほしい。
- 子どもが少ない、子ども会がなくなった。今いる子どもたちをどうやって楽しめるようにしたらいいかについて、区長さんは悩んでいる。
- 区費を払わない人が増えてきて、地域のつながりが希薄になっている。

【課題解決について】

- シニアクラブなど、他の団体と上手く連携をとり、協力してもらうことは有効（草刈り、交通安全の旗振りなど）。

■包括的な相談体制などに関して

【課題解決について】

- 地域包括支援センターでは、高齢者に対する対応はしてくれるが、一人親家庭や子どもには対応していない。これからの事を考えると、高齢者以外の人にも対応してくれると助かる。
- 子どもの相談などについて、私たちが教育委員会や市役所に相談に行くと、「それは学校の問題だから」とか「それは市役所の方に」とか言われたりするため、子どもに対して包括的に相談を受け付けている場所を1カ所（ワンストップ）に定めてもらえると助かる。
- 地域で相談所を設けるには、PRの仕方を考えないと駄目。

- 各地区の総合相談窓口が必要になってくると思う。障がい者はこっち、高齢者はこっち、子どもはこっちと言うのではなく、そこへ行けばある程度相談にのってもらえて、そこから交通整理してくれるところが必要になってくる。
- 参考として、ひまわりサロンは、社協と民児協と自治会がそれぞれ分担し、全く同じ立場でやっている。

2 第2回意見交換会の主な意見

■団体活動の担い手不足に関して

【課題・問題について】

- 高齢化で、活動の継続が可能なのか。また、後継者をどうしていけるのかが不安。
- 担い手不足と活動を継続していくための準備が課題。
- 若い方が入ってこない、どう次につないでいくかが悩み。

■子どもに関して

【課題・問題について】

- アンケートを見ても、子どもの意見が全然出てこない。子どもたち自身の声が出てきにくいし、表立って出てこない。
- 子どもたちの福祉を考えると、発達が気になる子が増えてきている。それに悩む保護者の方が相談されるケースが多い。
- 中高生の居場所が少ないのも問題。
- コロナ禍の中でストレスがたまり、もやもやしている子どもがおり、親たちも心配している。

【課題解決について】

- 施設のホールなどを開放してもらえれば、コロナ禍の中で、工夫しながら乳幼児の人形劇などから始めていこうかと話している。

■障がいに関して

【課題・問題について】

- 障がいをもつ子どもの親御さんが亡くなっている人、片親の人、75歳以上の人もかなりいる。それが一番重くのしかかっている。
- 私たちは、ちょっとした助けが必要な人たちではない。現在コロナ禍で、通所先などの行くところがなく、家にいたら家族がバラバラになっていく、というような人もいる。
- 話を聞いていると、自分たちは、隔離されたところにいると感じた。自分たちが困っていることをいっぱい言っていけばいいと思うが、言う場所が限定されていて、声を出していく場所がない。
- 子どもたちの発言の場所がないというのは知的障がいも同じ。自分たちを置いてきぼりにせず、自分たちで発信できることは発信するというのが、全国的になってきている。
- 会のメンバーの高齢化が進んでいる。肢体不自由児は毎日の介護で手一杯。100kg近い車いすを押したりしないといけないので、どのお母さんも本当に疲れている。
- 成年後見人の話をきいて、親亡き後のことが、一番の心配事。

○障がい者が外に出ていくことの大切さ、自分たちの中で固まってしまっていたら、普通の人が障がい者にどうかかわっていったらよいのかわからないということを教わったので、できる限り電車など公共交通を発達させるためにも車いすで出かけたりしていた。しかしどっと疲れてしまうこともある。

【課題解決について】

○つながらないからわからない、発展しないのだと気づいた。今回こういう場を設けていただいたことで、つながることができたのが大きな収穫。

■活動への参加促進などに関して

【課題・問題について】

○活動への協力や参加を増やしたい。

■高齢者等の移動支援に関して

【課題・問題について】

○親が高齢者となって、いつまで送り迎えできるのかという問題がある。これからどうしたらよいのか、悩んでいる。

○四街道方面からのバスが4月から減らされてしまい、四街道方面からスタッフで来てくれている方が、旦那さんや他のスタッフに送り迎えをしてもらっている状況となっている。スタッフをやりたいて言ってくれても、足がなくて来てもらえないのが問題。

■活動拠点に関して

【課題・問題について】

○場所がないということは、何も活動ができない。当会は全国組織があり、組織的に大きな地域では、活動場所を自分たちで持っているところもあるが、四街道市はそこまで力がなく、お借りして全部をやっている状態なので、どう打破していったらよいかかが悩み。

■地域づくりセンターに関して

【課題・問題について】

○皆さんが抱えている課題を詳しくお伺いして、地域づくりセンターにも相談として電話がかかってくることもあるが、「会とそれを必要な方とつなげる場所がない」、「自分たちの場所をもっと知ってもらおう場があったら」という話があったので、お手伝いできることがあるのではないかと思った。これからセンターに持ち帰って検討していきたい。

【課題解決について】

- 団体の情報発信と会議のつなげる場の提供は、地域づくりセンターとしても力を入れてできること。今日も顔を合わせて話すことで、こんなこともできる、こんなことをしてもいいんだということが分かって素敵な場だった。センターとしてもこういった会を企画することができるので、お声かけさせていただきたい。
- 地域で助け合いをできる部分をつなげていくということが、地域づくりセンターの仕事の範疇かと思うので、そこを充実させていくことが大事だと思った。

■その他

○場とか情報の共有が課題。今回の話を聞いていて、こういう団体があるのだとか、こういう活動しているのだとか、こういうことに困っている人がいるのだとか、こういう人をあそこにつなげられるといったことが出てきたので、こういう場を積極的に作ってもらえるとよいと思った。